

令和6年度第1回越谷市文化財調査委員会

日 時 令和6年7月4日（木）午後2時～
会 場 越谷市役所第二庁舎3階 教育委員会室

次 第

- 1 開 会
- 2 報告事項
 - （1）文化財保護事業結果について
 - （2）文化財保護事業計画について
- 3 協議事項
 - （1）文化財指定について
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

— 越谷市文化財調査委員名簿 —

(任期：令和5年8月1日～令和7年7月31日)

(50音順 敬称略)

No.	氏 名	所属・役職等	任 期
1	いた がき とき お 板 垣 時 夫	埼玉県文化財保護協会 副会長	R7.7.31 まで
2	か とう こう いち 加 藤 幸 一	元越谷西特別支援学校 教諭	R7.7.31 まで
3	たか さき こう じ 高 崎 光 司	元埼玉県立越ヶ谷高等学校 教諭	R7.7.31 まで
4	はし もと ゆういちろう 橋 本 雄一郎	越谷市立平方小学校 主幹教諭	R7.7.31 まで
5	はた の ひで あき 秦 野 秀 明	NPO 法人越谷市郷土研究会 副会長	R7.7.31 まで
6	はやし たかし 林 貴史	久喜市文化財保護審議会 委員	R7.7.31 まで
7	や ぐち たか えつ 矢 口 孝 悦	元羽生市教育委員会 事務局職員	R7.7.31 まで

2 報告事項

(1) 文化財保護事業結果について〔令和5年度実績〕

①文化財の指定及び解除に関すること

特になし

②埋蔵文化財の発掘に関すること 【資料1】

試掘調査を7か所、発掘調査を9か所実施。

(1) 試掘調査

試掘調査7か所の内、1か所で遺跡の広がりを確認。

- ・＜西口遺跡の範囲拡大＞大成町一丁目地内（遺跡の隣接地）における、個人住宅建設に伴う試掘調査。

遺跡の広がりが確認できたため、埋蔵文化財包蔵地の範囲を拡大。

(2) 発掘調査

発掘調査9か所実施。

- ・＜西口遺跡＞ 個人住宅建設にともなう発掘調査。調査区は元荒川右岸、自然堤防上の8区画分。調査は国庫補助を利用して実施し、奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀後半）及び江戸時代の溝、土坑、ピットを調査。
- ・＜大道遺跡＞ 西大袋土地地区画整理事業に伴う大道遺跡の調査。調査区は大道神社南東側の約500㎡。中世の火葬土坑、板碑が廃棄された土坑、香炉が出土する土坑など約200遺構を調査。調査の結果、中世の遺物を含み、江戸時代には埋没した溝が東側へ延びることが確認出来たことから、埋蔵文化財包蔵地を東へ約3,700㎡拡大した。

(3) 出土遺物の保存処理

- ・大道遺跡出土品5点（木製櫛・木製椀・下駄3点）の保存処理を実施。

③無形文化財の助成に関すること

特になし

④指定文化財の修理復旧又は滅失、き損防止の措置に関する事 【資料2】

越谷市文化財保存事業費補助金交付要綱に基づき、1 件の事業に対し補助金を交付した。

・県指定文化財「木造伝正観音菩薩坐像」の修理事業へ 1,087,000 円（総事業費：4,348,174 円）

⑤指定文化財の現状変更の許可及び環境の保全のため必要な施設の勧告に関する事

特になし

⑥指定文化財の買収に関する事

特になし

⑦文化財の出品公開に関する事 【資料3】

指定文化財の所有者によるご開帳が4回、保持団体による民俗行事が1件実施された。

国指定重要文化財「木造地藏菩薩立像」（浄山寺）、県指定文化財「木造伝正観音菩薩坐像」（林泉寺）、市指定文化財「木造阿弥陀如来坐像」（清浄院）はご開帳の際に公開されている。

また、例年7月に実施されている民俗行事「下間久里の獅子舞」は新型コロナウイルス感染症の影響により下間久里香取神社内での奉納舞のみとなり、「北川崎の虫追い」は7月24日に通常に行われた。

⑧その他、文化財の保存及び活用に関し必要と認める事項

< ⑧—1 文化財調査委員会に関する事 >

(1) 文化財調査委員に関する事

○第1回文化財調査委員会

日 時 令和5年8月1日（火）午前10時～

内 容 ・ 委嘱式
・ 文化財保護事業結果について
・ 文化財保護事業計画について

○現地研修会

日 時 令和5年10月27日（金）午後1時半～

視察先 市内文化財関係施設

○第2回文化財調査委員会

日 時 令和6年2月1日（木）午後3時～

内 容 ・ 指定文化財候補について
・ 文化財保護事業結果について

< ⑧—2 文化財の施設管理に関する事 >

大間野町旧中村家住宅、旧東方村中村家住宅、文化財資料保管庫（旧荻島公民館）において、適切な管理及び公開・活用に努めた。

【対象施設】

No.	名称	所在地
1	越谷市保存民家「大間野町旧中村家住宅」	大間野町 1-100-4
2	越谷市指定有形文化財「旧東方村中村家住宅」	レイクタウン 9-51
3	文化財資料保管庫（旧荻島公民館）	大字南荻島 185-1

(1) 職員体制（大間野町旧中村家住宅・旧東方村中村家住宅）

No.	職種	大間野町旧中村家住宅	旧東方村中村家住宅
1	再任用職員	1 名	0 名
2	会計年度任用職員	2 名	3 名
	計	3 名	3 名

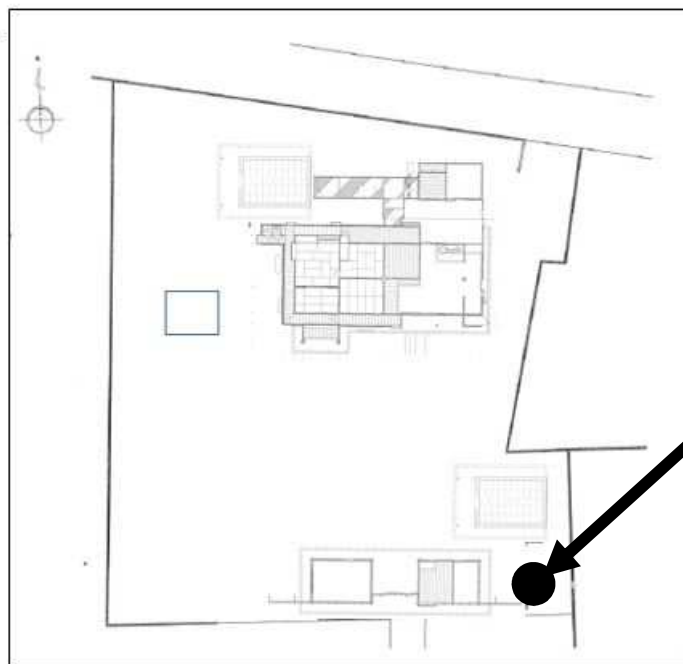
(2) 施設の利活用 **【資料4・5・6】**

No.	項目	大間野町旧中村家住宅	旧東方村中村家住宅
1	開館日 (前値日)	307 日 ▲2 日	311 日 4 日
2	入館者 (前年比)	1,982 人 411 人	3,611 人 748 人
3	入館料 (前年比)	82,670 円 4,170 円	99,720 円 ▲19,850 円
4	活用事業 (伝統文化体験講座)	10 事業(参加者:342 人)	10 事業(参加者:723 人)
5	学校利用	5 校 368 人	6 校 612 人
6	行政財産使用許可	53 回	0 回
7	フィルムコミッション	1 回	0 回
8	その他活用	—	1 回 45 人

(3) 施設修繕及び設備点検など

No.	区分	大間野町旧中村家住宅	旧東方村中村家住宅	文化財資料保管庫 (旧荻島公民館)
1	修繕	5 件	5 件	1 件
2	工事	なし	なし	なし
3	備品購入	2 件	なし	なし
4	電気機械設備点検	実施(毎年)	実施(毎年)	なし
5	特定建築物定期調査	なし (次回は令和7年度)	なし (次回は令和7年度)	なし
6	警備委託 委託先	火災警備 セコム株式会社	火災・防犯警備 総合警備保障株式会社	火災・防犯警備 セントラル警備保障株式会社
7	防火施設保守管理	実施(毎年)	実施(毎年)	実施(毎年)
8	浄化槽保守管理	実施(毎年)	なし	なし
9	受水槽等清掃	実施(毎年)	なし	なし
10	庭園管理	実施(毎年)	実施(毎年)	なし
11	植木管理(高木剪定)	実施(毎年)	なし	なし
12	害虫駆除	実施(毎年)	実施(毎年)	なし
13	草刈	なし	なし	実施(毎年)
14	防犯カメラ	設置(2台)	設置(2台)	なし

樹木伐採（大間野町旧中村家住宅）



伐採したクスノキ



樹木医による樹木診断状況（外観診断） キノコ及び空洞（処理済み）



クスノキの断面

< ⑧—3 文化財調査事業に関すること >

(1) 文化財基礎調査 **【資料7】**

No.	区分	件数	内容	件数	内容
1	埋蔵文化財	25 件	発掘調査	9 件	西口遺跡・大道遺跡
			試掘調査	7 件	大泊消防指令センター 他
			立会調査	3 件	西口遺跡
			資料調査	0 件	なし
			整理作業	6 件	西口遺跡・大道遺跡
			報告書作成	0 件	なし
2	基礎調査	32 件	資料調査	0 件	なし
			諸家文書調査	1 件	所在確認調査
			民俗調査	2 件	山車調査・シメブチ調査
			石造物調査	1 件	大沢地区・荻島地区
			その他	28 件	近代教育 150 周年、戦後 80 年、関東大震災、忍藩領石分杭、デジタルアーカイブ搭載写真など

< ⑧—4 文化財の普及に関すること >

(1) 「郷土資料館のあり方」検討 **【資料8】**

市が所有する歴史資料等の整理を実施し、郷土資料館の展示や収蔵、活用を検討する際に必要な情報収集を行う。

No.	区分	内容	結果
1	民具類の整理	旧荻島公民館で保管している民具類を一点ずつ確認し、既存目録の内容を確認する。また公開の写真を撮影する。	目録上登録点数 1,794 点のうち、実物確認・写真撮影終了点数 1,362 点。残る 432 点は令和 6 年度以降に実施。
2	中核市等への状況調査		民具整理を優先したため、実施なし。

(2) 越谷市文化財ボランティア活動（新規募集なし）

本市に残る貴重な文化財を後世に継承するため、文化財の保存と活用を促進する担い手としての文化財ボランティアを養成することを目的に、平成 30 年度に文化財ボランティア事業を試行的に実施した。

その結果、ボランティア活動で文化財保護行政に対し一定の成果が得られ、活動期間終了後のボランティアへのアンケートでも肯定的な意見が多かったため、令和元年度から「越谷市文化財ボランティア活動要項」を定め、継続的な事業として実施している。

No.	区分	内容・結果
1	登録者数	23 名
2	活動内容	①デジタルアーカイブでの公開を目指し、市所有の『越谷市諸家文書目録』掲載の古文書 8 点について、翻刻作業を実施 ②越谷市諸家文書目録の資料題名・年代等の確認・修正作業 ③発掘作業
3	活動人数	5 人 (のべ 9 人)

(3) 文化財講演会の開催

デジタルアーカイブ公開記念講演会と兼ねて実施。

No.	区分	内容・結果
1	目的	市民を対象に郷土の歴史や文化財に関する講演会を実施し、郷土の歴史や文化財の普及と啓発を図る。
2	日時	令和5年8月26日(土) 午後1時30分～午後3時30分
3	会場	中央市民会館5階 第4～6会議室
4	共催	NPO法人越谷市郷土研究会・越谷市教育委員会
5	講師	【前半の部】 デジタルアーキビスト 入江 真希氏(TRC-ADEAC 株式会社) 【後半の部】 生涯学習課職員(菟原主幹)
6	テーマ	【前半の部】 越谷市デジタルアーカイブでどんなことができるのか？ ～探す・見る・活用する～ 【後半の部】 「忍領の碑」はどこにあったか？ ～デジタルアーカイブの活用事例～
7	経費	講師謝礼 34,000円、講師飲料代110円
8	参加者	73人(定員110人)

(4) 文化財説明板の設置・修繕

文化財説明板の修繕を4か所実施した。

No.	区分	内容	指定名称	所在
1	市指定	修繕	観智国師書状	大泊(安国寺)
2	市指定	修繕	安国寺の円空仏	
3	市指定	修繕	木造阿弥陀如来立像	
4	市指定	修繕	林泉寺の香炉	増林(林泉寺)

(5) 文化財に関する展示の開催

【資料9】

文化財に関する展示を3事業行い、1,685人の参加。

	名称	会場	公開開始	参加者など
1	市内小学校150周年記念展示 第二部「終戦前後の学校」	市立図書館	8月22日(火)～ 9月12日(火)	846
2	市内小学校150周年記念展示 第三部「近代学校の夜明け前」	旧東方村中村 住宅	12月16日(土) ～1/22(月)	584
3	生涯学習フェスティバルにおける遺物 展示	中央市民会館	2月25日(日)	255
				1,685人

(6) 指定文化財所有者に文化財保存謝礼を支出

指定文化財所有者及び保存団体に対し一年間の保存・維持管理等に係る経費の一部として補助を行った。

指定数	対象件数	決算額
73 件	64 件	544,000 円

(7) 文化財に係る情報発信

市ホームページを活用し、文化財に係る情報発信を行った。令和4年度から旧東方村中村家住宅で開催した文化財関連の展示データを市ホームページ上で公開を開始。アクセス数：4, 240 件。

	名称	内容	公開開始	アクセス数
1	古民家 だより	【随時更新】 中村家住宅及び市域の歴史・文化財等についての話題を市民に発信するため、情報発信チラシ「古民家だより」を掲載。 【令和5年度の詳細】 全11回更新。(約毎月更新) 内容：100年前の大震災、越谷の学校を通して観た終戦前後、中村家住宅における社会科見学等	令和5年度はNo.54～64を更新 【第1号公開】 平成30年10月 (月1回程度更新)	2,503 件
2	WEB 展示 「関東大震災と越谷」	レイクタウン防災フェス関連展示の展示パネル・配付資料を市ホームページ上で公開。	令和5年6月	1,223 件
3	WEB 展示 「棉・綿」	レイクタウンエコウィーク関連展示の展示パネル・配付資料を市ホームページ上で公開。	令和5年11月	210 件
4	WEB 展示 市内小学校開校 150 周年記念展示 『越谷から見た近代教育』第一部	展示「市内小学校開校 150 周年 1 部 近代教育の誕生」の展示パネル・配付資料を市ホームページ上で公開。	令和5年8月	304 件
計				4,240 件

(8) 社会体験チャレンジの受け入れ

市内中学校 1 校を受け入れ。

No.	参加校	実施日	内容	学年	参加人数
1	南中学校	9/13・14	大間野町旧中村家住宅で受け入れ ①施設見学 ②体験 ・カマドで炊飯 ・蚊帳体験(蚊帳を吊る) ③振り返り ・古代の炊飯(模型を使って)カマドの説明文を考える ・蚊帳の説明文を考える。蚊遣りについて ④管理業務(土間水打ち、雨戸開閉、清掃) ⑤まとめ ・学芸員の仕事について	2年生	5 人

(9) 講師派遣

越谷市及び越谷市教育委員会主催の文化財普及事業に講師を派遣し、講座等を行うことで、郷土の歴史や文化財の普及と啓発を図る。

No.	開催日	内容	対象	参加者数	会場
1	5 月 20 日(土)	蒲生公民館主催事業「がもう楽生塾」	市域・市内在住の男性	15 人	蒲生地区センター・公民館 多目的ホール(3階)
2	3 月 16 日(土)	歴史文化講演会 「砂丘と遺跡―大林河畔砂丘と越谷市海道西遺跡の調査」	-	48 人	春日部市教育センター 2階 視聴覚ホール

< ⑧—5 文化財資料等整備に関すること >

(1) デジタルアーカイブに関すること

公開開始日 : 令和 5 年 8 月 1 日

アクセス数 : 258,524 件(令和5年8月1日～令和6年3月 31 日)

公開資料点数 : (画像)13,027 点 (テキスト) 26 点

No.	公開日	公開点数	公開総点数	主な公開資料
1	令和 5 年 8 月 1 日	画像) 12,063 点 テキスト) 20 点	画像) 12,063 点 テキスト) 20 点	・『越谷市史』 ・3D パノラマ資料 (両中村家) ・越谷駅前の写真 (昭和 50 年代) ・越ヶ谷宿村絵図、明治天皇 大沢小休時書類 等
2	令和 6 年 1 月 31 日	画像) 964 点 テキスト) 6 点	画像) 13,027 点 テキスト) 26 点	・『越谷市史(三)史料一』、 『越谷の歴史物語二・三』 等テキスト ・市史編纂時に収集・撮影し た写真(プリント) 等

デジタル化資料点数

No.	資料種別	点数	備考
1	ネガフィルム(広報シティプロモーション課所有)	99,143 コマ	昭和 37 年～平成 17 年までの市主催イベント(市民まつり・花火大会・市民体育祭、周年記念式典)、民俗行事(越ヶ谷秋まつり、下間久里の獅子舞)等の写真

利活用の促進等 **【資料 10】**

No.	方法	内容
1	公開記念講演会の開催	事業名:デジタルアーカイブ公開記念講演会 (文化財講演会) 開催日:8/26(土) 会場:越谷市中央市民会館 参加者:73 人
2	操作研修会の開催	事業名:デジタルアーカイブ操作研修会 開催日:9/24(日) 会場:市役所会議室 参加者:19 人
3	PR 動画の配信	・YouTube で配信 ・市役所・地区センターのモニターで配信
4	広報・SNS で周知	・広報こしがや 8 月号・2 月号 ・生涯学習メニューTRY 冬号(機能等の紹介) ・市 City メール・市 LINE・市 X・市 Instagram ・県 X・県 Facebook
5	学校教育への情報提供	・8 月校長会で周知 ・市内小中学校に運用開始の通知及び公開資料の一部を紹介する資料を配付
6	事例紹介記事・論文の掲載	・埼玉県地域史料保存活用連絡協議会会報第 50 号 ・埼玉県文化財保護協会時報第 146 号 ・専門誌(奈良文化財研究所研究報告第 41 冊)

（２）保存資料の燻蒸及び脱酸性化処理

市史編さん当時に収集した資料や近年寄贈いただいた資料の燻蒸及び脱酸性化処理を継続的に実施。

①くん蒸処理(平成28年度までは図書館の業務として実施)

生物被害による資料の劣化を防止するため、定期的に薬剤によるくん蒸を行い、資料を殺虫・殺菌するもの。毎年、資料の状況を確認し、虫やカビによる被害が見られるものを優先的に選定してくん蒸している。新たに資料の寄贈を受けた場合は、書庫に入れる前にくん蒸を実施。資料によって形や大きさが異なるため、年度によって処理可能な点数が異なる。

No.	資料・点数	備考
1	行政文書 250 点	定期的なくん蒸（2 回目）

②脱酸性化処理

市史資料のうち、インクのにじみ止めや漂白のために各種の酸性物質が添加された酸性紙で作成された資料は、50年から100年程度で脆弱化し、いずれ紙繊維の柔軟性が失われ、紙の粉砕が起こる恐れがある。そのため、紙にアルカリ成分を添加し、酸性紙を中和する脱酸性化処理を行うことで紙の長寿命化を図るもの。

劣化が進行している資料や貴重資料を優先して実施しているが、資料によって形や大きさ、劣化状況が異なるため、年度によって処理可能な点数が異なる。

No.	資料・点数	備考
1	行政文書 13 点	昭和初期から戦後にかけての資料（質の悪い酸性紙を使用したものが多く、劣化が進んでいるため優先して脱酸性化処理を行っている）

（３）公文書の選別・収集

保存年限の過ぎた公文書を対象に、廃棄文書目録から二次選別作業の準備を行った。令和5年 4 月現在、未選別の文書保存箱 1,286 箱を対象に実施。

No.	区分	箱数	備考
1	令和5年度選別実施箱数	184 箱	フォルダー228 冊を歴史公文書として抽出。 ＜主な内容＞ ・国体全般 ・小鹿野山荘 ・地区まちづくり推進計画
2	残数	1, 102箱	令和 6 年度以降選別

(4) 資料の寄贈受領

【資料11】

市内旧家などから8件の寄贈を受領。

No.	寄贈者	寄贈品	種類	数量
1	個人	桜井村役場資料	文書	1点
2	個人	大沢一丁目で料理屋を営んでいた家からの寄贈。従業員の給料関係の書類や、酒屋とのやりとりなどの書類。	文書	一式
3	個人	戦時中の資料 ・戦時中の簡閲点呼に関する資料 ・罹災証明 ・衣料切符 ・戦時貯蓄債権、切手(40 銭) ・軍事郵便 など	文書	19 点
4	幸手市資料館	戦争体験集 『幸手町のかたりべ 第三集 銃後編』	書籍	1 冊
5	越ヶ谷小学校	・校務日誌 ・教材 ・保護協会関係 ・書籍 ・校印 越ヶ谷町立越ヶ谷小学校 越ヶ谷尋常高等小学校 越ヶ谷国民学校 越ヶ谷青年学校 越ヶ谷実科高等女学校長 越ヶ谷実践女学校長 など	文書 校印 など	一式
6	個人	進文学校卒業証書など	文書	17 点
7	個人	出羽尋常高等小学校集合写真 など	写真	48 点
8	個人	荻島村全図(三千分の一)	地図	1 点

(2) 文化財保護事業計画について〔令和6年度に実施する予定の事業〕

①文化財の指定及び解除に関すること

文化財指定候補5件の協議。

No.	指定候補名	所有者
1	青い目の人形	越谷市教育委員会
2	越ヶ谷小学校校務日誌	越谷市教育委員会
3	瓦曽根防水記念碑	越谷市
4	旧東方村中村家系譜	個人
5	越谷隕石	個人

②埋蔵文化財の発掘に関すること

・発掘調査

6軒の個人住宅建築に伴う西口遺跡（大成町一丁目）調査及び西大袋土地区画整理事業に伴う2区画の大道遺跡（大字大道）の調査を予定。

・試掘調査・立合い調査

試掘調査は埋蔵文化財包蔵地などでの開発に対し実施し、立合い調査は埋蔵文化財包蔵地などでの狭小な掘削などに対し実施する予定。

・報告書刊行

令和5年度に調査を実施した西口遺跡4調査区分について発掘調査報告書を刊行予定。

③無形文化財の助成に関すること

特になし

④指定文化財の修理復旧又は滅失、き損防止の措置に関すること

越谷市文化財保存事業費補助金交付要綱に基づき、2件の事業に対し補助金の交付を予定。

No.	指定文化財名	事業内容	補助予定額
1	田中家のクスノキ	剪定事業	302,000 円
2	承応2年庚申塔	移設事業	77,000 円

⑤指定文化財の現状変更の許可及び環境の保全のため必要な施設の勧告に関する
こと

特になし

⑥指定文化財の買収に関すること

特になし

⑦文化財の出品公開に関すること

例年、指定文化財の所有者によるご開帳が4回、保持団体による民俗行事が2回実施されている。

【所有者・保持団体による公開】

No.	指定 区分	文化財名	所有者 保持団体	公開日	備考
1	県	木造伝正観音菩薩坐像	林泉寺	4月21日（日）	—
2	県	下間久里の獅子舞	下間久里 獅子舞連中	7月14日（日）	—
3	県	北川崎の虫追い	北川崎自治会	7月24日（水）	—
4	国	木造地藏菩薩立像	浄山寺	8月24日（土） 令和7年2月24 （月）	—
5	市	木造阿弥陀如来坐像	清浄院	令和7年3月	—

【所有者・保持団体以外による公開】

指定 区分	文化財名	所有者 保持団体	公開日 公開期間	場所	内容
県	下間久里の 獅子舞	下間久里獅子 舞連中	令和7年 3月	越谷市 コミュニティーセンター	＜事業名＞越谷市郷土 芸能祭 ＜共催＞越谷市郷土芸 能祭実行委員会、越谷 市、越谷市教育委員 会・越谷市郷土芸能保 存協会
市	越谷の木遣	越谷市木遣 保存会			

⑧その他、文化財の保存及び活用に関し必要と認める事項

< ⑧―1 文化財調査委員会に関する事 >

(1)文化財調査委員に関する事

文化財調査委員会の活動は、年4回の会議開催を予定。

- ・第1回会議：令和6年7月4日（木）
- ・第2回会議：令和6年10月7日（月）
- ・第3回会議：令和6年11月22日（金）
- ・第4回会議：令和7年1月24日（金）

< ⑧―2 文化財の施設管理に関する事 >

(1) 施設修繕など

大間野町旧中村家住宅において3件の施設修繕を予定。

施設名	区分	修繕箇所	内容
大間野町	修繕	御嶽社通路修繕	御嶽社へ上るための石段修繕
		土蔵下屋漆喰修繕	瓦の目地留めとして施工されている漆喰修繕
	工事	主屋不陸調整工事	床下の束を修理し、床の歪みを改善する
旧東方村	なし		

(2) 施設の利活用

【資料12】

大間野町旧中村家住宅及び旧東方村中村家住宅を利用して伝統文化体験講座や各種パネル展示などを実施する。

大間野町旧中村家住宅		
No.	内容	回数
1	伝統文化体験講座	未定
2	学校見学	随時
3	その他の施設利用	随時

旧東方村中村家住宅		
No.	内容	回数
1	伝統文化体験講座	6回
2	学校見学	随時
3	防災フェス	5月
4	エコウィーク	10月
5	展示	4回
6	その他の施設利用	随時

< ⑧—3 文化財調査事業に関する事 >

(1)「越ヶ谷秋まつり」調査

- ・10月12・13日にまつり開催予定のため、各町の準備などを調査。
- ・8月19日(月)から8月31日(土)まで本庁舎エントランス棟1階エントランスホールで山車を展示。

(2)石造物調査

大袋地区・北越谷地区を調査。

(3)諸家文書調査

市史編さん当時に確認した諸家文書のうち、所有者へ返却したものの現状確認を行います。

(4)刊行物の発行

- ①(仮称)市内小学校150周年記念展示「越谷から見た近代教育」図録
市内小学校150周年に向けて行った調査成果を図録として刊行
- ②木造伝正観音菩薩坐像修復工事報告書
令和5年度に行った県指定「木造伝正観音菩薩坐像」の修復工事報告書

< ⑧—4 文化財の普及に関する事 >

(1)郷土資料館のあり方検討

市が所有する歴史資料等の整理を実施し、郷土資料館の展示や収蔵、活用を検討する際に必要な情報収集を行う。

民具類の整理……旧荻島公民館で保管している民具類を一点ずつ確認し、既存目録の内容を確認する。また公開の写真を撮影する。
(対象)未整理の資料1,300点

(2)文化財ボランティア活動の実施

デジタルアーカイブでの公開を目指し、教育委員会で刊行した本のテキスト化や古文書の翻刻作業、デジタルアーカイブデータの目録情報更新を実施するなど、在宅活動も引き続き実施予定。

<令和6年度の活動内容予定>

- (1)遺跡の発掘作業
- (2)出土品の整理作業
- (3)古文書の整理作業
- (4)小中学生の学習活動補助
- (5)越谷市教育委員会が主催する文化財関係イベントの運営における補助
- (6)その他教育委員会が実施する文化財保護事業

(3) 文化財講演会の開催

- 1 講座名 日本神話について (仮)
- 2 内容 『古事記』『日本書紀』等を題材として日本の神話に関する講演
- 3 開催日 令和6年9月29日(日) 開演: 13:30
- 4 会場 中央市民会館
- 5 共催 NPO法人越谷市郷土研究会、越谷市教育委員会
- 6 定員 100人
- 7 講師 國學院大學 神道文化学部 遠藤潤教授

(4) 文化財説明板の設置・修繕

説明板の新規設置1件、修繕を1件予定。

- ・新規設置 国登録有形文化財「都築家糺屋蔵」
- ・修繕 承応二年庚申塔

(5) 文化財に関する展示の開催

文化財に関する展示を4事業予定。

No.	展示名	期間	場所
1	(仮称)市内小学校150周年記念 展示「越谷から見た近代教育」	7/30~8/8 8/10~8/29	本庁舎エントランス棟1 階多目的ホール
2	(仮称)越ヶ谷秋まつり山車PR展 示	8/19~8/31	本庁舎エントランス棟1 階エントランスホール
3	(仮称)東部地区文化財担当者会巡 回展(考古部会展示)	12/14~1/13	図書館1階展示室
4	生涯学習フェスティバル	2/23	中央市民会館

(6) 指定文化財所有者に文化財保存謝礼を支出

指定文化財所有者及び保存団体に対し一年間の保存・維持管理等に係る経費の一部として補助を実施予定。

指定数	対象件数	決算額
73件	64件	544,000円

(7) 文化財に係る情報発信

市ホームページを活用し、文化財に係る情報発信を予定。「古民家だより」や文化財に関する展示のデータを公開予定。

(8) 社会体験チャレンジの受け入れ

学校からの申し込みにより実施予定。

(9) 講師派遣

＜市職員等出張講座＞ 申し込みあれば随時行います。

実施日：令和6年7月24日（水）

派遣先：サロンオーベル（大沢4丁目）

テーマ：大沢の歴史について

＜ ⑧-5 文化財資料等整備に関する事 ＞

(1) デジタルアーカイブ

①システム運用・資料公開

・資料の追加公開(①9月頃、②2月頃 を予定)

②新規デジタル化

・ネガフィルム、地図・絵図、行政資料、地域資料などのデジタル化を行う。

③その他

・奈良文化財研究所「文化財デジタルアーカイブ課程」に講師として従事

実施日：令和6年7月25日（木）

・埼玉県図書館協会及び埼玉県立熊谷図書館「デジタルアーカイブ情報交換会」に講師として従事

実施日：令和6年8月23日（金）

・国立公文書館デジタルアーカイブの横断検索から越谷市デジタルアーカイブが検索されるよう連携を行う(11月末を予定)

・学校教育との連携について検討を進める

(2) 市史資料の整理

デジタル化した写真・ネガのデジタルアーカイブでの公開可否選別補助、目録情報の高精度化(写真とネガの対応関係確認・掲載書籍情報の確認など)等を行う。

(3) 公文書の選別・収集

保存年限の過ぎた公文書を対象に、廃棄文書目録から一次選別作業を行い、二次選別に繋げる。

(4) 保存資料の燻蒸及び脱酸性化処理

区分	対象	数量
燻蒸	近現代資料	保存箱 30 箱分（越ヶ谷小寄贈資料等）
脱酸性化処理	近現代資料	昭和初期の行政文書 13 点

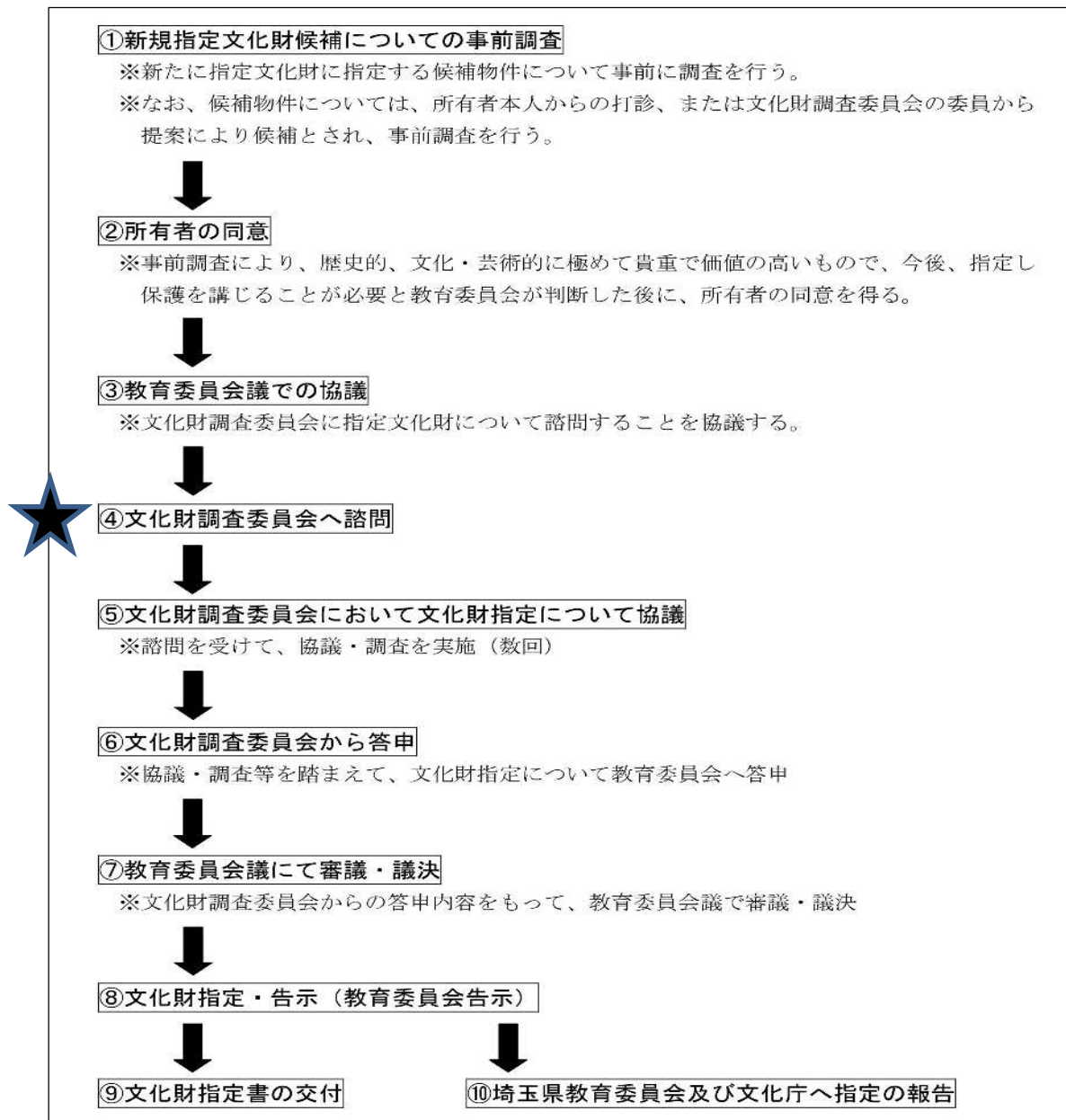
＜⑧-6（仮称）『文化財保護年報』の作成(新規)＞

令和5年度の文化財保護事業の内容をまとめた(仮称)『文化財保護年報』を作成します。

3 協議事項

(1) 文化財指定について

①文化財指定の流れ



②諮問案件 指定候補 5件

【資料13】

<指定候補 1> 青い目の人形(付 パスポート他)

- (1)種別・種類 有形文化財・歴史資料
- (2)名 称 青い目の人形(付 パスポート他)
- (3)員 数 6点
- (4)所 在 地 埼玉県越谷市大沢二丁目13-21
埼玉県越谷市大竹147
- (5)所 有 者 越谷市教育委員会
(大沢小学校・大袋小学校)

<指定候補 2> 越ヶ谷小学校校務日誌

- (1)種別・種類 有形文化財・歴史資料
- (2)名 称 越ヶ谷小学校校務日誌
- (3)員 数 4冊
- (4)所 在 地 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
- (5)所 有 者 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
越谷市教育委員会

<指定候補 3> 瓦曽根溜井防水記念碑

- (1)種別・種類 有形文化財・歴史資料
- (2)名 称 瓦曽根溜井防水記念碑
- (3)員 数 1基
- (4)所 在 地 埼玉県越谷市相模町一丁目
谷古田河畔緑道スポット広場
- (5)所 有 者 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
越谷市

<指定候補 4> 旧東方村中村家系譜

- (1)種別・種類 有形文化財・歴史資料
- (2)名 称 旧東方村中村家系譜
- (3)員 数 1通
- (4)所 在 地 埼玉県越谷市大成町二丁目285-1
- (5)所 有 者 埼玉県越谷市大成町二丁目285-1
中村 治雄

<指定候補 5> 越谷隕石

- (1)種別・種類 記念物・天然記念物
- (2)名 称 越谷隕石
- (3)員 数 1点
- (4)所 在 地 埼玉県越谷市大里 845-1
- (5)所 有 者 埼玉県越谷市大里 845-1
中村 勉

令和6年度
第1回越谷市文化財調査委員会

資料編

日 時 令和6年7月4日（木）午後2時～
会 場 越谷市役所第二庁舎3階 教育委員会室

(1) 文化財保護事業結果について〔令和5年度実績〕

資料 1

4 報告事項

(1) 文化財保護事業結果について〔令和5年度実績〕

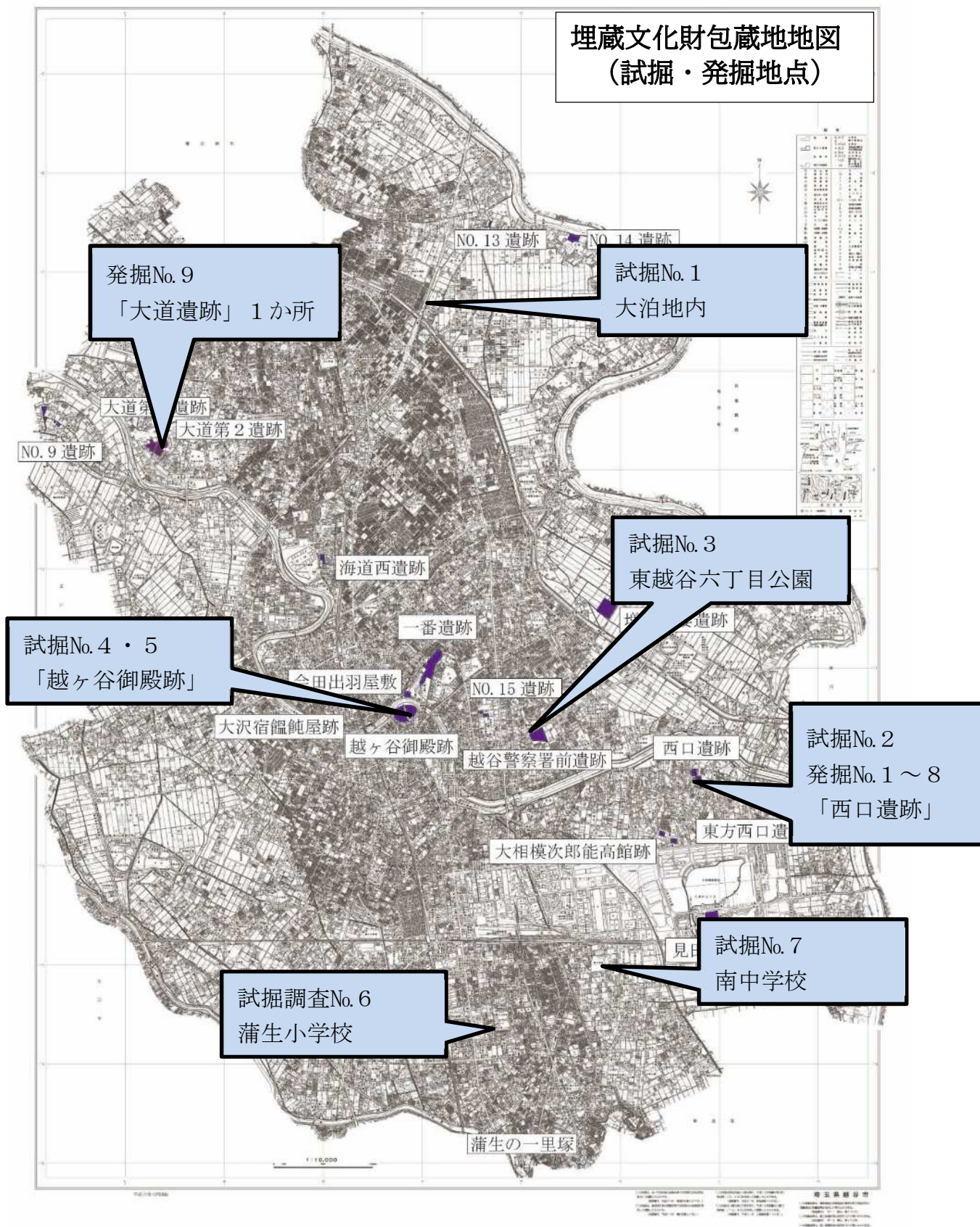
②埋蔵文化財の発掘に関すること

(1) 試掘調査

No.	遺跡名など	場所	調査期間	目的	結果
1	－	大泊地内	R5.4.25・28	(仮称)共同 消防指令セ ンター建設	遺跡無し
2	西口遺跡	大成町一丁 目地内	R5.5.8～10	個人住宅建 設	遺跡の広がりを確認 埋蔵文化財包蔵地の範囲を拡 大
3	－	東越谷六丁 目公園	R5.5.12	耐震性貯水 槽設置	遺跡無し
4	越ヶ谷御殿跡	御殿町地内	R5.5.18	個人専用住 宅	遺跡無し
5	越ヶ谷御殿跡	御殿町地内	R5.7.11	個人専用住 宅	遺跡無し
6	－	蒲生小学校	R5.11.8・9・ 10・16・17	小中一貫校 整備	遺跡無し
7	－	南中学校	R5.11.13・ 15	小中一貫校 整備	遺跡無し

(2) 発掘調査

No.	遺跡名など	場所	調査期間	目的	結果
1	西口遺跡 C 区	大成町一丁目 2254 番 11	R5.5.22～ R5.5.30	個人住宅建設	約 10 m ² 。DE区で確認された溝がC区に達しない(溝が直線的に伸びない)。
2	西口遺跡 A 区	大成町一丁目 2254 番 9・14	R5.5.26～ R5.6.7	個人住宅建設	約 60 m ² 。桶を据えた土坑1基と木柱をH字状に確認。年代は江戸時代と思われる。
3	西口遺跡 B 区	大成町一丁目 2254 番 10	R5.6.5～ R5.6.14	個人住宅建設	約 50 m ² 。溝2条、土坑3基、小穴4基を確認。時期不明を除き、年代が判明するものは江戸時代と思われる。
4	西口遺跡 DE 区	大成町一丁目 2254 番 12・13	R5.6.14～ R5.6.30	個人住宅建設	約 95 m ² 。溝1条及び溝と連結する土坑1期を確認。共に年代は江戸時代と思われる。溝と土坑には時期差があり、溝の方が新しい。
5	西口遺跡 6区	大成町一丁目 2270 番 10・11	R5.10.23～ R5.10.30	個人住宅建設	約 60 m ² 。溝4条及び土坑1基を確認。うち1条は平安時代。土師器須恵器出土
6	西口遺跡 5区	大成町一丁目 2270 番 8・9	R6.2.7～ R6.2.15	個人住宅建設	約 60 m ² 。江戸時代の井戸跡 1 基を確認。年代不明の溝 2 条、土坑 1 基を確認。年代不明の溝、土坑からは奈良・平安時代の遺物のみ出土する。
7	西口遺跡 1区	大成町一丁目 2270 番 4	R6.2.13～ R6.3.13	個人住宅建設	約 54 m ² 。並行する溝3条を確認。最も深い溝は地表面から 2.3m の深さである。最も深い溝底面から8世紀後半に属する可能性のある土師器甕が出土。溝は奈良時代まで遡る可能性がある。
8	西口遺跡 9区	大成町一丁目 2270 番 16・17	R6.2.27～ R6.3.11	個人住宅建設	約 95 m ² 。江戸時代以降の溝3条、年代不明の溝1条を確認。年代不明の溝からは奈良・平安時代の遺物のみ出土する。
9	大道遺跡	大道地内	R5.9.20～ R6.2. 28	区画整理	約 500 m ² 。中世の火葬土坑、板碑が廃棄された土坑、香炉が出土する土坑など約 200 遺構を調査。



4 報告事項

(1) 文化財保護事業結果について〔令和5年度実績〕

④指定文化財の修理復旧又は滅失、き損防止の措置に関すること

No.	指定 区分	文化財名	内容	事業費 補助額
1	市	県指定文化財「木造 伝正観音菩薩坐像」	修理事業	総事業費:4,348,174 円 市補助 :1,087,000 円

※総事業費から補助額を差し引いた額を所有者または管理者が負担

(修理の概要)

本像は体内背面部材内側に書かれた墨書銘から鎌倉時代嘉元二年の作である。

修理施工当初は左肩部などの剥ぎ目に隙間が生じており、この隙間を修復するため部分解体による修復を予定していた。しかし、他にも剥ぎ目が緩んでいる箇所などが確認できたことから、全解体として施工した。

肉身部の漆箔は近世のもので、とても脆くなっていた。そのため、仏像のクリーニング作業などで剥落した箇所は、協議の結果、漆箔の追加は行わなかった。

宝冠及び瓔珞は近世のものであるが、長年身に着けた状態であることから、それぞれ取り外しが可能なように仮留めとした。

補修部分は過度な古色は控え、遠目では気にならないが近くで見ると補修部がわかるというように施工した。



<修理後>



<全解体の様子>

⑦文化財の出品公開に関すること

【所有者・保持団体による公開】

No.	指定 区分	文化財名	所有者 保持団体	公開日など
1	県	木造伝正観音菩薩坐像	林泉寺	令和5年4月16日 ご開帳
2	国	木造地藏菩薩立像	浄山寺	令和5年8月24日 ご開帳 令和6年2月24日 ご開帳
3	市	木造阿弥陀如来坐像	清浄院	令和6年3月17～20日ご開帳
4	県	下間久里の獅子舞	下間久里獅子舞連中	令和5年7月16日 開催
5	県	北川崎の虫追い	北川崎自治会	令和5年7月24日 開催

【指定文化財以外の文化財の公開】

No.	指定 区分	文化財名	所有者 保持団体	展示先など
1	—	海道西遺跡出土遺物	越谷市	生涯学習フェスティバルで海道西遺跡の出土遺物を展示。2月26日
2	—	青い目の人形	越谷市（大沢小学校）	越谷市平和展 11/1～6

4 報告事項

< ⑧—2 文化財の施設管理に関すること >

(1) 施設の利活用

【入館者実績】

施設名	項目	開館日	入館者	入館料
大間野町	R5 実績	307 日	1,982 人	82,670 円
旧中村家住宅	前年度比	▲2 日	411 人	4,170 円
旧東方村	R5 実績	311 日	3,611 人	99,720 円
中村家住宅	前年度比	4 日	748 人	▲19,850 円

【活用事業】

施設名	伝統文化体験講座	学校利用	その他
大間野町旧中村家住宅	10 事業実施 (参加者：342 人)	5 校 368 人	・行政財産使用許可 53 回
旧東方村中村家住宅	10 事業実施 (参加者：723 人)	6 校 612 人	・埼玉県民の日無料公開 1 回 45 人

(2) 施設修繕など

施設名	区分	内容
大間野町	修繕	5 件 ①御嶽社 縁側高欄修繕 ②主屋 土間階段修繕 ③土蔵 観音開き扉修繕 ④主屋 煙感知器交換修繕 ⑤事務室 コンセント修繕
	工事	なし
	備品購入	2 件 ①エアコン(入替) ②芝刈機(入替)
旧東方村	修繕	5 件 ①管理棟・展示棟 外壁腰壁修繕 ③薬医門修繕 ②主屋 奥の間・広間建具修繕 ④展示棟 消防設備修繕 ⑤生垣支柱修繕
	工事	なし
文化財資料保管庫	修繕	1 件 分電盤等修繕
	工事	なし

(3) 入館者実績

a 対象施設

No.	名称	所在地
1	越谷市保存民家「大間野町旧中村家住宅」	大間野町 1-100-4
2	越谷市指定有形文化財「旧東方村中村家住宅」	レイクタウン 9-51
3	文化財資料保管庫（旧荻島公民館）	大字南荻島 185-1

b 入館者実績（単位：人）

	入館者数 合計	内 訳								
		一 般				小中学生				未就 学児 (無料)
		通常	減額	免除	小計	通常	減額	免除	小計	
大間野	1,982	798	21	517	1,336	36	1	531	568	78
前年比	411	48	8	317	373	▲21	1	21	1	37
東方	3,611	945	25	1,228	2,198	79	1	953	1,033	380
前年比	748	▲168	1	437	270	▲62	0	397	335	143
前年比 合計	1159	▲120	9	754	643	▲83	1	418	336	180

c 入館料実績

	開館日数	入館者数 (減額・免除含む)	一般 (減額・免除含む)	小中学生 (減額・免除含む)	未就学児 (無料)	入館料合計
大間野	307 日	1,982 人	1,336 人 80,850 円	568 人 1,820 円	78 人	82,670 円
前年比	▲2 日	411 人	373 人 5,200 円	1 人 ▲1,030 円	37 人	4,170 円
東方	311 日	3,611 人	2,198 人 95,750 円	1,033 人 3,970 円	380 人	99,720 円
前年比	4 日	748 人	270 人 ▲16,750 円	335 人 ▲3,100 円	143 人	▲19,850 円
前年比 合計	2 日	1,159 人	643 人 ▲11,550 円	336 人 ▲4,130 円	180 人	▲15,680 円

資料 5

a 大間野町旧中村家住宅の利活用

(1) 伝統文化体験講座

No.	事業名	開催日	参加人数	共催・協力団体
1	初夏のお茶会	6月24日	57	越谷市茶道協会協力
2	木目込み人形作り～来年の干支「辰」	10月1日	17	NPO 法人越谷市郷土研究会共催
3	ネオステンドアート（樹脂工芸）の壁掛け作り	10月8日	14	
4	【新規】古民家で紙芝居	10月21日	16	NPO 法人越谷市郷土研究会共催
5	折り紙教室	11月5日	10	
6	開館記念イベント	11月14日	161	
7	石仏の楽しみ方教室	11月11日・座学 11月14日・まち歩き	7	
8	越谷昔ばなし	11月18日	13	
9	古民家で作る正月飾り講習会	12月17日	10	
10	古民家のカマドでご飯を炊こう	1月13日・20日・27日 2月3日・10日・17日	37	
計			342	

(2) 学校利用実績（令和5年度） 計368人

No.	開催日	事業名	学校名	参加人数
1	12月7日	社会科見学	新方小学校3年生	36
2	12月14日	社会科見学	鷺後小学校3年生	115
3	1月18日	社会科見学	長栄小学校3年生	87
4	1月25日	社会科見学	北越谷小学校3年生	46
8	2月20日	社会科見学	大間野小学校3年生	84
計				368

<参考>R4 8回 521人

(3) 行政財産使用許可(令和5年度)

①フィルムコミッション対象外事業 3社53回

No.	使用日	使用者	使用目的	使用料
1	4月9日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,724円
2	4月27日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	2,156円
3	5月17日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
4	5月24日	フォトスタジオミルフィーユ草加店	婚礼前撮り	1,790円
5	6月3日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
6	6月18日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
7	6月25日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	2,237円
8	7月5日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
9	7月12日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	2,237円
10	7月14日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
11	7月17日	合同会社ロックガーデンスタジオ	婚礼前撮り	1,790円
12	8月6日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
13	8月20日	合同会社ロックガーデンスタジオ	婚礼前撮り	1,790円
14	8月24日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
15	8月31日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
16	9月27日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
17	10月7日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
18	10月9日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
19	10月15日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
20	10月20日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
21	10月21日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
22	10月25日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
23	10月25日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
24	10月27日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
25	10月29日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
26	11月8日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
27	11月11日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
28	11月25日	合同会社ロックガーデンスタジオ	婚礼前撮り	1,790円
29	11月29日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
30	12月1日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
31	12月6日	合同会社ロックガーデンスタジオ	婚礼前撮り	1,790円
32	12月10日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
33	12月13日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
34	12月16日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
35	12月23日 キャンセル(還付なし)	合同会社ロックガーデンスタジオ	婚礼前撮り	1,790円
36	1月6日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
37	1月14日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
38	1月19日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
39	1月19日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
40	1月26日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
31	1月28日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
42	2月4日	合同会社ロックガーデンスタジオ	婚礼前撮り	1,790円
43	2月15日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円

No.	使用日	使用者	使用目的	使用料
44	2月22日	合同会社ロックガーデンスタジオ	婚礼前撮り	1,790円
45	2月22日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
46	2月23日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
47	2月28日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
48	2月29日 キャンセル（還付なし）	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
49	3月1日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
50	3月10日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
51	3月15日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
52	3月21日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
53	3月22日	株式会社ジャパンブライダルファクトリー	婚礼前撮り	1,790円
合計				96,064円

②フィルムコミッション対象事業 > 1社1回

No.	使用日	使用者	使用目的	使用料
1	2月6日	株式会社八重洲出版	雑誌撮影 （『痛車天国超』vol.13）	1,608円
合計				1,608円

≪参考≫R4 フィルムコミッション対象 0回
 フィルムコミッション対象外 8回（歳入14,558円）
 計 8回（歳入14,558円）

【事業の様子 大間野町旧中村家住宅】



<No.1 初夏のお茶会>



<No.4 古民家で紙芝居>

資料 6

b 旧東方村中村家住宅の利活用

(1) 伝統文化体験講座

No.	事業名	開催日	参加人数	共催・協力団体
1	防災フェス関連展示 「先人も疫病と闘った」	5月27日・28日	170	市主催
2	昔のくらしを感じる講座① 「自分の絵巻物を作ろう」	7月21日	8	
3	ひがしかた寺子屋① 「見田方遺跡と勾玉づくり」	7月22日	10	NP0 法人越谷ふるさとプロジェクト 共催
4	大人の寺子屋① 「布ぞうり作り」	9月21日	8	
5	ひがしかた寺子屋② 「昔のおもちゃを作って遊ぼう」	9月30日	10	
6	エコウィーク関連展示 「自然との共存 茅葺の家」	9月16日、17日	398	市主催
7	開館記念秋のお茶会	10月21日	77	越谷市茶道協会協力
8	大人の寺子屋② 「わら細工の鍋敷きづくり」	11月16日	10	NP0 法人越谷ふるさとプロジェクト 共催
9	ひがしかた寺子屋③ 「どんぐり工作」	11月19日	5	
10	昔のくらしを感じる講座② 市内小学校開校 150 周年記念展示 「『越谷から見た近代教育』」展示 解説 二部「終戦前後の学校」、 三部「近代教育の夜明け前」	二部 8月24日 三部 12月22日	二部 11 三部 16	市主催
計			723	

(2) 学校利用実績（令和5年度） 計612人

No.	開催日	事業名	学校名	参加人数
1	5月25日	社会科見学	東中学校特別支援学級	18
2	11月6日	社会科見学	花田小学校3年生	124
3	11月17日	社会科見学	弥栄小学校3年生	77
4	11月20日	社会科見学	蒲生南小学校3年生	93
5	2月9日	社会科見学	西方小学校3年生	104
6	2月27日	社会科見学	明正小学校3年生	196
計				612

<参考>R4 5回 403人

(3) 行政財産使用許可（令和5年度）

実績なし

<参考>R4 2件

< ⑧—3 文化財調査事業に関する事 >

ア) 文化財基礎調査

No.	調査区分	件数	主な調査項目
1	資料調査	0	
2	諸家文書調査	1	諸家文書所在確認調査
3	民俗行事の調査	2	山車調査・シメブチ調査
4	石造物調査	1	大沢地区・荻島地区
5	その他	28	近代教育 150 周年、戦後 80 年、関東大震災、忍藩領石分杭、デジタルアーカイブ搭載写真など

【調査・確認事項の概要】

No. 2 諸家文書調査

令和 4 年度に古文書所蔵家としてリストアップしたのは、市内所蔵が 64 件、市外所蔵が 3 件、合計 67 件。所在確認調査は市内所蔵分から開始した。

市内所蔵 64 件のうち、越谷市教育委員会が古文書所蔵家からご寄贈をいただき市立図書館で保管しているもの 23 件を除き、個人などがお持ちの 41 件を対象に実施した。

令和 5 年度は 29 件の所蔵家を訪問し、古文書などの所在が確認できたものが 14 件、所在不明や消失したものが 15 件でした。

訪問できていない 12 件については令和 6 年度に実施します。

No. 3 民俗行事調査

①山車行事調査

「越ヶ谷秋まつり」の一環として、10月22日に開催された第48回越谷市民まつりにおいて、中町と本町一丁目の山車を対象として山車の組み立てと人形の飾りつけ調査を行った。

調査の結果、それぞれ山車の組み立て及び山車人形の着付けなどを確認した。また、本町一丁目では現在使っていない山車の部材と、明治期のまつりに関する資料を新しく確認した。両者の詳細調査は令和 6 年度以降の調査とした

②シメブチ調査

宮本町内で継承されている民俗行事で、竹と稲わらを作って蛇を模した注連縄を作り、久伊豆神社へ奉納する行事。稲わらは宮本町内で調達し、12月14日・17日の両日で作成する。蛇を模した注連縄は久伊豆神社の一の鳥居に掛けられる。他にも神社拝殿前をはじめ境内社などの注連縄も作成する。



二メートルほど
 編った藁綱を反対
 側に渡す。



尾側
 ・尾の最後は青い
 稲わらを使う
 ・尾が下を向くよう
 に作る



<設置風景>
 久伊豆神社
 一の鳥居

・向かって左が頭
 (元荒川の上流方面)
 ・向かって右が尾
 (元荒川の下流方面)

No.4 石造物調査

大沢地区と荻島地区を調査。調査の結果、実際に現地で石造物を確認すると、石材の劣化が進んでおり、以前は確認できた刻印が判読不明となっているものも少なくないことが新たに判明しました。

- (1) 調査地区 : 大沢地区・荻島地区
- (2) 調査点数 : 188点
- (3) 主な石造物 :
 - ・庚申塔 52基
 - ・馬頭観音 5基
 - ・ほか、阿弥陀如来、不動明王、地藏菩薩、六地藏、道しるべ、など

No.5 その他

問い合わせや年間課題などに対応するため、資料の確認や聞き取り調査などを行ったもの。多くは最終的な調査結果までは完了していないため、令和5年度以降も調査を継続する。

<主なもの>

①開校150年を迎える市内小学校(10校)の沿革誌・所蔵資料・写真の調査

学制発布150周年に合わせ、開校150周年を迎える市内小学校を調査。学校で保管していた沿革誌、校務日誌、写真、アルバムなどをお借りして調査を実施。

沿革誌・校務日誌では各校の沿革が記録されており、中でも越ヶ谷小学校の校務日誌は終戦前後の空襲警報の様子や、学校生活などが記されている。

写真は明治・大正期の集合写真や戦中戦後の様子、昭和30～40年代の写真あり。

調査結果を企画展示「市内小学校150周年記念展示」として公開した。

< ⑧—4 文化財の普及に関すること >

(1) 「郷土資料館のあり方」検討

・市が所有する歴史資料などの整理

旧荻島公民館で保存している民具類の整理。民具整理の実績ある民間業者に委託して実施。

(1) 民具類の整理方法

旧荻島公民館で保管している民具類を一点ずつ確認し、既存目録の内容を確認する。
また公開用の写真を撮影する。

(2) 対象

登録点数 : 1, 794点 (目録上登録している点数)

資料個数 : 3, 216点 (目録上登録している資料個数)

(3) 令和5年度活動結果

実物確認・写真撮影終了点数 1, 362点 (残り432点)

実物確認・写真撮影終了個数 3, 812点

(4) 令和6年度以降の残り点数

実物確認・写真撮影 432点



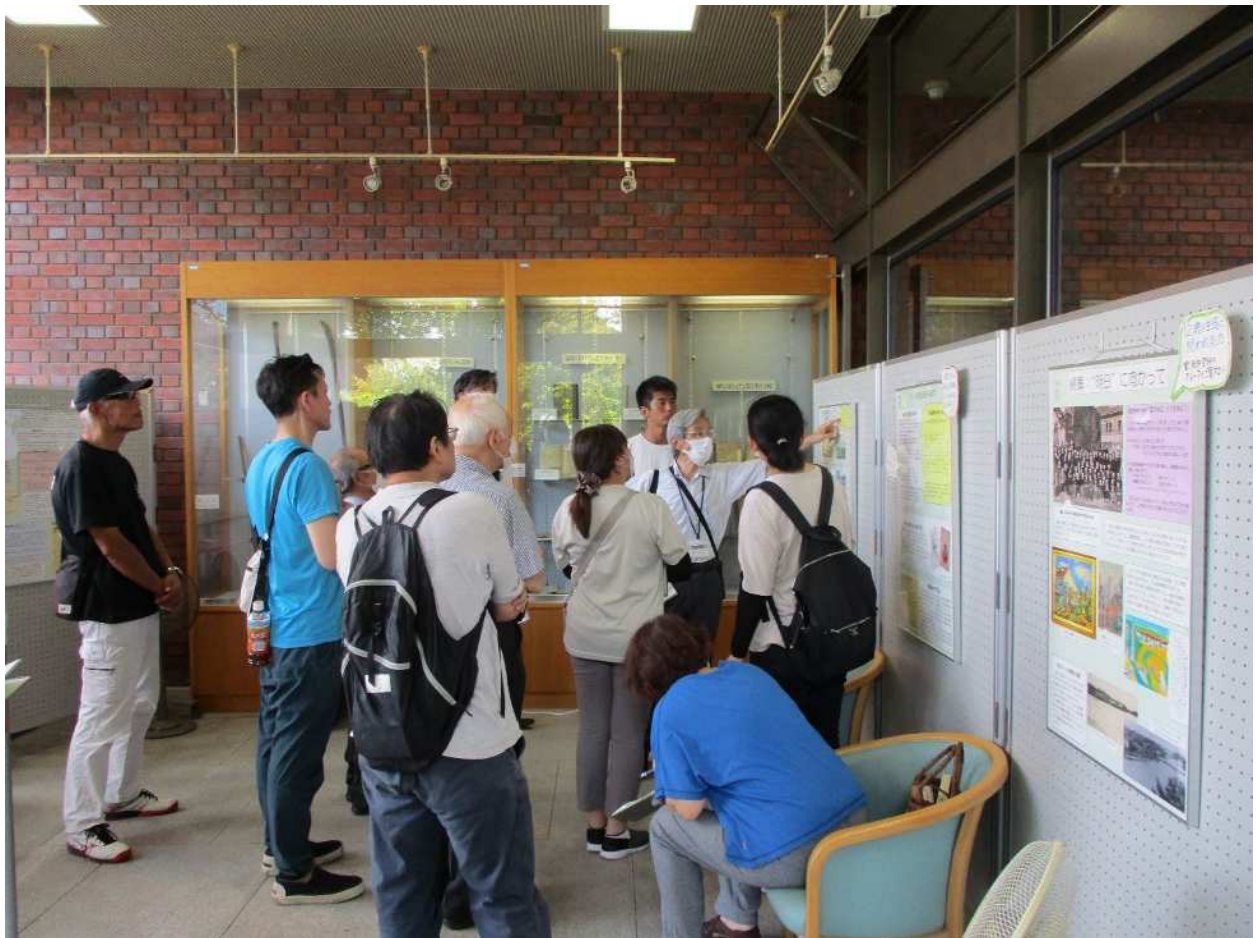
民具写真撮影風景



No.333 板木(増森小学校の刻印あり)

(5) 文化財に関する展示の開催

1 市内小学校 150 周年記念展示 第二部「終戦前後の学校」



<展示解説 8月24日>

2 市内小学校 150 周年記念展示 第三部「近代学校の夜明け前」



<展示解説 12月22日>

< ⑧—5 文化財資料等整備に関すること >

1 デジタルアーカイブ公開記念講演会(8月26日)

前半の部：越谷市デジタルアーカイブでどんなことができるのか？

～探す・見る・活用する～

後半の部：「忍領の碑」はどこにあったか？

～デジタルアーカイブの活用事例～

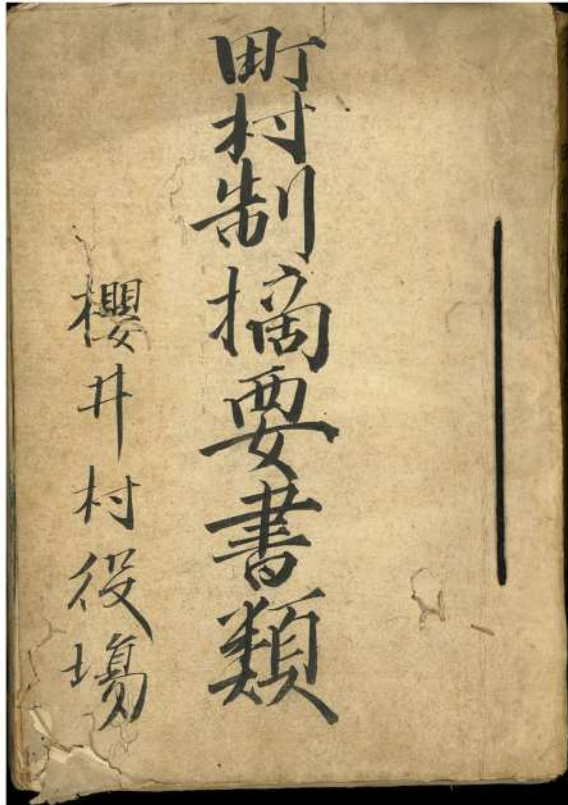


2 デジタルアーカイブ操作研修会(9月24日)



< ⑧—5 文化財資料等整備に関する事 >

(1) 桜井村役場資料



(2) 大沢一丁目資料



(3)戦時中の資料

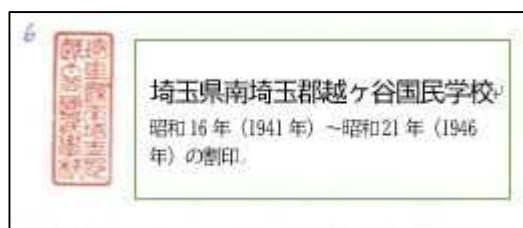


＜戦時貯蓄債権＞



＜衣料切符＞

(5)越ヶ谷小学校の資料



（２）文化財保護事業計画について〔令和５年度に実施する予定の事業〕

資料 12

< ⑧—４ 文化財の普及に関すること >

（２）施設の利活用（主催事業など・学校見学は随時受付）

月	大間野町旧中村家住宅 （● 郷土研究会共催） （◎ 越谷茶道協会協力）	旧東方村中村家住宅 （▲ 越谷ふるさとプロジェクト共催） （◎ 越谷茶道協会協力）
令和５年４月		
令和５年５月	・５月人形展示（４/２０～５/９）	【展示】５月人形展示（４/２０～５/９） 【展示】防災フェス（５/２５～６/３０）
令和５年６月	古民家で紙芝居（２３） ◎初夏のお茶会（２９）	▲昔の手作りおもちゃ（１）
令和５年７月		▲見田方遺跡と勾玉づくり（２０） ・自分の絵巻講座（２３）
令和５年８月		
令和５年９月		▲布ぞうりづくり（中旬）
令和５年 １０ 月	主屋不陸工事	【展示】エコウィーク関連展示（１０/５～１１/４） ◎開館記念秋のお茶会（土・日）
令和５年 １１ 月		・県民の日入館無料（１４） ▲わら細工の鍋敷き作り（中旬） ▲どんくり工作（中旬）
令和５年 １２ 月		
令和６年 １ 月		
令和６年 ２ 月		【展示】ひな人形展示（２/２２～３/９）
令和６年 ３ 月		

資料 13

1 名称	越ヶ谷小学校校務日誌
2 種別・種類	有形文化財・歴史資料
3 員数	4冊
4 所在地	埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
5 所有者	越谷市教育委員会
6 年代	昭和 19 年度～昭和 22 年度
7 概要	旧越ヶ谷国民学校時代に書かれた校務日誌。昭和 19 年度から 22 年度まで現存。学校での出来事などを中心に書かれているが、戦前は空襲警報や生徒たちの勤労奉仕などについても記録されており、戦後は戦後教育初期の学校活動が記録されている。
8 規格 (形状、構造、法 量、状態等)	(昭和 19 年)大きさ:縦 24.5 cm、横 17 cm 綴 (昭和 20 年)大きさ:縦 24.5 cm、横 17 cm 綴 (昭和 21 年)大きさ:縦 24.5 cm、横 17 cm 綴 (昭和 22 年)大きさ:縦 24.5 cm、横 18 cm 綴 ※昭和 22 年度は途中部分的に 16 年度・17 年度の日誌が裏紙として利用されている。 様式は日付、天気、温度、検印、当直・宿直、勤務時間、出席状況、記事(出来事)の 8 項目。 記事(出来事)欄には来校者、職員出張、職員研修、学校行事など学務的な記録が記されている。これらに加えて、戦前には荻島飛行場や市内工場への勤労奉仕に関する事項、空襲警報・警戒警報の発令時間と解除時間、出征者や戦没者(英霊)の去向なども記録されている。

9 所見	越ヶ谷小学校は明治 6 年に越ヶ谷学校として創立され、昭和 16 年に越ヶ谷国民学校、昭和 22 年に越ヶ谷町立越ヶ谷小学校、昭和 29 年に越谷町立越ヶ谷小学校、昭和 35 年に越谷市立越ヶ谷小学校と改称して現在に至っている。 指定候補の「越ヶ谷小学校校務日誌」は越ヶ谷国民学校時代の日誌で、昭和 19 年・20 年・21 年・22 年の4か年分が現存している。 日誌には来校者、職員出張、職員研修、学校行事など学務的な内容を中心に、当時の学校生活の様子が記されている。これらに加えて、戦前には荻島飛行場や市内工場への勤労奉仕に関する事項、空襲警報・警戒警報の発令時間と解除時間、出征者や戦没者（英霊）のお見送り・出迎えなど当時の社会情勢も記録されている。戦後は新教育講習会・体操講習会・ダンス伝達講習会など、戦後教育の歩みを示す資料となっている。市内小学校には他に現存はない。 資料は越谷市教育委員会が所蔵しているため、中性紙封筒及び中性紙箱にて保存されており、資料の散逸の危険はなし。 戦中・戦後の市内学校教育の変遷を記録した貴重な資料であり、かつ時系列で出来事が記録されている貴重な資料である。
------	--

<写真>



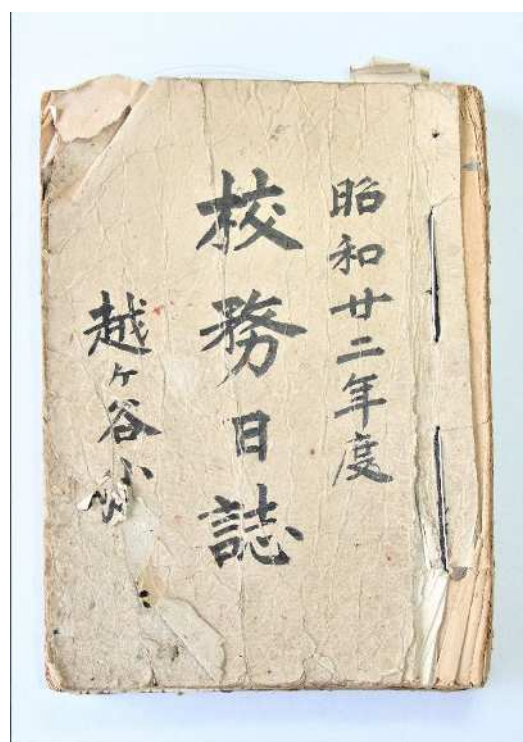
昭和 19 年度 校務日誌



昭和 20 年度 校務日誌



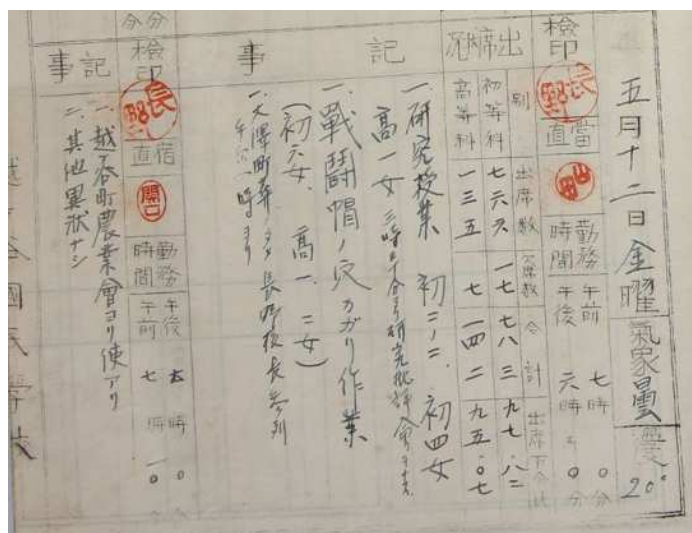
昭和 21 年度 校務日誌



昭和 22 年度 校務日誌

記載例① <昭和 19 年 5 月 12 日> 戦時中における児童の勤労奉仕の様子

- 一 研究授業 初二ノ二 初四女 高一女 三時三十分ヨリ研究批評会ヲナス
- 一 戦闘帽ノ穴カガリ作業(初六女 高一、二女)
- 一 大澤町葬ノタメ長野校長参列 午後一時ヨリ



初＝国民学校初等科

高＝国民学校高等科

<研究授業>

- ・初二ノ二 7才(現在の小1)
- ・初四女 9才女子(現在の小3)
- ・高一女 12才女子(現在の小6)

<戦闘帽の穴かがり>

- ・初六女 11才女子(現在の小5)
- ・高二女 13才女子(現在の小1)

【資料評価】戦闘帽子の穴かがりは女子の勤労奉仕で、大沢に取りまとめる店があった。男子は荻島飛行場や赤山町の工場で勤労奉仕。戦時中における児童の勤労奉仕の様子がわかる資料。

記載例② <昭和 20 年 8 月 15 日> 終戦記念日の様子

◎天皇陛下御放送

- 一 詔書煥発(※かんぱつ)セラレタ ※天皇の意思を伝える詔書や勅書を広く発布すること。



警戒警報

発令 五時三十分

解除 十一時三十分

空襲警報

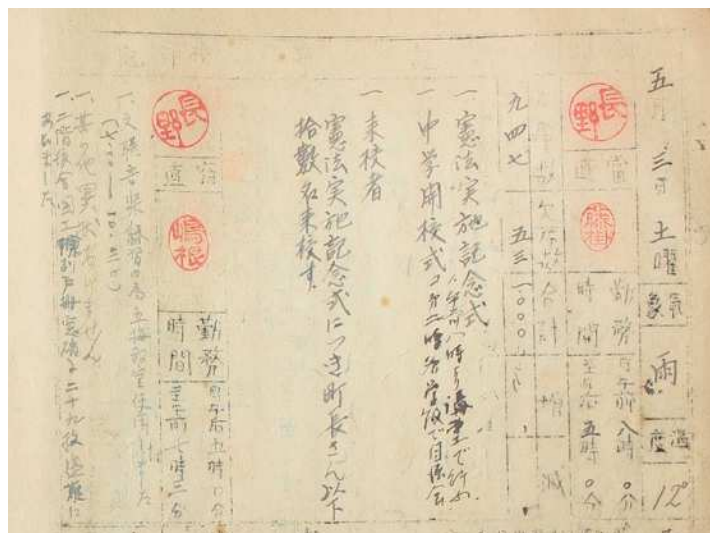
発令 五時三十分

解除 七時五十分

【資料評価】8月14日には連合国側にポツダム宣言受諾を通知しているが、終戦の詔を放送するその日まで空襲警報が発令されている様子がわかる資料。8月15日以降の発令はない。

記載例③ <昭和 22 年 5 月 3 日> 日本国憲法公布日の様子

- 一 憲法実施記念式 午前八時より講堂で行う
- 一 来校者
憲法実施記念式につき町長さん以下拾数名来校す



【資料評価】日本国憲法公布にあたり、旧越ヶ谷町でも記念行事が行われていたこと、場所は小学校を利用していることがわかる資料。ひらがな表記となっている。

記載例④ <昭和 22 年 7 月 9 日> 新しい指導方法に関する講習会への参加

- 一 教科伝達講習のため野口大熊先生杉戸小学校へ出張なさいました。



【資料評価】昭和 22 年 3 月 31 日に公布された教育基本法に基づく新しい指導要領や指導方法に関する講習会への参加と思われる。戦後教育の歩みがわかる資料。

①「古民家だより」

No.54～No.66号

②市内小学校開校150周年記念展示

「越谷から見た近代教育」

(第二部・第三部)

③レイクタウン防災フェス2023 関連事業

『阿鼻驚嘆からの再起』

関東大震災と越谷

④レイクタウンエコウィーク 関連事業

「棉・棉」

新型コロナウイルスの世界的大流行が始まってから4回目の春です。わが国の累計感染者数は3340万人を超え、犠牲になられた方は約74000人にも及びます。（4月1日現在）今年の桜は満開の時期に雨天が続いて、天候が回復した時にはもう散り始めていました。観桜には齡と共に様々な想いが積み重ねられていくようです。

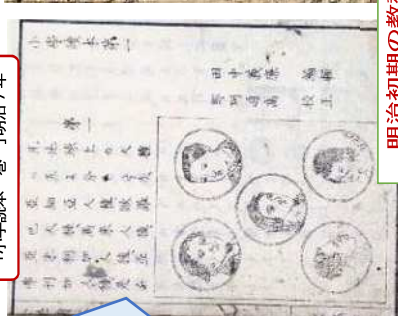
「凄みと情熱に驚いた！」

この言葉は3月10日から28日まで旧東方村中村家住宅で行われた「市内小学校開校150周年記念展示 越谷から見た近代教育」の「第一部 近代学校の誕生」をご覧になった方の感想です。このような感想は他の来館者や展示解説会の折にも聞かれました。それは特に次の史料をご覧になった時でした。

現代語訳

およそ地球土の人は五つに分かれていて、白人種、黒人種、黄色人種、白人種、アフリカ人種である。

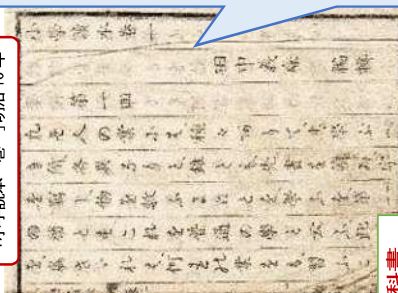
小学読本 巻一「明治7年」



現代語訳

およそ地球土の人は五つに分かれていて、白人種、黒人種、黄色人種、白人種、アフリカ人種である。

小学読本 巻一「明治10年」



現代語訳

およそ地球土の人は五つに分かれていて、白人種、黒人種、黄色人種、白人種、アフリカ人種である。

明治初期の教科書

（左右共に越谷市教育委員会所蔵）

幕府が大政還してわずか5年後、明治5年（1872年）に新政府は「学制」（教育の方針、教育課程等）を頒布して近代教育をスタートさせました。その項に用いられたのがこの教科書でした。アメリカの「ウィルソン・リーダー」を翻訳したものです。これらは何と！**6歳児用**として編集されたものでした。（但し、この教科書は上の学年でも使用されたようです。またこれとは別に「いろは」や単語の教科書もあり、併用して学習しました。）編集者の田中義廉は教科書の巻頭に次のように書いています。（原文の現代語要約）

私は師範学校を創立する際に、小学校教科書を乏しいことに悩んだ。急速に「小学読本」を編集して生徒に授けるのは、編集利行が急務に迫っているからである。整ったものではないが、様々な翻訳、添削したものを私宅で家事をする雇人に読ませてみたら、前日より理解が進んだ様子なので刊行することにした。

編集する人も迷い悩索して試行錯誤していることがわかります。記事冒頭に紹介した展示の感想の一部は、こうした教科書やその作成にかけた当時の関係者の思いやエネルギーを感じとられたのでしょうか。他にも来館された方々の感想をご紹介します。

『規則（近代文学校開校明治8年）』を来館の方々に



★学校の先生方にこそ見て欲しい。★実物をもって展示できると良かった。★こういう「地味な」企画をやられたことに驚きました。★今の教科書と明治初期の内容の変化がすごいです。

★木戸孝允日記に大沢を通ったことが出てくるし、近藤勇が越ヶ谷宿に護送された話があるが、それを生かして活性化ができるのではないか。★石盤って1枚しかない、たくさん置けない。（小学2年生）★市民であっても聞けないお話で、興味深かったです。★新制中学校についても知りた。

★色がない！字が小さい。（明治の実物教科書を見た小学2年生）★市民であっても聞けないお話で、興味深かったです。★新制中学校についても知りた。

★正直、驚いた。明治初期の日本の小学校教育のすごさ、予想を超える教育内容のレベルにある。現代に生きている私達からは無茶苦茶過ぎて乱暴そのままであるが、これを行っていた当時の政府や教育関係者にある種の凄みと、狂気と、情熱を感じた。★ぜひ、資料館を。★蒲生小の第95期生なのですが、150年と比べると、蒲生小学校はそんな初期からあったということを知ることができました。

★越谷市民ですが、あまり知らなかったもので、今日ほとんどが山崎町で育ち、仕事として教職にあることもあり、勉強になりました。授業の中で触れていきい。

★難しいことを勉強していたんだなあ。★学校にはこういう歴史があったんだ。★資料と写真がわかりやすかった。★分かっていくこと、開されたこと、いろいろなでですね。

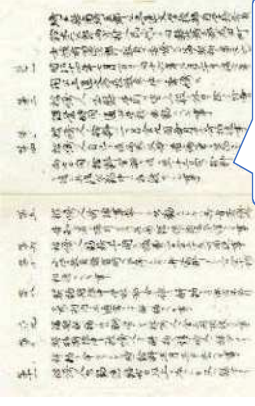
★市内で150年の歴史をもつ8つの学校について詳しく説明して頂き、大変勉強になりました。

明治初期の越ヶ谷尋常小学校所蔵

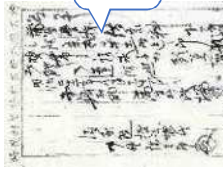


教育史上、その誕生期の様子をご紹介します。その次の大きな変革は第二次世界大戦後でした。大戦末期から終戦後の混乱と変革は、越谷市域の学校から見たらどのように映ったのでしょうか。そのことについて、当時の様々な史料をもとに【第一部 終戦前後の学校】の展示を8月頃に行う計画です。（詳しくは広報こしがやでお知らせします。）

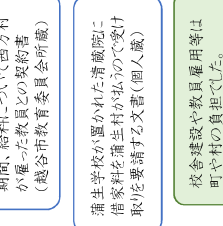
期間、給料について西方村が雇った教員との契約書（越谷市教育委員会所蔵）



蒲生学校が置かれた清蔵院に借家料を蒲生村が払うので受け取りを要請する文書（個人蔵）



校舎建設や教員雇用等が町や村の負担でした。





会期中、来館された方の総数は453名でした。御礼申し上げます。

今回はわが国の近代史から見たらどのように映ったのでしょうか。そのことについて、当時の様々な史料をもとに【第一部 終戦前後の学校】の展示を8月頃に行う計画です。（詳しくは広報こしがやでお知らせします。）



「来てよ！ 愛しい五月さん」という歌い出しの楽曲『春への憧れ』は、厳しい冬がようやく終わって待ちに待った春の到来を喜ぶ西欧の人々の気持ちを表しています。5月には日本では春から夏に移り変わる季節です。今号ではこの時期に行われる田植えについて、かつての様子をご紹介します。

玉苗植える五月

田植えの準備は、市域でも早い所では2月から始まっています。冬の間に堅くなってしまう土を掘り起こす「田起こし」を何度か行い、水を引き込むまでに細かい土にしておかなければなりません。

葛西用水に水が通され、溜井が満水になるのは4月中頃で、それから田んぼに引き込まれます。その後も水が土になじむように耕され、ようやく田植えとなります。

現在はカートリッジ式の苗床で育てたものを田植え機にセットして植えますが、かつて手作業で行っていた時は一家総出で行う厳しい労働でした。



元荒川

葛西用水

中よ手

4月上旬の溜井

（葛西用水に水が通される前の様子）



5月2日の溜井

（渠が開かれて通水され、満水の状態になりました。）

田起こしと水を引き入れる様子を撮った写真が市に所蔵されています。昭和30年代と思われる「犁」で、先端が金属製の人の脚力で用水を田んぼに流し入れる農具は「水量」（読み車）です。いずれも封建時代からあるものです。これらの農具は現物が「大間野町旧中村家住宅」に保存されています。



（写真はいずれも越谷市教育委員会所蔵）

田植え歌

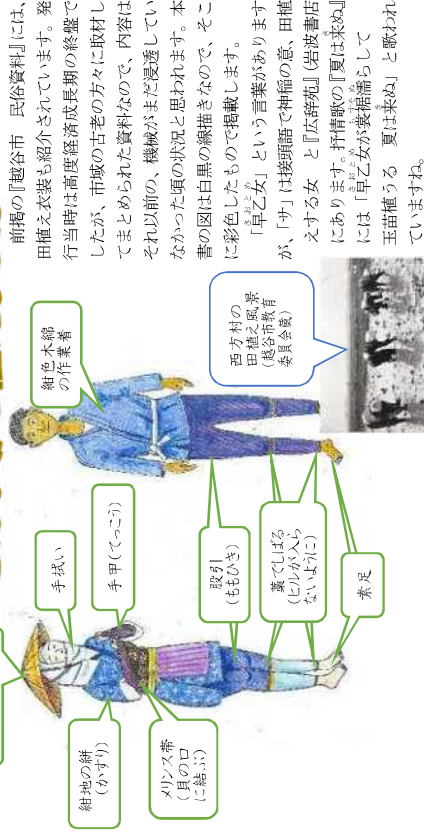
昭和45年（1970年）3月に発行された『越谷市民俗資料』には、増奈地区と向畑地区の田植え歌が掲載されています。2番までは双方の歌が似ています。

1. ヤーレ 十七ヨイ 今年初めてヨ 田を植えたよ（ア、ウエテジャレ、ウエテジャレ）
2. ヤーレ じゃも ナーヨイ この田はよく出来たよ（ア、ウエテジャレ、ウエテジャレ）

（ ）内はお囃子の言葉で、「植えて下がれ」の意味だそうです。手で植える場合、かがんで一株植えるとそのま下がつたって次の苗を植えました。植える位置は大体決まっています。目印を付けたロープを張るか、干め「田転がし」という道具で田んぼにマズ目を描いておきました。

苦しい作業もこの歌で少しでも気持ちをやわらげたのでしょう。中世には「田楽」という歌と踊りの一座を呼んで田植えをした地域もあったので、各地に残る田植え歌はその名残かもしれません。
まだ寒さが残るうちから苗代で育てられた稲は、「玉苗」という言葉があるように大切な尊い苗という気持ちで込められています。

こんな姿で植えました



サナブリ！

6月、厳しい田植え作業が終わった後は、神様に感謝し皆でお祝いと互いの疲労を含めた宴が開かれました。これを「サナブリ」と言いました。「早苗響」と書くそうです。一家の家族だけでなく、その家の田植えを手伝ってくれた人々を招いて行ったそうです。サナブリの様子を前掲の『越谷市民俗資料』からまとめてご紹介します。

- ★早朝から餅つきをして御馳走を作る。 ★まだ田植え中の人を励ますために田植え歌を歌う。
- ★12束の苗をきれいに洗って荒神様（稲の神様）にお供える。
- ★手伝ってくれた人には御馳走を振舞い、引き出物（饅頭、手拭いなど）を持たせる。

田植えや稲刈りは家族だけでは出来ない作業だったので、予め計画を立て、近所の家々が互いに助け合って仕事を成し遂げました。こういう仕組みを「結^{むす}」というところもあります。

『阿鼻叫喚からの再起』パネル展

レイクタウン防災フェス 2023

◆期間 令和5年5月27日(土)～28日(日)……この2日間は入館無料です。

◆場所 旧東方村中村家住宅(レイクタウン9-51)

今年は大正12年（1923年）の関東大震災からちょうど100年になります。当時市域での即死者は19名もいました。この大震災の様子を次の内容でご紹介する展示を行います。

- ◆大震災火地図(東京市) ◆戒厳令・勅令 ◆新聞記者の奔走
- ◆市域の状況(被害、救助、避難、恐怖、不安) ◆復興への取り組み



当時の紫島勅令（越谷市立現代資料目録所収）



古民家だより

No. 56

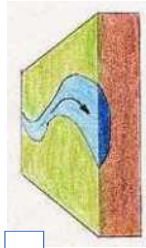
令和5年(2023年)7月14日(金)

越谷市教育委員会 生涯学習課

先日の台風第2号による浸水を破られた皆様には、衷心よりお見舞い申し上げます。
梅雨明けが待ち望まれるこの頃ですが、蟬の声もそろそろ聞こえ始めます。二十四もの季節があると言われる日本には、季節を織り込んだ世界一短い詩・俳句があります。市域でも近世から俳句の会がいくつも活動しました。

珍しい河畔砂丘の遺跡

生涯学習課では毎年何件かの遺跡発掘調査を行っています。昨年、当市では初めての「河畔砂丘」上の発掘を行いました。「越谷に砂丘が？」と思われるかもしれませんが、二十四もの季節があると言わが国内でも珍しい地形です。北上川や木曽川流域、そして利根川流域とその周辺だけに見られるそうです。それはどのようなようにして形成されるのかを図式化すると次の図のようになります。



1



2



3



4

- 関東平野は平坦で広大な土地なので、古来大小の河川が網の目のように流れていました。越谷市域では西に綾瀬川、中央部に元荒川、東部に古利根川・中川が流れていますが、その名が示すように、古の荒川、利根川とその支流です。
- それらの河川は度々氾濫を起こしました。洪水は上流から大量の土砂を運んできました。平坦な土地なので、洪水が終わると元の流路の両側には運ばれてきた土砂が残されました。
- こうして何度も洪水が繰り返されるうちに、河川の両側には小高い土地が形成されました。これを自然堤防と言います。そして河川と自然堤防の間には砂地（通称：きた火山灰など）が出来る所もありました。
- 一定方向から強い風、例えば関東では冬の季節風（からっ風）が吹く地域では流砂に溜まった砂が飛ばされて、一方の自然堤防上に堆積することがあります。これが河畔砂丘です。

市域の古代の姿『海道西遺跡』

市域で発掘した河畔砂丘上の遺跡は宮内庁埼玉鶴場近くで、『海道西遺跡』と命名されました。20m四方ほどの調査対象地でしたが、堅穴住居址2軒ほか、土坑30数基などが検出されました。遺物は土師器、須恵器、陶磁器類が出土しました。これらを考察してみると、この場所には



堅穴住居址

発掘調査区の空撮

調査の様子

海道??

ところで「海道」という名称についてです。遺跡の名称にはその地域、この場合は小字名が用いられています。この辺りには近世初頭に整備された日光街道（日光街道）が通っていました。そうであるならば「街道」となりそうですが、より古い言い方に「海道」があり、それが地名とされたようです。「海道西」は旧大林村にあった字名ですが、「海道」の付く字は市域では旧瓦曽根村と旧下間久里村にもありました。『武蔵国郡村誌』による）

開催します！

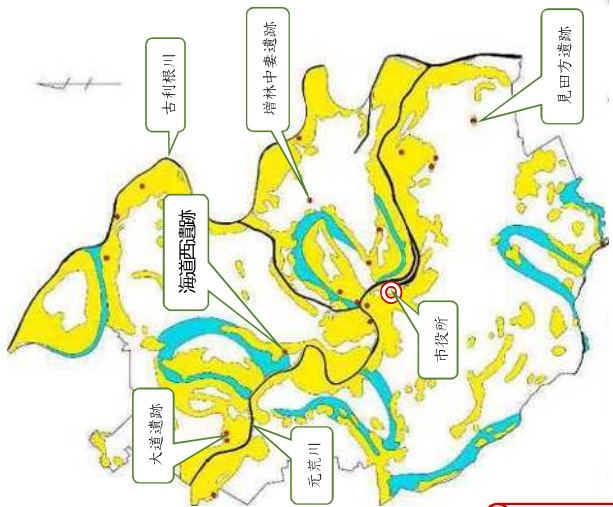
市内小学校開校150周年記念展示
「越谷から見た近代教育」
『第一部 終戦後の学校』
期間:8月22日(火)～9月12日(火)
場所:市立図書館1階展示室

9世紀～19世紀(平安時代～江戸時代)の集落があったことが分かっています。
(詳しい内容は市立図書館2階の参考調査室に所蔵されている『海道西遺跡発掘調査報告書1』をご覧ください。)

砂地に住居を建て集落を形成するのは不思議に感じます。実際、発掘に当たった職員は他の遺跡にはない困難を体験したようです。けれども古代の人が選んで住んでいるということは砂地も意外にしっかりしていたのかもしれない。自然堤防は町ページの模式図のように河川の氾濫によって堆積した小高い地形なので、古来早い時期に集落が形成され、社寺も多くはこの地域に建立されました。下の市域の地形を表した地図からそのことがわかります。

このように市域にも古代から人々が生活を営んでいました。現在判明している最も古い住居址は「増林中妻遺跡」です。8世紀後半の堅穴住居址が築かれています。これは九州の吉野ヶ里遺跡の時期と重なります。邪馬台国が日本列島のどこかに在った時期でもあります。邪馬台国の場所や成り立ちはまだ不明のことが多いのですが、その状況によっては越谷市域に在った集落、そこに暮らした人々の生活の様子にも関わってくることでしょう。

越谷市域の地形と遺跡の分布



■ 自然堤防 □ 湿地等 ■ 旧流路 ■ 河川等 ● 遺跡



体温を越す気温の日が何日もあるこの頃です。最早「地球温暖化」ではなく「地球沸騰化」の状態だと、国連事務総長の言葉です。78年前の「越ヶ谷国民学校 校務日記」では、8月の気温で30℃を超えた日は数日でした。

100年前の大震災

間もなく関東大震災から100年を迎えます。このことに関して越谷市教育委員会では5月に「レイクタウ
ン防災フェス2023」にあわせ、旧東方村中村家住宅で展示を行いました。その一部をご紹介します。

学校も大きな被害

出羽村立出羽尋常高等小学校



（市立出羽小学校沿革誌より）

各学校には開校から現在までのこと
を記した「沿革誌」があります。その
内の2校の記録をご紹介します。
大きな被害を受けて先生方が慰問と
救済に奔走したり、東京からの避難児
童を受け入れたことが記されて
います。

地域の寺社建築も損害を受けました。
出羽村北郷、元荒川近くの迎撞院の本
堂など、いくつかが倒壊しました。

大相模村立大相模尋常高等小学校

学校現場のドキュメント【現代語要約】 （市立大相模小学校沿革誌より）

- 9.1 【震災当日】
始業式だが朝からの豪雨で出席少ない。午前11時52分、
突如大地震、上下激動、定の踏む所を知らず。新く校庭に出
たら校舎が38度の傾斜。ガラスや壁が崩れる音が物凄く。
9.2 15日まで臨時休業。
9.6 震災善後策のため郡校長会。
9.16 本日より仮教場（大聖寺、観音寺、金剛寺）で授業開始。
9.25 校舎前急修理（傾斜を起こし屋根葺き替え）により、全児
童仮教場から移り、完全に授業開始。
9.30 本日まで収容した東京からの避難児童は31人。
10.3 県視学が震災後の状況視察に来校。
10.4 郡長が震災後の状況視察に来校。
11.6 修理完了。工費1000円也。
11.28 救恤（救済）品配給された。雑記帳75冊、半紙45
帖、毛筆30、鉛筆40ダース、慰問袋4、その他
1.31 第二次救恤品配給。教科書56、雑記帳889、掛図10、
地図3幅、謄写版、オルガン、解剖器具、裁縫用具、
虫眼鏡10、小黒板10、その他
6.18 救恤金196円7銭が村に送金された。
6.21 救恤金を罹災児童と収容児童の保護者に渡す。

市域全体の状況

町村	即死	負傷	全壊	半壊
桜井	0	0	68	35
新方	0	0	13	14
増林	0	4	36	37
大袋	1	2	44	22
狹島	0	3	33	15
出羽	7	24	151	41
蒲生	5	4	14	9
大相模	5	25	61	15
川柳	1	4	21	3
越ヶ谷	0	0	18	59
大沢	0	0	20	4
計	19	66	479	254

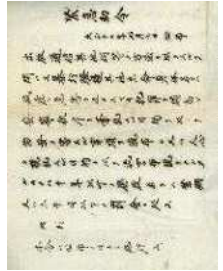
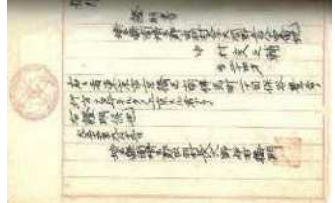
（「越谷市史 五」より）

復興に向かって



戒厳令の発布

一時的に法律を停止し
て、人々の行動を軍隊が
統制する戒厳令が出され
ました。そのために、越
ヶ谷から東京に行く際に
は左の証明書が必要でし
た。混乱の中での犯罪や
デマを防止するために、
下の「緊急勅令」も出さ
れました。



各町村から郡（県）には税金の免除が要請され、郡や税務署か
らは被害状況や資産状況の照会状が届きました。出羽村では税免
除を求める署名と嘆願書が出されましたが、左の史料はその際に
希望者は出頭して署名や申請をするように通達した文書です。文
言の右側にある小さなカタカナ文は地域の言葉に直して分かりや
すくしたもので、以下のように書かれています。被災した人への
役場の人の細やかな心遣いが表れています。

戸数割の税金を勘弁（免除のこと）することについて、印形（いんぎ
よう＝印鑑）持って、あした昼前、役場につきと来い。もし昼前に役場に来
（き）なかつたら勘弁（免除）はダメだ。

この他にも各戸に雨よけのトタン板を郡に要請するなど、町や
村の人々は様々な方法で自ら復興しようとしていました。

市内小学校開校150周年記念展示「越谷から見た近代教育」 『第2部 終戦前後の学校』

- *会期：令和5年（2023年）8月22日（火）～9月12日（火）
（休館日＝8月28、31日、9月4、11日）
- *場所：越谷市立図書館 1階 展示室
- *概要：昭和前期の概要、戦時中の学校と子どもたち、終戦、占領と学校、
再生への取り組み

当時の教科
書や写真、
日記や日記
も展示しま
す。

お待ちしております！

酷暑と豪雨に過水・・・両極端な天候が日本列島だけでなく世界中で現れた夏ですが、少しずつ秋の気配に換わりつつあるようです。古民家の姿を観ていると、以前の四季の特徴をよく踏まえた造りをしていることが分かります。そんな旧東方村中村家住宅では、先月22日に今年度新採用の先生方の研修会が行われました。

新任の先生、大いに学び

今年度新採用で越谷市立小中学校に着任した先生方は100人余り。そのうち26人の方々が旧東方村中村家住宅での研修会に参加されました。全員、初めての来館でした。その概要は次の通りです。

- ◆「昔の明かり」体験：①点灯した灯明、ロウソク、石油ランプ、白熱電球を見学。
②グループで疑問や感想をまとめる。
③シェアリング（各グループの発表と質疑のコメント）。
- ◆当住宅の見学・観察：①まず説明なしで現代住宅との違いに注目して各自で自由に観察する。
②③（同上）

シェアリングで出されたことや感想文の一部をご紹介します。

明かりが何でできているかなんで・・・

- ★ロフはどうやって作る？ 和ロウソクの作り方がすごい。
- ★和ロウソクの材料の見つけ方、調達の仕方は？
- ★明かり（照明具）の種類によって明るさが全然違う。
- ★灯明と和ロウソクを初めて見ました。便利になる中で失われていったものや、電気の普及の地域差など、普段考えない視点で学べたので良かった。



灯明



行灯

- ★明かりが何でできているのかを気づけたことがなく、ほとんども植物由来と聞いた時は驚きました。
- ★便利になっていく上で失われるもののお話が印象的でした。
- ★昔の人はこんなにも暗い所で生活していたのかと実感しました。明かりがあることで生活の幅が広がったことを考えると、私たちにあって明かりは、今の生活での第一歩であると思いました。

かつては家の内外の色々な場所にありました。屋内の照明具以外にも、竈、囲炉裏、土間、行灯、神棚、仏壇、風呂場などです。現代では“生”の火を見ることができなくなりました。灯明や行灯、石油ランプのように火事の心配が少なく、明るくなった車内、火や炎から受けける様々な感情を実感することが稀になりました。また、電気の普及の地域差があったこと（市域のかつての町村で、最大の差が10年以上ありました。）が、今では考えられないことなので、若い先生方には想像しなかったことのようにでした。

- ★なぜお風呂がないのか。

- ★生活の場とおもてなしの場が分かれていることを初めて知りました。

- ★普段触れることのない古民家を実際に見学することで、生活していたとしたりこんな時どうする？という疑問を持ちやすかったです。

- ★現代の家の造りと、なぜこんなにも違うんだというくらい、違いを昇つてくることができました。それは時間をかけて人々が暮らしやすい家造りを考えてきたからだと思えました。

- ★屋根が2つある。

- ★大きな骨組みと細かい骨組みを組み合わせている。

- ★木材の使い分けはどうしたのか？

- ★土間や敷居など、言葉としては知っていたものも、どう使われていたかを学ぶことができて良かったです。

当館の大きな棟（屋根）は確か2つあります。他に小さな棟が3つ、合わせて5つの棟で構成されています。木組みと木材の使い分け（棟頭）については文はい、着眼ですね。現代住宅では見られなくなった土間には、出入口、台所、作業場などの役割がありました。敷居は引き戸には必ずあるのですが、この名称は次第に使われなくなりました。『東家の敷居が高い（里）』には「ご存じない方も少なくありません。そのため、「レール」や「段差」などの表現になってきました。『東家の敷居が高い（里）』という言葉も使われなくなりました。

「私たちも学び、伝えたい」

- ★グループで意見を出し合うことで、自分が気づけなかったことを知れたので良かったです。
- ★シェアリングすることで新しい発見があったり学びがありました。
- ★小学校から中学校まで、ずっと越谷で育っていたのですが、中村家住宅を初めて聞きました。実際に見てみると、越谷にこういうものがあったんだと驚きました。
- ★我々が先に学ばなければならぬことを改めて感じました。



昔の明かりや古民家の材料の多くは植物です。それは最後の氷河期が終わって日本列島が形成されてから豊かな四季に恵まれたからです。以来、列島に住んだ先人たちは、時にそうせざるを得ない状況もあったにせよ、自然を観察し、その特徴を生かして生活を営んできました。先生方は改めてそのことを思ったのでした。

ご来館ありがとうございます

市立図書館で開催された「市内小学校閉校150周年記念展示『第二部 終戦前後の学校』」を終了しました。期間中ご来館頂いた皆様、厚く御礼申し上げます。展示の様子はこちらの「古民家だより」でご報告します。

エフワーク2023 展示
場所：旧東方村中村家住宅（エフワーク）
「結・結」
かつて市域でも生産されていた絹についての展示です。10月末までご覧いただけます。



古民家だより

No. 59
令和5年（2023年）10月11日（水）
越谷市教育委員会 生涯学習課

古民家や伝統的な産業などを見ていると、日本では季節の変化が多様で、先人たちはその折々の状況をうまく活用して暮らしてきたことが分かります。近年のように秋以前に比べて短くなってくると、生活の在り様も変化していくでしょう。**秋**は**とき**とも読み、とても重要な時期を指すようです。

越谷の学校を通して観た終戦前後

「市内小学校開校150周年記念展示 越谷から見た近代教育」の「第二部 終戦前後の学校」には多くの皆様にお出で頂きました。60歳以上の方が多かったのですが、青年層や壮年層の方々も沢山見て下さり、また20歳未満の若い人々もこれまでに多くのご来館いただきました。厚く御礼申し上げます。この展示の概要は次の通りです。

【序章】 教育に関する略年表（昭和初期～昭和22年）

【第一章】 戦時中の学校

- (1) 尋常高等小学校から国民学校へ……国民学校の教育の特質
- (2) 戦争末期の学校と子どもたち……『越ヶ谷国民学校 校務日誌』に記された空襲警報や勤労作業、イナゲ捕り、過酷な宿直勤務、教練、兵士見送り、村葬、『越ヶ谷高女』の学校生活。

【第二章】 終戦

- (1) 玉音放送……昭和20年8月15日の日記（作家・野口富士男、越ヶ谷高女の生徒）
- (2) 『越ヶ谷国民学校 校務日誌』に記された終戦直後の様子（秋島飛行場収収、進駐軍、等）

【第三章】 混乱と生活の立て直し

- (1) 混乱……買い出し列車、墨塗り教科書、学校での相次ぐ空襲。
- (2) 教育の変革……新教育方針、米国教育使節団報告書、新制中学校の誕生。
- (3) 人間性回復を求めて……越ヶ谷文化連盟の活動、文芸誌「草笛」、戦後の学芸会。

【終章】 “明日”に向かって

越ヶ谷高等女学校の先生の問いかけ「君たちは どう生きる？」

実物史料の発する力

今回は越谷市立図書館・展示室での開催でしたので、多くの実物史料を見て頂くことができました。そしてこれらの史料から、とても強い印象を持たれた方が多かったことがアンケートからわかりました。その一部をご紹介します。

『越ヶ谷国民学校 校務日誌』より

- ★戦時中、男性教員の徴兵により女性教員が宿直をせざるを得なかった事は初めて知りました。当時も今も教員は大変なだと思います。
- ★校務日誌、村葬写真、など実物の資料から身近に感じられた。



終戦1か月前の記録
（『越ヶ谷国民学校 校務日誌』越ヶ谷小学校蔵）
勤労作業や空襲警報、女性の宿直などが記録されています。

『越ヶ谷高等女学校生徒の通知表、漢字テスト、日記』より

- ★歴史として学んでいただけの戦争を感じられた。

特に8月15日の女学生の直筆の日記には胸を打たれた。

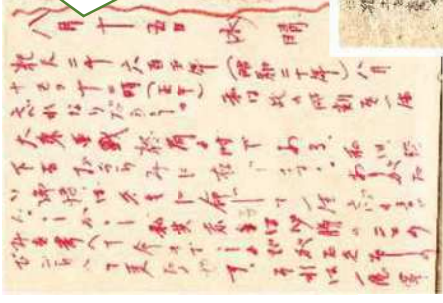
- ★わずか12歳の少女が終戦前後の日々に自分で体験したこと、考えたこと、正直な気持ちを書き綴っていた、グイグイ読まされた。

- ★普通の国民の日常の詳細や感情（多感な年頃、表に出せない心）までも目に浮かんできました。素直らしい。
- ★女学生の日記、驚かされました。多勢の方に読んでいただきました。思いしました。

- ★今こうしてアンケート書いている紙よりもっと弱い紙で勉強してんだ……
- ★12歳の少女の日記には心打つものがありました。貴重な私物を貸してくださった方々、有難うございました。

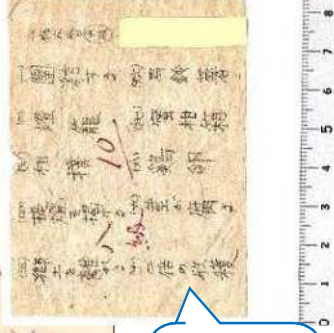
越ヶ谷高等女学校1年生の日記 昭和20年（1945年）8月15日（個人蔵）

他のページは鉛筆で書かれていますが、このページの冒頭は赤ペンで記されています。この後には、最後の一人になるまで耐え続けられたいのだと、天皇の言葉は畏れ多いものだったこと、敗戦は自分たちの努力が不足していたことが一因だったこと、敵国への憎しみなどが、6ページにわたって記されています。



越ヶ谷高等女学校生徒の漢字書取答案 昭和20年（1945年）（個人蔵）

鉛筆を丁寧に削り、紙を破らないように気をつけて書いています。



若い世代が感じたこと

この展示は特に若い世代の方々に見ていただきたいと考えていました。その人々の感想をご紹介します。

- ★歴史の授業で学んだこと以外のことを多く知れた。（10歳代後半）
- ★学校で戦争を知識として学び理解していたが、実物を見ることがより深い学びになりました。（10歳代後半）
- ★戦争前後のことをあまり知らないで、資料を見ることが出来た良かった。当時のことを知らない世代が生きていく時代になってきていくからこそ、知ることがとても大切なことだと思います。（30歳代後半）
- ★大きな展示などではほとんど見られない地元で特化した内容で、戦時中のことがより自分の身近なものとして頭に入ってきました。（20歳前後）
- ★一生懸命、勉強しようと思った。（小学生）

古民家での職業体験

中学生社会科体験学習事業の活動で、中学校2年生5人が大田町旧中村家住宅で、先月13、14日に職業体験をしました。これは中学校でのキャリア教育の一環です。当館の施設管理、電算機と古代の米の調理法、蚊帳と蚊取り、働くことの意義などを学習しました。事後に5人からいただいたお手紙には、丁寧なお礼と共に、古民家での仕事には管理の仕事と学芸員の仕事があることがわかったと書かれていました。

若い世代の皆さんももっと学びたいと受け止めてくださるようです。小学生の文、資料のどういうところからそう思ったのか聞きたかったですね。『校務日誌』や『女学生史料』を見て、「自分ももっと生き生きとくちや」と思ってくれたのかもしれません。次号では別のご感想をご紹介します。

同じ綿（綿）でもこんなに違ふということ、実物を眼にしていると思います。旧東方村中村家住宅（レイクタウン）と大間野町旧中村家住宅では数年前から綿を栽培していますが、これは「洋綿」で、今年は春日部市立郷土資料館のご協力で「和綿」も栽培しています。両者は今、実が開裂して綿毛が出ていますが、この様子が異なります。『武蔵国郡村誌』には少なくとも明治初期まで中域のいくつかの村で綿の生産が行われていたことが記されていますが、これは恐らく和綿の方だと思われます。

越谷の学校を通して観た終戦前後

前号に続いて、「市内小学校開校150周年記念展示 越谷から見た近代教育『第二部 終戦前後の学校』」をご覧頂いた方々の感想・ご意見をいくつかご紹介致します。

自身や世の中と向き合って...

今回の展示をご覧くださった方々の多くは40歳代後半以上の世代の皆様でした。人生の半ばの方、すでに職を離れた方、そして終戦前後に生まれた方 です。この方々はそれぞれにこれまでのご自身の来し方や社会との関りを振り返りながら観になったようでした。

- ★戦争中の「教育」が選られて、学びたくても学べなかった子供たちの様子が少しわかりました。**
- ★入試があって合格して入学しても学べない 無念さが切なく感じました。**
- ★終戦前後の歴史をほとんど勉強しないで年を重ねてきました。改めてその一面を勉強させて頂きました。**
- ★大東亜共栄圏を勇ましいと思った小学生時代の考えを反省しています。**
- ★自分が育ち、お世話になった地の成り立ち、教育の変遷にはとても興味をひかれます。先人の様々な努力の上に現在の我々があ**

るのだと、改めて考えさせられました。

- ★国境世代の私は明治～終戦までの学びが足りておらず、退職後によりよく少しずつ取り組むようになりました。ああ、こういうことだったのかと、心の痛みと共に教えられること多いことか。あの高度成長期を無自覚に前だけを見て、自分のことだけを考えてきた反省も込めて学び、できれば孫たちに伝えていきたいと思います。**



雄力の演武 越谷市立越谷小学校蔵）
 国民学校高等学年女子の武道として
 指導されました。



軍事教練
 （越谷市教育委員会蔵）
 敗戦後の農地で中等
 学校男子生徒が軍人か
 ら軍事訓練を受けました。

- ★もう少し掘り下げての展示が欲しいと思います。（広さも、場所も）なぜ戦争があったのか、越谷での戦争の影響、町づくりなども。**

- ★年表が市と国内と世界と対比して書かれていて、とてもわかり易く興味深かった。**

- ★戦中の教科書が有るのが大変良い。できれば内容も閲覧できると良い。**

- ★ぜひ役所でこの展示を行っていただきたい。もっと多くの人に見てもらいたい価値がある。**

歴史を学ぶことで現代社会や自分自身と向き合うことがあります。これらの感想は40歳代前半より若い方々の先進ともなるのではないのでしょうか。

有名な出来事や人物だけが世の中を作り動かしているわけではないということも、これらのご感想から伝わってきます。時の中央政權、為政者の政策は生活に大きな影響を与えますが、市井の人々はいつも受け身でいるわけではなく、様々な条件の下でもその地域から国や世界を觀て、時には苦しみ時には希望をもって生きようとしていたことが様々な史料から感じられました。

このことは幕末に於いても同様で、『第三部 近代学校の夜明け前』で取り上げたいと計画しています。（令和5年12月16日～令和6年1月22日 於：旧東方村中村家住宅）

和洋の綿(綿)

普段何気なく身につけている綿製品ですが、“綿（棉）”が元ほどのような物なのか、あまり意識しません。麻が庶民の衣類の中心だった生活から綿の普及によって、人々は随分と快適になったと思われています。

旧東方村中村家住宅では、9月中旬から10月末まで、綿に関する展示を行いました。



和 綿
 洋 綿



【ご感想】

- ★庶民に広く綿が普及したのは意外と新しい時期だったのだと初めて知った。昔は寒さをしのぐのも大変だったのだらうと思った。**
- ★美濃に親戚から製綿まで作ってみたいになりました。**
- ★自分で種をまいて布を織るまでしてみたいので、学ばせてもらいました。日本でワタを生産できると知らなかったで、今日知ることができて良かったです。**
- ★ガイドの方が丁寧に説明して下さいだったので、より理解し易かったです。このような歴史的建築物（市井の人々）は、是非保存を続けて子供たちへ教えていって頂きたいです。**
- ★綿を紡ぐところのDVD 鑑賞あるといいなあと思った。**



古民家だより

No. 61
令和5年（2023年）12月22日（金）
越谷市教育委員会 生涯学習課



古民家をなぜ保存するのか・・・何年か前の小学生からの問いです。古民家を観察すると、わが国の季節の豊かさやそれを巧みに利用してきた知恵や思想を知ることができます。そしてそれは決して過去の遺物ではなく、現代や将来の人や社会の在り方をも示唆しているようにも思えます。

場所の在り方をも示唆しているようにも思えます。

も感じざるを得ません。この夏、大間野町旧中村家住宅では雨戸の真鍮製レールが錆害のために曲がっていました。平成16年（2004年）の開館以来初めてのことで...

これまで四季の特徴やその移り変わりは当たり前のこととされてきたことが、これからはそうではなくなってしまうのでしょうか・・・

外の国から古民家を観ると...

11月初旬、市内の文教大学に留学している学生16名が旧東方村中村家住宅に来館しました。出身国は中国9名、韓国2名、タジキスタン2名、スリランカ1名、ドイツ2名でした。皆さん日本語が堪能で、職員の説明を熱心に聴いてくださいました。

【見学の概要】

＊棉（綿）・・・当館では和綿と洋綿を栽培していて、ちようと綿毛が露出している様子を見てもらいました。中国、韓国、タジキスタンでは綿花生産が盛んです。特にタジキスタン国旗の白色部は綿花を表しているとのこと。同国留学生は「自国で栽培しているのは洋綿です」と指差しました。

＊古民家の特徴・・・建物の多くは植物で、300年保つように建てられていること、多湿・多雨に耐える柱、特に根継ぎには皆さんが興味を示していました。また、腐食防止に柿渋を塗布したことを話すと、特にタジキスタンやドイツの学生は驚きの表情をしました。彼の地には柿はあまり見られないのです。土間の床は石と思った学生が多かったです。使われている木材とその役割、文字通りの適材適所という用法にも興味を持ってもらいました。いくつかの接ぎ木の見本も手に取って確かめてもらいました。

「Amazing!（驚き、見事）」～留学生の感想～

留学生が日本語または英語で伝えてくれました。一部を改め、英文は日本語にてご紹介します。（）内は出身国です。

- ★この木製の家がとてもよく保全されてきたことに驚いています。（中国）
- ★中村家住宅の構造に衝撃を受けました。床（土間）を作っている材料が粘土や石灰、にがりということも、それらは驚くべき見事な仕事だと思います。（スリランカ）
- ★（来館して）その時代に行った感じがしました。（タジキスタン）



- の絵があることに驚きました。（中国）
- ★伝統的な住宅建築技術を教えてもらったのがとてもよかった。（ドイツ）
- ★私は古い日本の建築物が好きですが、この住宅はかつて人々がどのように暮らしたかを表しています。多くの説明にとっても興味を覚えました。（ドイツ）
- ★韓国と同じような部分があって面白かったです。広い畳の部屋を見たのが初めてで、本当によかったです。（韓国）

他言語を学ぶ意味

留学生の皆さんに、日本のどんな文化に興味を持ったのかを尋ねてみたところ、次のように応えてくれました。

食べ物と料理法、ラーメン、アニメ、映画、寺院、神社、狐、鬼、歌舞伎、歴史、書物、茶道、ひな祭り、伝統的な音楽と楽器、能、伝統的な建物、ポップカルチャー

「日本語は難しいですか?」と尋ねると、皆さんそろそろうなずきました。特に敬語（丁寧語、尊敬語、謙敬語）が「ムズカシイ～」とのことでした。けれども、このような日本の文化を深く知るために日本で日本語を学びたいと来日したのです。ある国や民族の固有の、あるいは特徴的な文化を極めようとする際、その言語から学ぶことはとても大切なことですね。留学生が来日して研究することは、わが国にとっても学びが深まることになろう。国や民族を越えて若者たちが互いの文化を学び合うことは、将来さらにによりよい世の中をつくるいく下地になるのではないでしょうか。

寺子屋から近代学校へ

今年は市内の8小学校で開校150周年を迎えました。そこでその記念展示を第一部、第二部と行ってきましたが、先日より第三部を開催しています。寒い中ですが、どうぞ来館ください。

市内小学校開校150周年記念展示

越谷から見た近代教育 『第三部 近代学校の夜明け前』

- ◆令和5年（2023年）12月16日（土）～令和6年（2024年）1月22日（月）
休館日：12月20日（水）、27日（水）、29日（金）～1月3日（水）、1月10日（水）、17日（水）
- ◆於：旧東方村中村家住宅 越谷市レイクタウン9丁目51番地（期間中は入館無料）
- ◆第1章 地域の子屋 第2章 近代学校の始まり 第3章 中村家とその時代

能登を中心とした震災の犠牲となられた方々、被災された方々に謹んでお悔やみ、お見舞い申し上げます。その後も頻発している余震や暴風雪、寒波で厳しい生活状況と想います。一日も早い復興をお祈りいたします。大変な年明けとなりましたが、今年も宜しくお願い申し上げます。

大人も再認識

小学生の時代感覚と生活認識

学校教育の一環として、越谷市で管理運営している古民家（2つの中村家住宅）での見学や観察、体験活動をした児童の反応や言葉には、驚かされたり認識を新たにすることが度々あります。今号では、これまでのそうしたことをまとめてみました。

“昔”って、いつのこと？

小学生の時代や時間の感覚は大人と異なります。現在の大人もかつて小学生だった頃の時代感覚は、とうに忘れてしまっています。「昔の暮らし」を学びて来館する学童に「“昔”っていつのこと？」と尋ねると、小学3年生でもいろいろな答えが返ってきます。例えば、

武士がいた頃 100年前 300年前 1000年前 江戸時代
明治 ジイジが生まれた頃 昭和・・・

そこで説明者が「私は昭和生まれだけど、昔の人？」と言うと、(ウン、ウン) とうなずく学童や「ちがう、ちがう」と気を遣ってくれたりします。歴史（通史）や時代区分を社会科で習うのは6年生になってからなので、3年生頃の時代感覚はこのように実に様々です。

私たち生涯学習課職員は時代や時期の共通認識をもって見学や体験をしてもらうために、それをどのようにしたら良いかを試行錯誤してきました。社会科見学が始まった当初は「およそ〇〇年前」とか「江戸時代」などと説明しましたが、後に江戸時代物産（1年を1cmにしたスケール）を用いました。それでも感覚的にしっくりこない様子も見られたので、最近では電気や水道設備等がなかった時代という言い方をしています。これは、電や曲戸敷、天料係や大八、重、銅鑄や石曲ランプが日常的に使われていた時代を具体的に共通認識するための表現です。

「木が在る!」「骨っ!」木材の本来の姿から学ぶ



大間野町旧中村家住宅 土間上方の梁

これは児童が主屋に入って土間で梁を見上げた時の声です。「木が在る」とは、太く曲がった、丸太のままの梁の存在に圧倒されてしまったという、とても正直な表現ですね。この端々しい感性に、私共も改めてこの造形やその背後にある思想に思いを致します。このような材は現代住宅にはありませんし、そもそもむき出しの梁は見えません。そして室内を見渡してみると、あらゆる箇所木材が使われていることに気づきます。このことは現代の木造住宅も同様ですが、現代では壁紙や塗装などのために、木材そのものを見たり触れたりすることはかなり少なくなりました。旧東方村中村家住宅では梁組を「骨っ!」と表現した児童もいました。また、「筋穴」を不思議そうに見ている児童もいました。平成生まれの先生の中には、「筋穴」という言葉は知っていても初めて実物を見たという方もおられました。

わが国の非常に多種類の植物原生によって、建築物や生活用具が制作されてきたこと。それはまた季節の多様さやそれを生みかしてきた先人の思想と知恵によるものであることを、私たちは改めて気づかされています。博学選判は決して一方通行ではなく、双方向で学び合える貴重な取り組みなのです。

そこにはないものからの疑問と想像

古民家での見学や体験をして、そこにはないものに気づく児童もいます。その例をご紹介します。

水はどこから？ そとでどこで使ったの？

越谷市で管理・運営している二つの中村家住宅には、本来あった“水回りの設備”はありません。それは当時の井戸や流し台、下水溝などです。生活には決して欠かせない水のことだけをテーマにしても、深い学習ができるのではないかと思います。井戸や風呂桶という生活用具・設備だけでなく、例えば風呂桶を水で満たすのにどれくらい井戸水を汲むのかとか、シャワーはないので体を洗う湯はどうしたのかなどから実感させることも可能です。

時計がなかった昔には、どうやって時間がわかったの？

日の出、日の入りを基準にして大まかな時間を十二支などで表していた不定時法では、寺院の鐘の音などで時刻を把握しました。明治5年（1872年）、太陽暦に基づく定時法が採用されて現在のような表し方になりました。しかし、まだこの頃は一般家庭に時計があることはとても稀だったので、役場から寺院や学校に知らせたのではないのでしょうか。明治8年（1875年）の『進文学校 規則』には、「始業の合図は呼子（ホイッスル）」とあります。他の学校ではハンズベルや板本を打って知らせました。やがて鉄道馬車や蒸気機関車（ボイッスル）とあります。停車場（駅舎）でも時刻がわかるようになったことでしょうか。役場や学校、寺院、停車場の周辺の人々にはこうした施設の動きや音から時間を判断したかもしれません。

こうしてみると、時計が各家庭になかった時の生活を疑問に思うという想像力は素晴らしいですね。

火の時代はあったのですか？

これには「前笑」しました。「昔の明かり」体験では、電気が通る100年以上前の照明は全て火を用いていたことに児童たちは気づきます。そこで、ヒトが火を使うようになる以前の生活はどうだったのかという問いでした。ヒトが火を使うようになって数万年、炎をずっと見続けてきましたが、近年の発達によって、普段の家屋の中で炎を見ることが稀になりました。このことが私たちの精神性にどのような影響を与えるのでしょうか……

寒、時にはどのように温まっていたのですか？

2つの中村家住宅での社会科見学・体験から冬に行われることもあって、電気が通ってなかった時代に寒さをどのように防いだのかという疑問が湧いたのでしょうか。暖房にも火が使われましたが、手元や脚を温める器具（ひし、行火など）でした。布団には湯たんぽを入れ、窓枠はその傍で顔を抱きました。炬燵は小さな火の上に設えたことを伝ええると、驚いた表情でした。



ここに灰と炭火を入れて使いました。

行火 越谷市教育委員会蔵
これに布団をかけて温まりました。

“そこにはないもの”に気づいて想像することは、とりもなおさず【現在】を別の視点から観るということにもなりますね。小学生の何気ない雑碎な反応からその意識や感性を知ることによって、私共も新たな観点を見出すことがあります。
地域の様々な史料（建築物、民具、古文書、行政資料、写真等々）を教青現場でもさらに活用していただけたらよいと思います。

博学選判

博物館（資料館）と学校が共同して児童生徒の歴史学習を行うことです。越谷市には資料館がないので、2つの中村家住宅や発掘現場でこの活動を行っています。実施に当たっては学校と生涯学習課文化財担当とが打ち合わせをして、学習内容や活動内容を相談しています。



ある小学生の弁当
(大間野町旧中村家住宅にて)



古民家だより

No. 63
令和6年（2024年）2月21日（水）
越谷市教育委員会 生涯学習課

日本語には「姿」や「形」と表現する言葉がありますね。冬の寒い夜、暗々とした“月影”に、ふと『灯台寺』という歌「凍れる月影 空に冴えて……」を思われる方もいらっしゃるでしょう。原曲は外国のものですが、わが国では明治22年（1889年）の『明治唱歌第三集』に掲載され、後に昭和22年（1947年）『五年生の音楽』（共に文部省）に掲載されました。昭和58年（1980年）にNHKの『みんなのうた』でこの歌が紹介された際には、かつて灯台寺が勤務した船倉島（輪島市）の灯台も放映されました。被災地の方々は今どんな思いで月影を見ているのでしょうか。

市内小学校開校150周年記念展示「越谷から見た近代教育」

『第三部 近代学校の夜明け前』を終えて

今回の展示は期間中584人の方々にご覧いただきました。有難うございました。アンケートに記されたご感想からいくつかご紹介致します。

『近代化への躍動を感じます』

- ★今日の日本の教育につながっていることがよくわかりました。（県内）
- ★江戸時代→明治の初期に「お寺」の果たした役割の大きさに感銘を受けた。（市内）
- ★近代教育の下地が寺屋にあって、理解できました。（県内）
- ★日本が大きく近代化に向かっていく躍動を感じます。（市内）
- ★寺屋の歴史を順に追えるパネルなどがとても見やすかったです。（市内）
- ★（今回は第三部だが、第一部から）トータルなシリーズとして拝見したく思います。（隣接市）
- ★南埼玉郡が浦和、川越に比べ寺屋数が少ないのが意外でした。江戸→明治期の移り変わり、拡がり方がわかる展示でした。今の街の姿が知らず、当時のこのエリアの姿を垣間見られ興味深かったです。（隣接市）
- ★小さい頃からこの中村家住宅は目にしていたし、小学校の時に一度見学をしたことがありましたが、今改めて来てみて、寺屋をやっていたことや大聖寺に関りがあると知って驚きました。（市内 高校生）
- ★学割スタートの時点で、大相模地区の三校（連文、埴根、千平）の在籍児童数の合計が53名に昇っていた。あの移殖地に負しい時代に、わが子を入学させた農民の親御さんたちに、ちょっと寂がそうになりました。（隣接市）
- ★今回の展示は越谷を中心になっているが、日本全体としてはどうだったのか……社会科教員になった時に「学割」から派生させて今回の史料を駆使したいと感じた。（隣接市 大学生）

近世末期～明治初期の日本人の識字率は、当時としてはとても高かったと思われます。それは寺子屋によるところが大きかったわけですが、越谷地域でも教育の近代化を支え促進させる人々と活動があったことを、ご来館下さった皆さんが感じ取られたことを大変うれしく思っています。

寺子屋の運営・活動を担当した師匠は、近世前半には武士や僧侶がほとんどでした。それが天保期（18世紀中葉）以降は農民や商人などが多くなっています。寺子屋は明治5年（1872年）以降に近代学校に繋がっていきま

すが、寺子屋師匠から学校教員になった人の中に、現在の市立大相模小学校の前身であった「培根学校」を設立した中村義章（号：培根）がいました。今回の展示ではその人についても紹介しました。

礎を作った寺子屋師匠 中村培根

- ★幕末からの歴史の中で、一地方の名主が果たした役割とはいえ、すごい感を感じました。（市内）
- ★越谷には大変な方がいらしゃったことに驚いています。（春日部）
- ★江戸の末期から明治初期のあの激動の頃の画のような時代に、“中村義章”名主がいたことに感銘を受けました。あの頃、己を捨てて地域の子供たちに寺子屋を開き運営する姿に頭が下がりました。（隣接市）



中村培根(義章)年譜（年齢は海年齢）

- ★文政元年（1818年）：西谷村（現八潮市）の名主・小澤豊功の三男として出生。幼名・千之助
- ★文政8～12年（1825～25年）：実父から漢籍の講義を受ける。（7～11歳）
- ★天保2年（1831年）：東方村名主・中村興治の養子となる。（13歳）この年から天保4年まで菊池太郎より漢学の講義を受ける。
- ★天保5年（1834年）：中村家を相続し名主役となる。（16歳）
- ★天保9年（1838年）：この頃に「た」と結婚。（20歳）
- ★嘉永3年（1850年）：養父との扶養契約をする。（32歳）
- ★嘉永～安政年間、この間、度々借金をする。（30歳代～40歳代）
- ★安政元年（1854年）：家族の在り方を『修斎編』として著す。（36歳）
- ★安政2年（1855年）：養父死去。
- ★安政3年（1856年）：この頃『外夷建議録』（開国についての諸大名、幕臣の意見まとめた書物の写し）を借りて書き写す。（38歳）
- ★明治元年（1868年）：この頃、村の長としての心構えを記す。（50歳頃）
- ★明治6年（1873年）：培根学校を（後の大相模小学校）設立。（55歳）
- ★明治9年（1876年）：死去。（58歳）

中村義章の履歴書(写)

（越谷市教育委員会蔵）

明治6年に学校設立に当たって県に提出したものの控えです。

『中正ノ奮發力カラ義章ノ事』

（一部現代語訳）（越谷市教育委員会蔵）

我が国を世界一の豊かな国にして子孫にその恩恵を享受させたいと望むことは、すぐに出来る事ではないが、村の長が勉強して奮発することによって、世の中がそれにならなければ達成できないことはない。



No. 64

令和6年（2024年）3月19日（火）

越谷市教育委員会 生涯学習課

古民家

だより

例年この時期になると桜前線が話題になります。我が国では梅が咲くと次には木蓮や辛夷、桃、桜、ツツジやサツキと順番に開花していくのを楽しみます。これらの開花期間は地域によっても異なりますが、花と花の間も長短がありますね。各地の古民家はどういう風景の中で営まれた生活を表しています。

やほい、いい反応

地域史料のか

これまでの教科書を中心とした学校での歴史学習は、何かどこか遠い所で昔にあった出来事＝今の自分の生活には関りがないという感覚があります。そうしたことあって、近年では主体的に生ききる人を育てるといふ観点から、地域史（地域の出来事）を取り入れようとする試みが行われています。1月に市立西方小学校で埼玉県社会科（東部ブロック）研究会が行われ、越谷の史料を用いた6年生の歴史授業が展開されました。その一端をご紹介します。

単元のテーマ：「長く続いた戦争と人々のくらし」

	各授業のテーマ	内 容	資 源
課題をつかむ 調べ 各 自 の タブ レットにある資料 を駆使して、いく つかの視点で 調べろ。	①原爆ドームの姿	3つの時期の写真を見て、学習の課題をとらえる。	
	②広がる中国との戦争	満州事変～日中戦争・・・・どんな戦争だったのか	
	③戦争の拡大	第二次世界大戦、太平洋戦争	
	④戦争中の人々の生活【研究授業】	配給制、勤労動員、集団時間	
	⑤本土空襲	東京大空襲など	
	⑥戦争の終わり	沖縄戦、原爆、連年参戦、降伏	
まとめる	⑦まとめ	戦争の影響など	

上の表中④が今回行われた授業です。この中で用いられた越谷地域史料は次のものでした。



教科書『初等科1年 算数』
(越谷市教育委員会蔵)

昭和16年(1941年)以降使用された教科書で、数を認識させるのに兵士や軍用機が描かれています。



雄刀の演武
(越谷市教育委員会蔵)

昭和16年以降の国民学校では、高学年児童に「武道の授業がありました。男子は剣道や銃剣術、女子は雄刀でした。この写真は越谷国民学校(現・越谷小学校)での様子です。



出征兵士見送り
(越谷市教育委員会蔵)

越谷谷駅頭と思われる写真が、正装して見送られました。児童は英霊(戦死者)を迎えることも次第に多くなっていました。

この研究授業中、指導の先生が児童たちに“調べる”視点として確認したのは、「内」「食」「住」と「学校」でした。この内、4つ目の「学校」という視点で調べていた児童が見ていた資料が、この写真でした。指導の先生は予め生涯学習課に当時の地域史料提供を申請され、いくつもの史料を吟味の上、児童のタブレットの中に仕込んで備えておられたのです。児童たちは各自で調べたことを小グループでまとめ、それを発表して知識や感想を共有していました。その一部の「まとめ」をご紹介します。(視点「学校の部分」)

- ★戦争の絵が教科書にあるなど、かなり戦争をすすめるような教育だった。
- ★小学生でも戦争へ向く訓練を受けていた。
- ★心身を鍛え、身を捧げていた。

児童たちは戦地にいたばかり小学生にとっても戦争が身近だったことを感じたようです。そして前掲の写真が出さ

れた際、先生が「これは今の越谷小学校の様子だよ。」と補足すると、児童たちから「ハエー！」という声があがりました。授業後、参観した様々な学校の先生たちも「地域の史料を使うと反応がいいね」と話合っていました。

史料との対話

地域史料のメリット

児童の反応や事後の参観者の言葉からも、地域史料を用いる意義が伝わってきますね。この研究会が発行した『実践事例集・第12集』には、他校で行われた同じ単元の授業報告の中に次のような文があります。

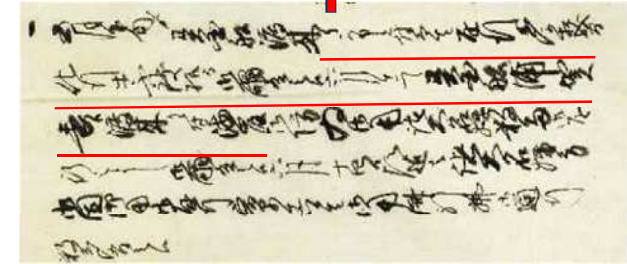
- ★地域素材を教材化して学習に取り組むことで、児童にとって時間的・空間的に離れている戦争という歴史的事象を身近に捉えさせることができました。
- ★歴史的事象と自分とのつながりがわかることで、児童の興味・関心は高まり、意欲的に問題を迫及することにつなげた。

このような意義がある地域史料ですが、単段の校務の中で先生方がこれを駆使することには大変なご苦労があると思います。生涯学習課では市史料のデジタルアーカイブを進めており、一部はすでに公開して頂ける状況ですが、今回のように先生方からのご要望があれば、精一杯対応させて頂きたいと考えております。

370年間の年代記

越谷中新聞 産社祭礼帳

実に370年もの間、市域の中で受け継がれている行事と記帳があります。370年前といえば江戸幕府4代将軍・家綱の頃で、明暦の大火で江戸城や町が広範囲で焼けたり、徳川光圀（水戸黄門）が「大日本史」の編纂を始めた頃です。途中には記帳がない時期もありましたが、今なお連続と受け継がれています。けれども継承の困難さもまたあるようです。



この行事とは「オビシヤ」です。「御歩村」や「御奉村」と言われたものが訛ったものだそうで、市域にあったいくつかの近世農村でも行われてきました。村の神社で司矢の政府を行い、収穫に感謝して祝う行事が基になっていることが多いようです。この折に記帳された記録が「祭礼帳」です。『埼玉のオビシヤ行事』(埼玉県教育委員会)等市域で370年も書き継がれている祭礼帳『越谷中新聞 産社祭礼帳』(越谷市指定有形文化財)です。この中からいくつかご紹介しましょう。(現代文で要約)

- ◆寛保2年(1742):8月2日、大出水があり、関東一帯は水かさが増え2mほどにもなった。そのため年貢は無しとなった。
- ◆寛政4年(1792):4月、伊奈家断絶となった。春から夏まで早・綾瀬川から村人が協力して水を運んで、この年、豊作となった。
- ◆嘉永6年(1853):6月12日、異国船の浦賀球航(ペリー来航)で、海軍防備の諸大士様が大勢ご通行のお慰め出された。【この部分は左の写真中、赤線部の要約です。】
- ◆昭和122年(1947):敗戦から2年、我が民族にとって最も困難な年だった。占領下の制限があり、また食糧不足が甚だしく、大都市ではかなりの餓死者も出た。

そして最新の記帳は次のように記されています。

- ◆令和5年(2023):新型コロナウイルス感染症の法律上の分類が五類に引き下げられた。日経平均株価が6月には33000円台に回復した。6月2日からの大雨、台風2号により、当地区でも道路の冠水があった。水廻りは高温障害で品質低下に悩まされた。年が明け、能登地震発生。マグニチュード7.6を記録した。

「世の中に税というものがなかったら、春の心はもっと穏やかであっただろうに」と言った古人がおりました。現在、校前線は津軽海峡を越え、またした。右の写真は元荒川右岸に残る「豊田の校」です。昭和15年(1940年)に「紀元2600年」を記念して建設されました。当時この校を眺めた人の中には生還できなかったことでも知ることができます。そして現代では、コロナ禍、地価、入学生、進学や就職、出会いや別れなど、様々な思いで花を眺めた方々も多かったことと思います。

未知の時代の姿が徐々に～8世紀の“こしがや”～

“空白の4世紀”を少し埋めることができます。豊富な発掘調査が行われていて、2m30cm以上の板行剣や盾型銅鏡のほか、笠簾や銅鏡を副葬し水鏡朱の施しも確認できる木棺が出土しています。1600～1700年ほど前のこの時期の文献史料はわが国にも中国にも乏しいので“空白の4世紀”と称されるのですが、当時のことは古墳や集落遺跡などを中心に研究が進められています。

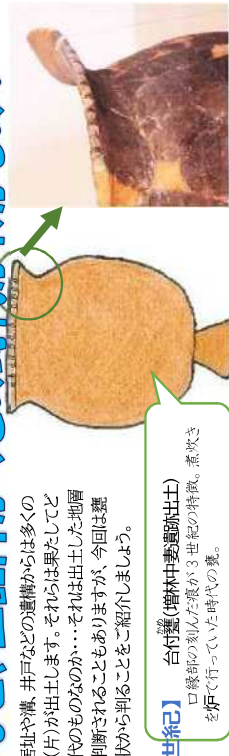
また滋賀県大津市では、今と言われている坂本城の石垣の一部が発見され、調査が進められています。戦国時代に明智光秀が琵琶湖に築いたもので、地元では国指定史跡を目指しているとの報道です。

越谷市でも毎年複数箇所の発掘調査が行われていますが、平成29年(2017年)には市域で最も古い3世紀後半(弥生時代末～古墳時代初期)の整った住居址と竪穴式土器片が発掘されました。この時代の遺物出土は初めてです。その土器(土師器)の特徴をお話しする前に、古代前半～中盤の“こしがや”の様子を略年表でみてみましょう。

世紀	時代	“こしがや”の出来事	日本全体の動き	世界の動き
1, 2	弥生	九州にいたつもの小国家	九州にいたつもの小国家	ローマ帝国や漢王朝が繁栄
3	古墳	卑弥呼の邪馬台国	卑弥呼の邪馬台国	中国は三国時代
4	古墳	増井中妻遺跡、笠穴式土器、甕出土	奈良に大和政権	ローマ帝国が没落、中国は魏朝の時代
5	古墳	後、古墳、末に新羅	後、古墳、末に新羅	ローマ帝国が没落、中国は魏朝の時代
6	古墳	増井中妻遺跡、笠穴式土器、甕出土	後、古墳、末に新羅	ローマ帝国が没落、中国は魏朝の時代
7	古墳	大化の改新(645年)～壬申の乱(672年)	大化の改新(645年)～壬申の乱(672年)	隋が中国統一、唐が中国統一
8	奈良	大相模不動堂(大聖寺)建立(750年)	大相模不動堂(大聖寺)建立(750年)	新羅が朝鮮統一

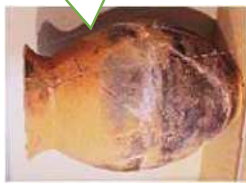
なぜ、土器片からその時代がわかるの？

住居址や溝、井戸などの遺構からは多くの土器(片)が出土します。それらは果たしてどの時代のものなのか……それは出土した地層から判断されることもあります。今回は甕の形状から判別することをご紹介します。



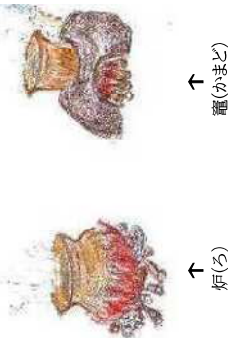
【3世紀】 台付甕(増井中妻遺跡出土)
口縁部の刻んだ文様が3世紀の特徴。煮炊きを行っていた時代の甕。

【6世紀】



煮炊き(かまど)を使う(見田方遺跡出土)
煮炊き(かまど)を使う(かまど)になる、このように甕が作られるようになります。

「炉(ろ)」と「甕(かまど)」



↑
甕(かまど)

【7～8世紀】



甕(西口遺跡出土)

胴部が長くなり、口縁部がゆるぐ外反します。この頃の土師器はかまどで煮炊き(かまど)になる、このように甕が作られるようになります。

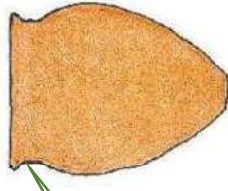
初めての8世紀の土師器です。

【9世紀】



甕(海道西遺跡出土)

口縁部の下がカタカナの「コ」の字のように直線的になっている。これは「武蔵型甕」と呼ばれ、関東地方周辺の特徴です。



このようにして口縁部付近の形状によってその土器の時代が判別します。これ以外にも整形時につけられた土器の外側や内側のヘラ痕、ハケメ痕なども時期や地域によって異なるようです。これは膨大な発掘史料の集積と分析によってなされたものです。考古学は社会科学と自然科学の双方の学問によって積み重ねられてきました。土師器は、前掲の年表に示した時代の中でも作り方、技術が進化しています。土器表面のヘラ痕やハケメ痕を観ると、丈夫で効率的な煮炊き(かまど)を作ろうとする先人達の意図が伝わってきます。調査の職員はその跡も丁寧に記録します。考古学、歴史学はそれを解き明かし過去のことを調査研究する学問ですが、それは現代社会を捉え将来を考えるためのものなので、この調査・研究に携わっているのは大学や博物館などの研究機関だけでなく、本市にも発掘調査を担っている職員がいて、今号では担当職員の話を聞いて記事を作成しました。

ボク、高師小僧です！



元荒川に近い発掘現場から出てきた。竹輪のような形状と大きさです。土中の鉄分が著るなどの根元にまじわりついて固まった後、その植物が腐食して空洞になり、このようなものになりました。「たかしこぞう」と言います。

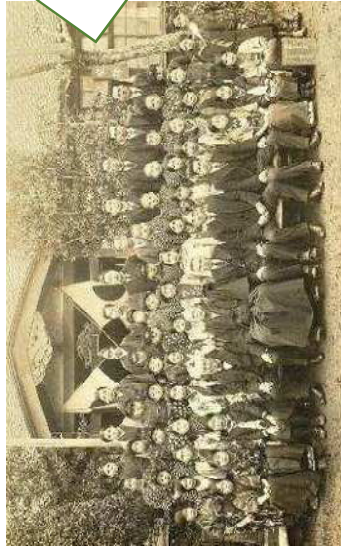
「古民家だより」バックナンバーにも発掘の記事があります(越谷市平)

No.4 大田遺跡 No.44 地中から学ぶ No.56 海道西遺跡 寄

「風薫る好季」ではありますが、このところは寒暖差が大きいです。そのことによるストレスも気づかないうちに受けていることもあるそうです。そんな時、市内の二つの古民家「中村家住宅」(レイクタウンと大間野)や元荒川河畔を散策するのは如何でしょう。市役所本庁舎8階の展望室からの眺めもいいです。

近代の地域の証人 学校史料

1年余り前から3回にわたって地域の近代教育150年の様子を展示紹介してきましたが、その過程でいくつもの学校の貴重な史料を拝見させて頂きました。その中で市立越ヶ谷小学校からは貴重な史料をご寄贈いただきました。総数約1000点余りで、学校経営や行事、教育課程に関するもの、写真等、実に多様な内容です。その一部をご紹介します。



専修科卒業記念写真
昭和9年度(1934年度)

当時は世界恐慌の影響下であり、満州事変や国際連盟脱退後の閉塞感が募っていく時代でした。記念写真なので多くの人は盛装ですが、その中にも、時代の様子が垣間見られます。

正面玄関屋根の破産やその背後に掲げられている彫刻は、今も同校に保存されています。



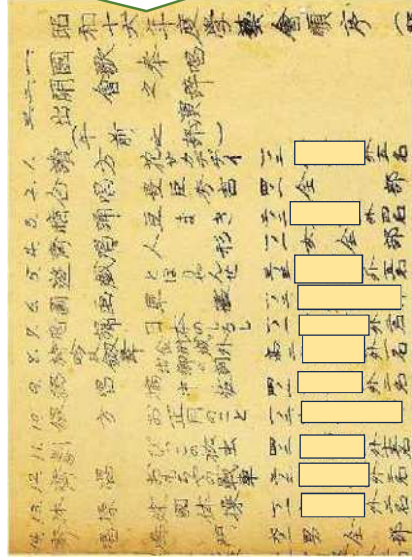
校務日誌・宿直日誌
昭和16年度(1941年度)以降

学校の日々の出来事が記録されています。この中の記事を通して、当時の児童や先生方、地域の様子が浮かび上がってくる貴重な史料です。



校印「埼玉県南埼玉郡越ヶ谷国民学校之印」
昭和16年度(1941年度)
～昭和21年度(1946年度)

太平洋戦争が始まった年から、小学校は国民学校と改められましたが、その時期の校印です。



学会プログラム(部分)
昭和6年度(1941年度)

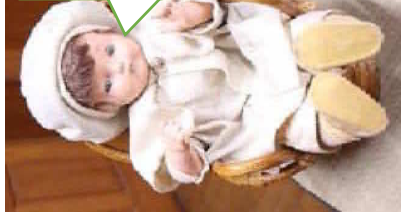
太平洋戦争が始まって2ヶ月後に催された行事です。“学芸”というので様々な分野の発表がありました。漢数字は学年・組で、「高二」は高等科2年(12歳)です。演目は56項目もあり、休憩や昼食はさんで行われました。保護者だけでなく町役場の人や地域の方々への招待もありました。終了後の「反省」も残されています。

寄贈されたこれらの史料は明治から平成までのものですが、学校現場や地域を通して見た近代史を写すものになります。これらはまだ整理中で、内容の詳しい確認もこれからですが、いずれ皆様に公開できることになると思います。一部はすでに昨年夏に市立図書館で行った展示「越谷から見た近代教育」でご紹介しました。

あの“青い目”は今…

かつての学校史料を覗いていると、学校は今以上に地域の文化の中心地であったことが伝わってきます。このことは国内でのことに留まらず、外国との関係とも表すような世界的意義を持った場合もありました。例えばアメリカから日本の学校に贈られた“青い目の人形”です。

昭和2年(1927年)、アメリカの宣教師でもあったギューリック博士は交流のあった淡沢栄一を紹介して、日本の各地の学校に13000体近い人形を贈りました。この内の1体が市立大沢小学校に所蔵されています。(右の写真)



私の名前は
マーサ・ヒースよ。
(当初はワテラ・ヘズと紹介されましたが、後にギューリック博士のご子息によりマーサ・ヒースの読み違いと指摘されました。)

? : この時期、どうしてアメリカから人形が贈られたのでしょうか。
? : これに対してわが国はどうしたのでしょうか。
? : 各地に贈られた人形の多くは失われてしまいました。どうしてでしょうか。

昨年3月～今年1月に「市内小学校開校150周年記念 越谷から見た近代教育」展示(第1部～第3部)を行いました。それを再編集したパネル展示を市役所エントランス棟の多目的ホールで、今年7月末～8月末に行う予定です。この展示(前期・後期の2部制)で大沢小学校の“青い目の人形”についても解説したいと思っています。



(マーサのバスポート)

防災に関する展示

苦難を乗り越えてー明治23年の水害ー

5月25日～6月30日(水曜日休館)

レイクタウン:旧東方村中村家住宅にて開催

②市内小学校開校150周年記念展示
「越谷から見た近代教育」
(第二部・第三部)

市内小学校開校 150 周年記念展示

「越谷から見た近代教育」

『第三部 近代学校の夜明け前』



加須市指定文化財 『寺子屋の絵馬』（徳性寺所蔵）(部分)

この絵馬は文久年間（19世紀中頃）の寺子屋の様子を描いたもので、手習い（手本の書写）をしている場面です。髪型や服装から異年齢の男女の寺子（生徒）がいることがわかります。書き上げた作品を大師匠（赤い衣の僧侶）に見せて個別指導を受けています。弟子の僧侶は寺子のところで指導しています。

はじめに

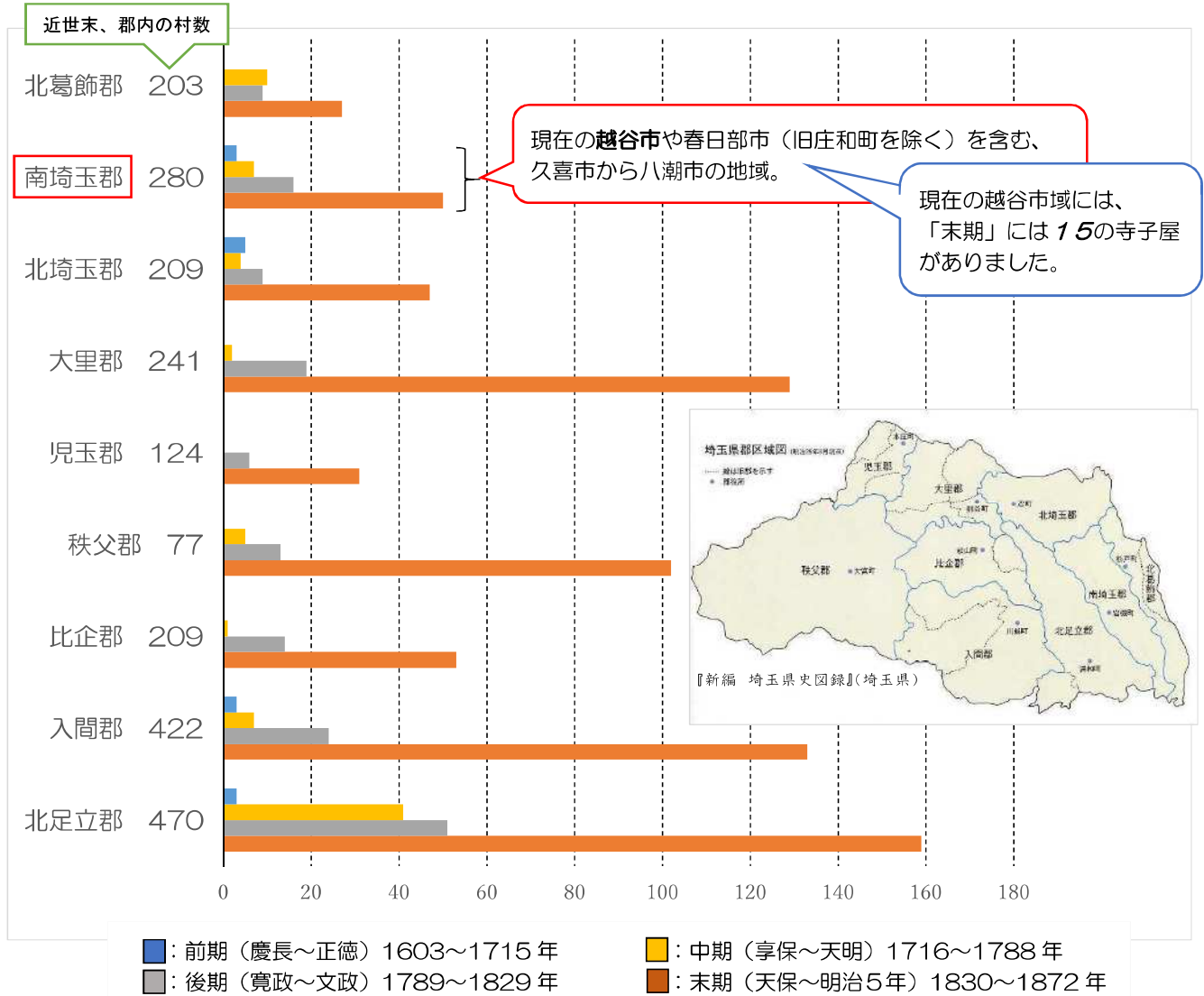
本展示「越谷から見た近代教育」の『第一部 明治初期の学校』（令和5年（2023年）3月10日～28日）と『第二部 終戦前後の学校』（同年8月22日～9月12日）では、時代の大きな変革期の地域の教育の様子を見てきましたが、このような教育活動の礎をなした活動や状況についてもお伝えしたいと考え、今回の『第三部 近代学校の夜明け前』を企画しました。幕末・維新期に、この地域の先人たちが世の中の現況と将来を思いながら、様々な困難を乗り越えて子弟の教育に携わったことをご紹介します。

越谷市教育委員会

第1章 地域の寺子屋

(1) 県内の寺子屋数の推移

『埼玉県教育史 第1巻』（埼玉県教育委員会）の表よりグラフ化



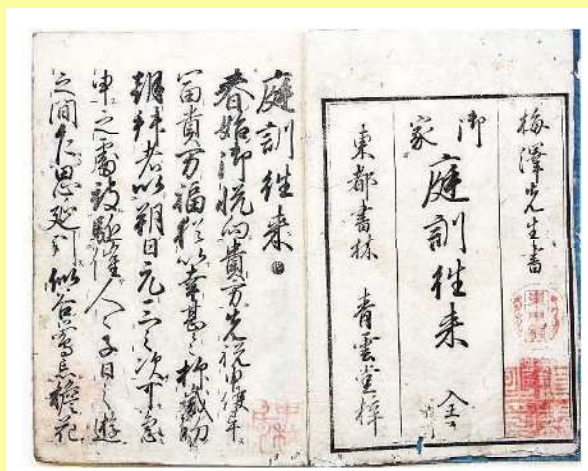
武士の学校はすでに幕府や藩で設けられていましたが、“寺子屋”は庶民のための学び舎でした。寺子屋はどの郡においても近世後期から増加し、末期（天保期以降）に急激に増加しています。

天明期頃からは国内では商品作物の生産が拡がり、各産業において技術革新や生産性向上が一段と望まれるようになっていきました。

一方この頃から日本近海には度々外国船が出現するようになり、鎖国体制が問われるようになっていきました。

寺子屋が急増したのは、このような時代だったのです。

(2) 寺子屋の学習内容



『庭訓往来』 弘化4年(1847年)

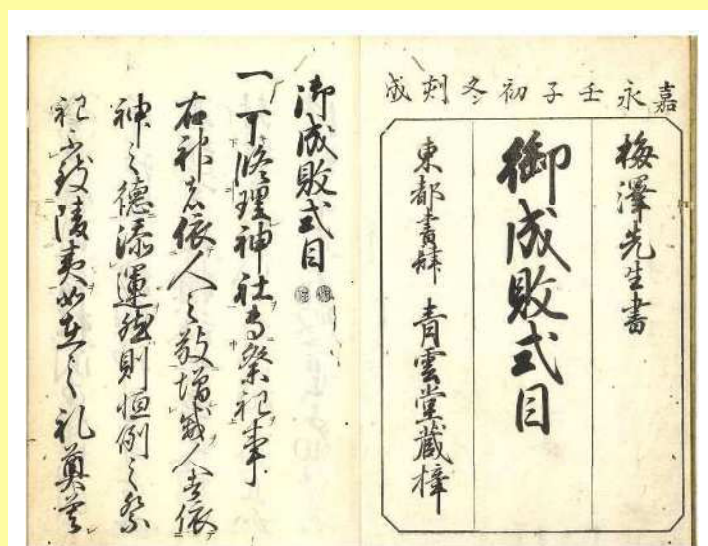
(越谷市教育委員会蔵)

蔵書印は旧東方村中村家の当時の当主・中村義徳(培根)のものです。



『女庭訓往来』 安政2年(1855年)

(越谷市教育委員会蔵)



『御成敗式目』 嘉永5年(1852年)

(越谷市教育委員会蔵)



『論語 卷之一』 年不明

(越谷市教育委員会蔵)

寺子屋（私塾）の教科書

寺子屋では異年齢の子供たちが同じ部屋で学ぶことが多かったようです。初級者では「いろは」かな文字の練習や簡単な計算などを学びました。上に紹介した4点は中級以上の一般的な教科書として用いられたものです。

『(女)庭訓往来』は手紙の文例です。『御成敗式目』は鎌倉幕府の法令ですが、江戸幕末に改めて出版されたものです。これらを用いた授業では読み方や書き方のほかに、「往来物」からは文章の構成や文法、時候の挨拶や四季の花鳥風月なども、年齢に応じて教授されました。「法令」からは世の中の秩序や仕組みの教授がなされました。

『論語』など中国から伝わった「漢籍」は年長者や熟達者に用いられ、素読をしながら思想や哲学を学ぶ教科書となりました。

(3) 寺子屋の師弟関係



筆子塚(市内 照光院)

左:天保12年(1841年)建立

右:文政3年(1820年)建立

師匠と筆子(寺子)

市内のいくつかの寺院や神社には「筆子塚」があります。これは寺子屋で学んだ子供たちが師匠(先生)を尊敬してその業績を記した石碑です。

師匠となった人の身分は、江戸初期には武士や僧侶がほとんどでしたが、後期以降には宗教家のほかに庶民が多くなりました。

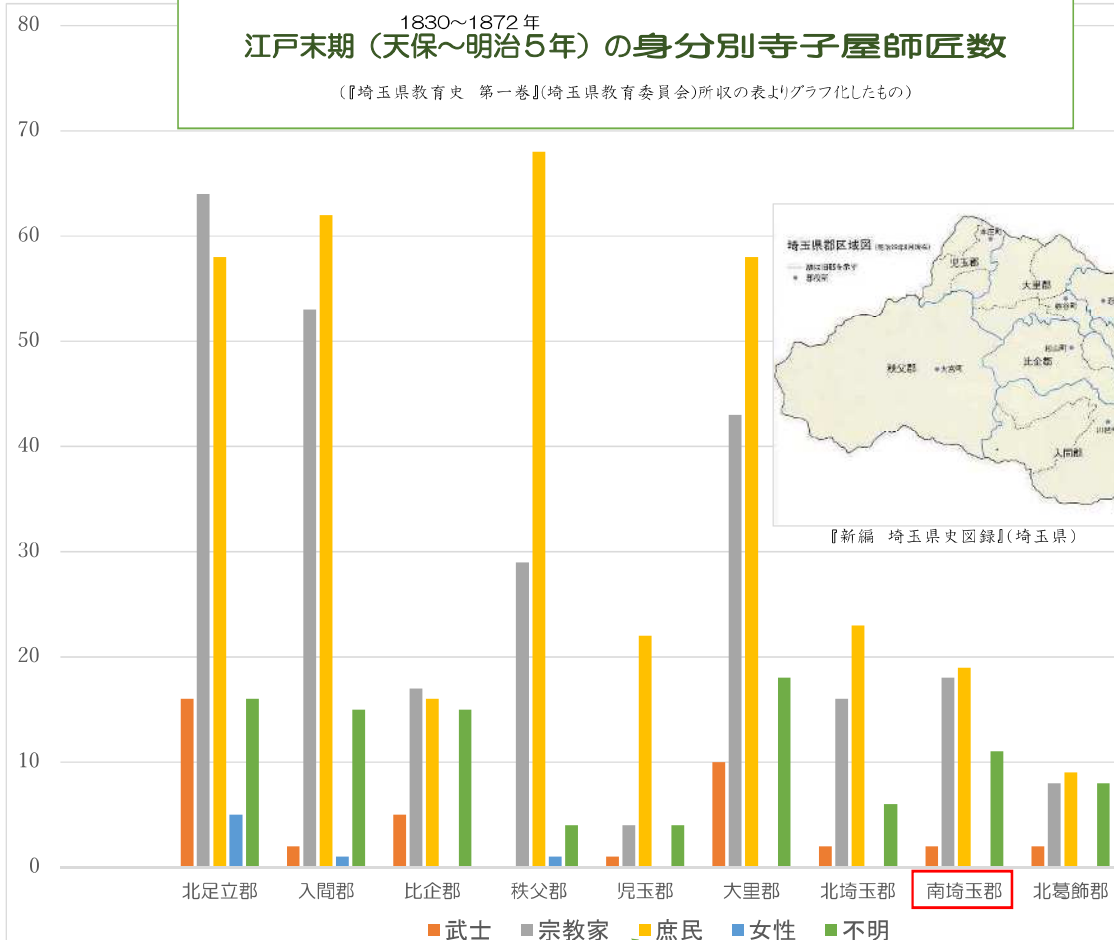
教室では異年齢の子供たちが机を並べて学習しましたが、その年齢、習熟度に応じた個別指導がおこなわれました。上級者が下級者を教えることも度々ありました。

始業前と終業後には掃除を行いました。時には炊事や風呂焚きの手伝いなど、生活指導の一部としても行われたようです。

(『埼玉県教育史 第一巻』(埼玉県教育委員会)、『越谷市史 一』(越谷市教育委員会)、図録『第11回企画展 寺子屋』(八潮市教育委員会)、『大澤町・越ヶ谷町の石仏』(加藤幸一氏報告)による。)

江戸末期(天保~明治5年)の身分別寺子屋師匠数

(『埼玉県教育史 第一巻』(埼玉県教育委員会)所収の表よりグラフ化したもの)



『新編 埼玉県史図録』(埼玉県)

*宗教家=僧侶、修験、神官

*庶民=医者、村吏(名主など)、農民、商人

第2章 近代的学校の始まり

(1) 学習内容

近代教育が始まった当初、初等学校は「下等小学」と「上等小学」でした。この草創期の教育課程や教科書は近世末の寺子屋の学習「読み・書き・算盤」を基にしていますが、そこに欧米の翻訳物を加えてさらに高度な内容になっています。

時期		草創期	
年齢	1870年代（明治初期）		
6歳	下等 小学	8級、7級	
7歳		6級、5級	
8歳		4級、3級	
9歳		2級、1級	
10歳	上等 小学	8級、7級	
11歳		6級、5級	
12歳		4級、3級	
13歳		2級、1級	
就学率		約28～40%	
特徴	教育制度の	明治5年（1872年）發布の学制による近代教育草創期で、幕末期の藩校や郷学、寺子屋を下地にしています。しかし学制の内容は人々の現状と乖離しており、試行錯誤の様子が見られます。	
様子	地域の	・20余りの学校が生まれ、明治6年（1873年）には小学校8校が開校。 ・越ヶ谷町大火 明治7年(1874年)	
出来事	社会全体の主な	・「五箇条の御誓文」明治元年(1868年) ・『学問ノススメ』明治5年(1872年) ・自由民権運動 明治7年(1874年)～ ・西南戦争明治10年(1877年)	

下等小学の教科と教科書

（『学制百年史』（文部省）、『学校の歴史』（第一法規）、『開化期の教科書』（三重大学附属図書館）等）

教科名 年齢・級	読物	算術	習字	書取	作文	問答	体操
6歳 8、7級	五十音図、濁音図、単語図、連語小学読本 巻1、2	加算九九乗算、羅馬数字	習字本 仮名楷書 大日本國畫	五十音単語		単語図、人体の部分	体操図
7歳 6、5級	小学読本 巻3、4 地理初歩、地球儀 日本地誌略 巻1	加法 減法	習字本 楷書	小学読本の中の句	単語、句から題を採る	地理初歩、地球儀 日本地誌略、地図	体操図
8歳 4、3級	小学読本 巻5、地図、日本地誌略 巻2 万国地誌略 巻1 日本史略 巻1	乗法 除法	行書 草書		同上	日本地誌略 日本史略	体操図
9歳 2、1級	万国地誌略 巻2、3 日本史略 巻2、万国史略 巻1、2 埼玉県地誌略	四術合法 分数 小学幾何画法（上等小学用）	手紙文 草書		手紙文	日本史略 万国史略 博物図	体操図

「問答」という教科は「読物」などの教科書を用いて、教師と生徒が問答形式で進める授業で、当時の欧米の教授手法を取り入れたものでした。

『大日本國畫（国尽＝くにづくし）』

（越谷市教育委員会蔵）

「下等小学 第7級」（6歳児）用の習字教科書です。

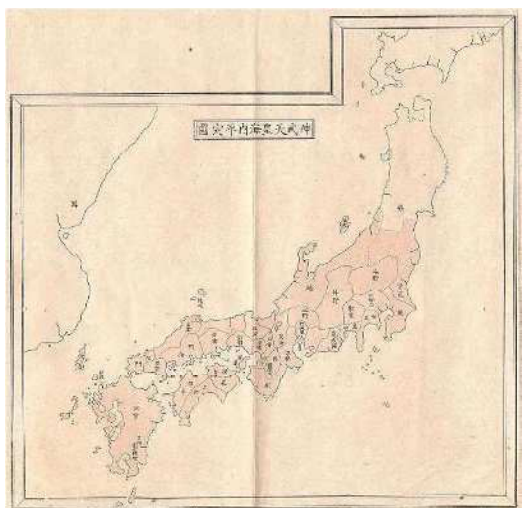


『日本略史 巻之一』

（越谷市教育委員会蔵）

表紙には「上等小学 第八級教科書」とあります。10歳児用の歴史教科書です。また「埼玉郡西方邨（村）進文学校」とあり、大聖寺塔頭の安養院にあった学校で用いられたものです。

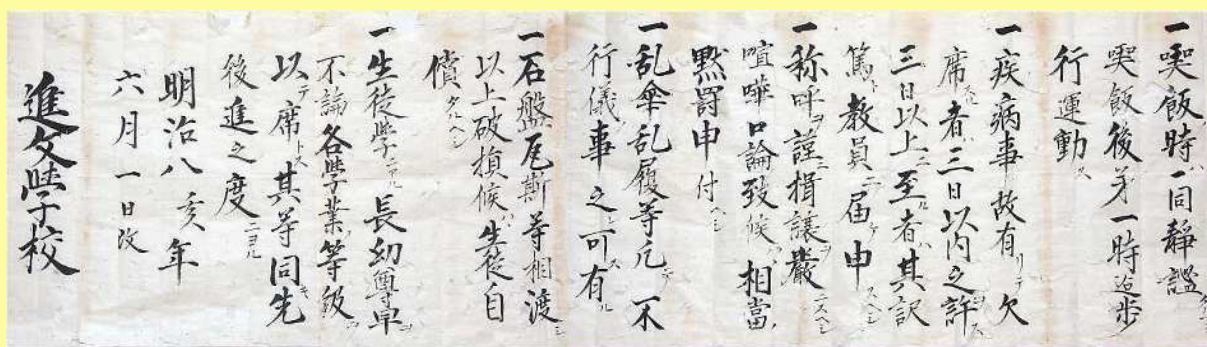
左の地図は同書巻末の折り込みで、「神武天皇海内平定図」とありますが、大和政権が形成されつつあった頃の様子と思われます。



(2) 学校生活

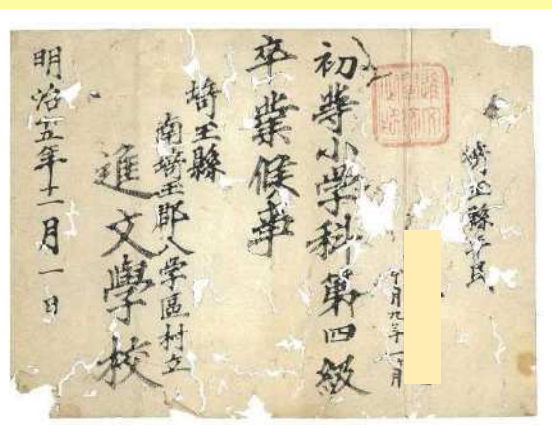
明治8年(1875年)の校則(進文学校)

(越谷市教育委員会蔵)



進文学校の卒業証書

明治15年(1882年) (個人蔵)



小学校は明治12年(1879年)から初等科3年、中等科3年、高等科2年となりました。上の史料は9歳の課程を修了した証書です。

初期の学校の日課

(『越谷市史 五』所収史料)

明治6年(1873年)の「培根学校」

- ・毎朝八時、撞鐘ヲ合図トシ生徒一統出校スベシ。
- ・自八時 至九時 単語読方 一週六時
- ・自九時 至十時 洋法算術 同
- ・自十時 至十一時 綴字 同
- ・自十一時 至十二時 修身口授 一週二時
- ・自十二時 至一時 休息
- ・自一時 至三時 習字 一週十二時

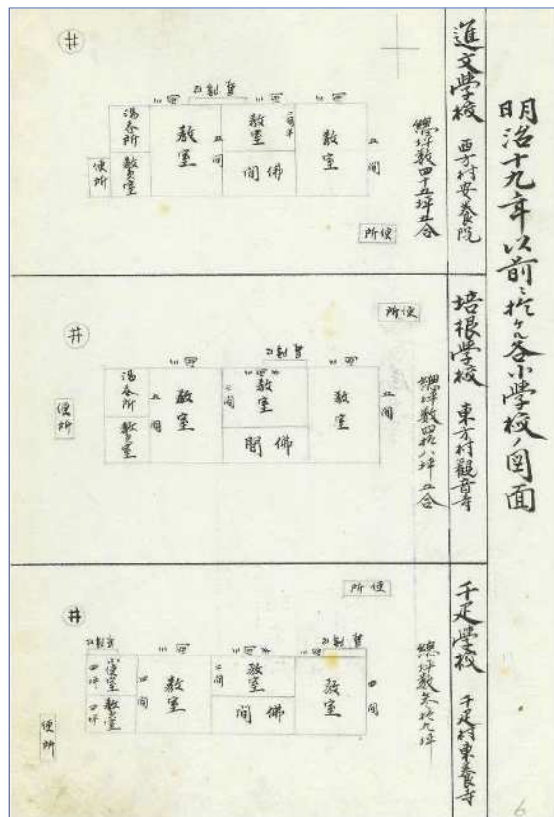
午前8時から9時は「単語の読み方」の授業で、これを週に6時間行うという意味です。

この日課は明治5年(1872年)に『学制』発布の年に出された『小学教則』(初等学校の教育課程を示したもの)を基に作成されたと思われます。

「綴字」は仮名文字の使い方、簡易な文の学習です。「修身」は第二次世界大戦前の道徳教科で、忠孝、長幼の序、勤勉、節制、礼儀などを指導した教科です。

大相模地区の初期の学校

三校の間取り



明治の初め頃、現在の市域内には 20 ほどの学校が誕生しました。この内、大相模地区には三校作られました。20 校のほとんどは寺院にあったので、ここに挙げた三校と似た状況だったと思われます。本堂の一隅を教場にした学校もありました。

三校の開校時の状況

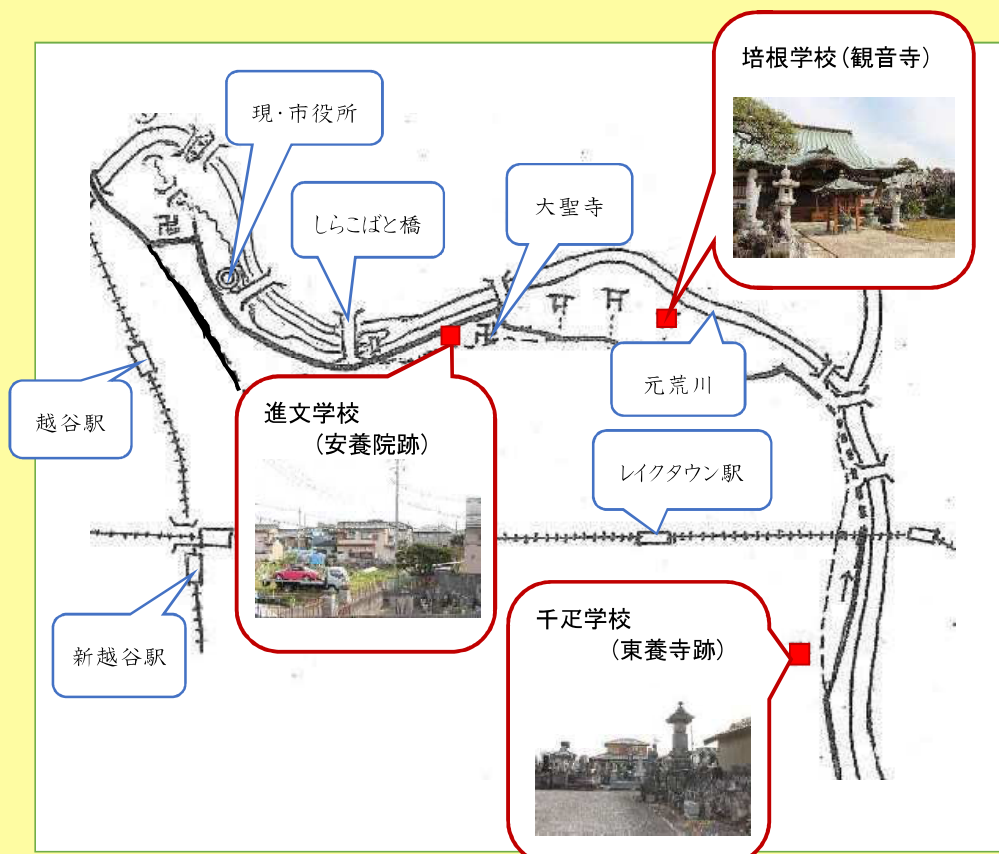
(『越谷市立大相模小学校沿革誌』及び『同 草案』(越谷市立大相模小学校蔵))

これらの学校は寺院の敷地内に設けられたこともあり、それぞれ「仏間」がありました。安養院は大聖寺の塔頭でしたが、現在では廃寺になっています。東養寺も廃寺です。

	進文学校	培根学校	千疋学校
開校年	明治 6 年(1873)	明治 6 年(1873)	明治 7 年(1874)
区 域	西方村	東方村、南百村 見田方村、	千疋村、柿木村、 別府村、四条村
開校時の教員	會田永保 他	中村義章 他	逸見嘉種 他
生徒数	193名	175名	185名

※「中村義章」は旧東方村中村家(下組)の当時の当主でした。

進文学校、培根学校、千疋学校の三校は明治 17 年(1884 年)に東方学校となり、明治 20 年(1887 年)に大相模村立大相模尋常小学校となりました。



第3章 中村培根（中村義章）とその時代

中村培根（義章）は東方村の名主としての業務を行う一方で、塾を開いて地域の子供たちの教育も行いました。その二つはどのような内容だったのでしょうか。そしてどのような想いで教育に携わったのでしょうか。残された史料から考えてみたいと思います。

（1）名主として

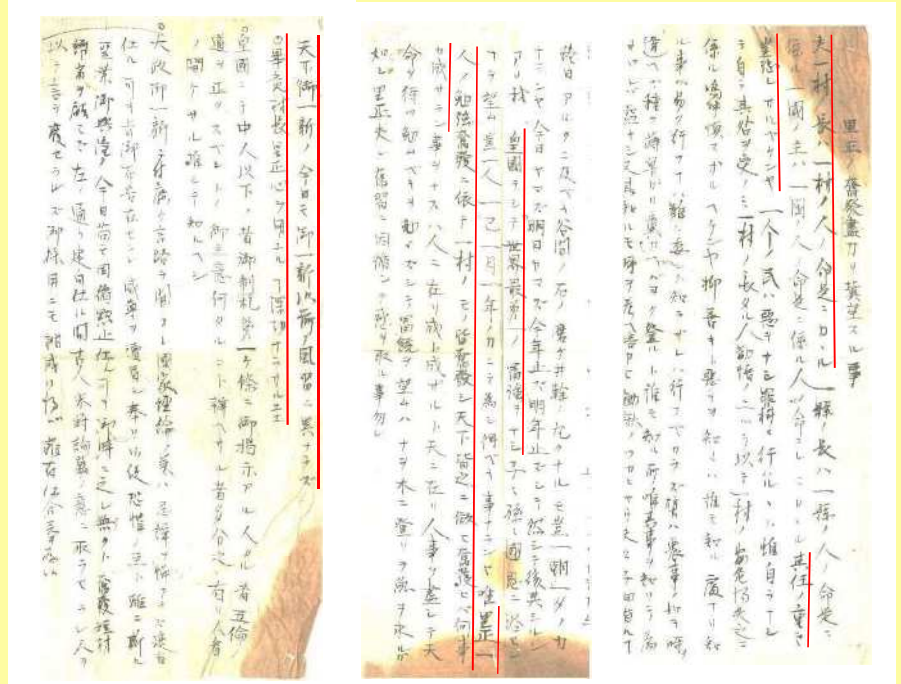


『地方落穂集 後篇』

（越谷市教育委員会蔵）

名主の業務必携のような史料です。職務内容や権限、刑事事件への対処の仕方、代官所や奉行所との関係、行政文書の書式などが細かに記されています。

巻末にこれを書き写した中村義章（培根）の署名があります。



『里正ノ奮発盡力ヲ冀望スル事』

（越谷市教育委員会蔵）

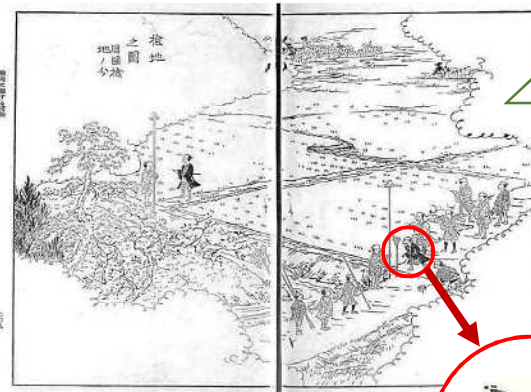
原文原稿を書いた人は不明ですが、中村培根（義章）の筆跡のようです。御一新（明治維新）となり、日本を世界に冠たる国にするために里正＝村長として奮発すべきであることを説いています。



『弯窠羅針』

（個人蔵）

『小方儀』とも言います。方位が十二支で表されています。この画像の測量器の来歴は不詳ですが、名主の家に伝えられたものです。土地測量の際に目標物が基準から何度の方位にあるかを測る器具です。



「検地之図」(『徳川幕府 縣治要覧』所収 国立国会図書館デジタルコレクションより)



(2) 当時の中村家の状況

A

「入置申一札之事」 嘉永三年（一八五〇年）
（越谷市教育委員会蔵）



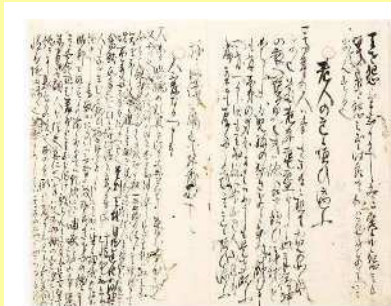
B 「借用申金子之事」安政六年(1859年)
（越谷市教育委員会蔵）

名主の職務と養父や家族の扶養の両立、そして私塾経営は、義章にとって順調なものではありませんでした。この三つを成し遂げるために義章が行ったことの一部を垣間見ることができる史料があります。

A：義章（培根）と養父との間の契約書です。義章は養父の隠居後の生活や幼い弟たちの養育費について一定額を保証したものです。

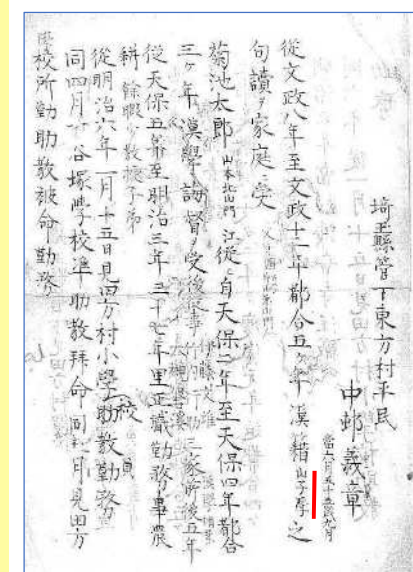
B：義章が隣村・四条村の飯嶋家に3両の借金をした証文です。義章はこの5年前にも飯嶋家に5両の借金をしています。他の人にも同様の借金があった可能性があります。一時は総額100両にも及びました。

C：これは義章（ここには「義徳」と署名しています。）が家族や近親者に対して書いたと思われる文書（下書き）で、親子や夫婦、兄弟姉妹の在り方などについて自分の考えを記したものです。これは私塾の授業にも表れたことでしょう。これが書かれたのは「A」の契約の4年後でした。



C

修前編 嘉永七年（一八五四年）
（越谷市教育委員会蔵）



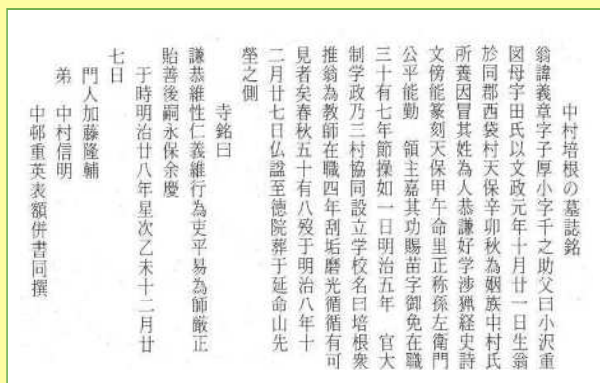
「履歷書上帳」(写)

明治6年(1873年)5月

（越谷市教育委員会蔵）

『学制』発布による新しい教育制度の開始に当たって、培根学校の教員として埼玉県に認めてもらうために提出された履歴書の控です。

赤傍線部「山子学」とは義章が学んだ儒学の中の折衷（さんしがく）学派の学問です。これはそれまでの儒学を批判して、より論理的な思考を目指したものでありました。



中村培根墓誌碑（右）とその碑文（左）



(3) 教育への想い ～世界に目を広げて～



中村義章の肖像
（『大相模小学校開校 120 周年記念誌』より）

中村義章略年譜

文政元年（1818 年）
西袋村の小澤家三男として出生
7 歳頃から漢籍の講義を受ける

天保 2 年（1831 年）
東方村中村家の養子となる（13 歳）
この頃から漢学の講義を受ける

天保 5 年（1834 年）
名主役となる（16 歳）
この頃から寺子屋で授業をする

天保 9 年（1838 年）
うたと結婚（20 歳）

明治 9 年（1876 年）
死去（58 歳）

18 世紀後半（安永・天明・寛政期）にはロシアやイギリスの船が日本近海に出現するようになり、19 世紀（化政期・天保期以降）には頻繁となりました。欧米列強はアジア・アフリカに次々に押し寄せ、利権を拡大していきました。寺子屋が急増したのもこの時期でした。

開国が攘夷（外国打払い）かの議論が盛んに行われるようになった時代に、中村義章（培根）は子弟の教育を始めたのです。世の中は大きく変わろうとしていました。市域の町や村でも、この変化を見定めようとしていた人々がいました。



かつて東方村の中村家にあったものです。
（越谷市教育委員会蔵）



（横浜市立大学所蔵）

「地球輿地全図」

嘉永の頃に制作されたと思われる世界地図を中村義章は持っていました。義章がこれを寺子屋で教材としたかは不明ですが、名主の業務には直接関係ないので、世の中の動向を見定めながら教育に携わろうとしていた可能性があります。

「万国航行旗（仮称）」

（越谷市教育委員会蔵）

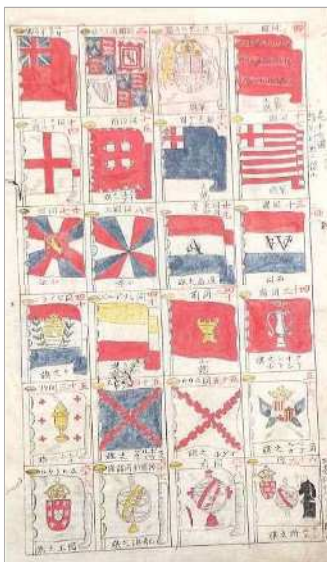
表題不明のこの冊子には 240 種の航行旗が示されています。国旗、国王旗、軍旗 などを。本史料は越ヶ谷宿の有力者の家に伝わっていたものです。巻末には次のように記してあります。

（現代語訳）

この一冊は私が長崎で通訳の檣林泰助に校正させたものである。沿岸の地ではこれを書写して番所に置き、防衛の一助とすることを望む。

寛政 8 年（1796 年） 近藤守重
弘化 2 年（1845 年） 写す
大石良臣

沿岸ではない越ヶ谷宿の人が何故これを持っていたのでしょうか……



「外夷建議録」（越谷市教育委員会蔵）

嘉永 6 年（1853 年）のペリー来航後に、安政の改革で老中阿部正弘が大名や旗本らに開国についての意見を求めました。この史料はその頃に記録されたものを中村義章が数年後に書き写したものです。社会情勢に対する強い関心があったことを示しています。

先人たちも歩いた道



『日本全国』明治 10 年(1877 年)
(越谷市教育委員会蔵)
大きな日本全国の中に、鉄道敷設前の町
村名が書き込まれています。

初夏の瓦曽根溜井
中央市民会館としらこぼと橋の
間から上流方向



冬の瓦曽根溜井
しらこぼと橋付近



昭和 30 年代の瓦曽根溜井
(越谷市教育委員会蔵)
石堰の跡が残っていました。(しらこぼと橋付近)



桜と瓦曽根溜井
中央市民会館としらこぼと橋の
間から下流方向



霧の瓦曽根溜井
中央市民会館としらこぼと橋の
間から上流方向

おわりに

この度、「越谷から見た近代教育」をテーマに第一部～第三部を企画して参りましたが、その過程で“教育は国の根幹”であることを改めて再認識しました。これはこの市域にも優れた先人たちがいて、その営みを粘り強くしてきたからです。そして来館して下さった方々がそれに共感して下さったからです。心より御礼申し上げます。



旧平和橋(昭和 30 年代)
今の中央市民会館としらこぼと橋
の間にあった木造の橋です。

市内小学校開校 150 周年記念展示

越谷から見た近代教育

『第二部 終戦前後の学校』

ご 挨 拶

市域に近代学校が誕生してから今年で 150 年になります。そのちょうど中間の時代は悲慘な戦争とその後の変革の時代でした。3月に開催した『第一部 近代学校の誕生』の続編として『第二部』を企画しました。

序章：昭和前期の概要

国体明徴推進期

これは学校に設けられた「奉安殿」です。御真影（天皇の写真）や教育勅語謄本が納められ、児童や職員はこの前を通る際に最敬礼をするように言われました。昭和初期の御大典（昭和天皇即位）記念として各地の小学校に建てられました。

（越谷市教育委員会所蔵）



昭和に入ってから、世界的に経済状況が悪化していきました。世界中のあちこちで対立が深まり、日本国内でも軍国主義が強まっていきました。次のパネルの年表からも次第に閉塞感が増していった様子がわかります。各国の対立はついに二度目の世界大戦に発展し、やがて破滅に至りました。けれども人々は物も心も廃墟状態からの再生に取り組みます。

このような時代、学校ではどのような活動が行われたのでしょうか。地域の学校や教員、子供たちの様子から当時の営みを浮き上がらせてみたいと思います。第一章では戦争拡大と終戦の時代、第二章、第三章では終戦とその混乱から再生しようとする様子をご紹介します。

国家総動員体制期

昭和 15（1940）年に「皇紀 2600 年」（神武天皇即位から 2600 年）を記念して撮られた写真です。

この頃の子どもたちの服装や身なりには、現代とは異なる当時の社会状況が映されています。

（越谷市立出羽小学校所蔵）

国家非常体制期

収穫の終わった田で行われた軍事教練の様子です。軍人の指導で伏せて武器を構えているのは、中等学校（旧制中学校等）生徒です。

（越谷市教育委員会所蔵）



国の再建期

平和が訪れた戦後間もない昭和 22 年（1947 年）の小学 1 年生です。服装には戦争期の跡が見えます。

（越谷市立荻島小学校所蔵）



昭和前期の出来事・世相

展示	時期	教育、学問、社会の状況	市域の様子（写真は越谷市教育委員会所蔵）	社会の出来事
第一章	昭和12年 (1937)	第一次大戦後の国際協調、ロシア革命、日本の大正デモクラシーの高まり→自由主義、民主主義、社会主義、大衆文化の拡大 この状況への政府の対処 国体明徴推進期 政府は「国体明徴」、「教学刷新」方針で教育政策 国体明徴：大日本帝国は万世一系の天皇が統治し、国民はそのために全てを捧げる国であることを明確にすること。これに基づいて教育や学問を統制するのが「教学刷新」。「国体」＝天皇制のこと 五・一五事件や二・二六事件によって政党政治が崩壊し、滝川事件や天皇機関説事件で学問・思想の自由が弾圧される。	1928 越ヶ谷町立実科高等女学校開設 奉安殿が各尋常小学校に建立される 1930 実科高女が県立越ヶ谷高等女学校となる 文芸誌「曙野」発刊 越ヶ谷高女火災 1931 越ヶ谷高女の校舎が久伊豆神社脇に落成 1935 越ヶ谷順正会発足 越ヶ谷順正会の旗 1938 順正会が国民健康保険指定組合となる	1925 治安維持法・普通選挙法成立 1927 金融恐慌始まる 1929 世界恐慌始まる 1931 満州事変 1932 五・一五事件 1933 国際連盟脱退 滝川事件 1935 天皇機関説事件 1936 二・二六事件 1937 日中戦争開始 日独伊三国防共協定 1938 国家総動員法成立 1939 ノモンハン事件 第二次世界大戦開始 1940 日独伊三国同盟 大政翼賛会発足
	昭和16年 (1941)	大陸での日本の戦争泥沼化 「大東亜共栄圏」を唱えて東南アジアに侵出 国家非常体制期 - 小学校を「国民学校」とする - 勤労動員増加 - 学徒出陣 - 学童疎開 - 物資の不足→「欲しがりません。勝つまでは」：大政翼賛会と新聞社が募集した標語(児童作品) - 本土空襲激化 - 中等学校修業年限短縮	1941 金属回収運動拡大 愛国婦人会 出羽村分会の神社参拝 1941 日ソ中立条約 太平洋戦争開始 ミッドウェー海戦 スターリングラード戦 1943 イタリア降伏 学徒出陣 1944 サイパン島全滅→本土空襲激化 ノルマンディー上陸作戦 1945 東京大空襲、硫黄島全滅、ヤルタ会談、ドイツ降伏、沖縄戦、ポツダム会談（ポツダム宣言発表 7/26）、原爆投下、ソ連参戦、ポツダム宣言受諾の発表(8/15)＝玉音放送、日本占領開始、国際連合成立 1947 日本国憲法施行	
	昭和20年 (1945)	ポツダム宣言受諾：長い戦争の終結 →GHQ(連合国軍総司令部)による日本占領 教育の民主化 - 修身・国史・地理の教科書回収 - 御真影奉還 - 墨塗り教科書 等	1944 荻島飛行場建設開始 東京・佐久間国民学校生徒 264 名、増林に集団疎開 市域に朝顔機墜落 1945 連合国軍 400 名が荻島飛行場に駐屯 作家野口富士男が越ヶ谷に疎開 越ヶ谷文化連盟の活動活発化 カスリーン台風で大被害 文芸誌「草笛」創刊 カスリーン台風一過の大沢橋	
第二章		昭和22年 (1947)	教育基本法による学校教育（六・三・三制） 新制中学校開校	

教 科	科 目	概 要	教 科 の 趣 旨
国民科	修 身	教育勅語の趣旨に基づき徳性を養う。	国体（天皇制）の精華（真価）とする優れた部分を明らかにして、国民精神を涵養（かんよう）（養い、育てる）し、皇国（こうこく）（天皇が治める国）の使命を自覚させる。
	国 語	理解力・発表力を養い国民精神を涵養する。	
	国 史	歴代天皇の業績から皇国の歴史的使命を自覚させる。	
	地 理	国土の大意を会得させ、皇国の使命を自覚させる。	
理数科	算 数	数・量・形に関して知識技能、数理的処理に習熟させる。	通常の事物現象を正確に処理する能力を育て、国運（国の運命）の発展に貢献する基礎を養う。
	理 科	自然界の物、現象の知識技能を得させ、科学的精神を育む。	
体錬科	体 操	心身の健全な発達を図り団体訓練を行い規律を守る習慣を養う。	身体を鍛錬し精神を錬磨して、国に献身奉公する（身を捧げて尽くす）実践力を養う。
	武 道	心身を錬磨して武道の精神を育む。	
芸能科	音 楽	正しく歌唱し音楽鑑賞能力を養い、国民的情操を養う。	国民に必要な芸術技能を修練させ、情操を育てる。教材はその地域の状況に応じて醇化（しゅんか）（手厚い教えて純粋なものに感化）する。
	習 字	文字の書写や鑑賞能力を養い、国民的情操を養う。	
	図 画	形象を見取りして表現し鑑賞能力を養い、国民的情操を養う。	
	工 作	物品製作の知識技能、機械を取り扱う力、工夫考案力を養う。	
	裁 縫	衣類裁縫に習熟させ、婦徳（女性が守るべき徳）涵養に資する。	
	家 事	家庭での女子の任務を知らしめ、実務を習得させる。	
実業科	農 業	農業の知識理解を深め、わが国の農業の歴史的意義を明らかにする。	高等科の教科。 産業一般を理解させ、各科目の知識技能を習得させ、産業の国家的使命を自覚させる。
	工 業	興業の知識技能を深め、工夫と考案の力を育む。	
	商 業	商業の知識や配給の意義理解を深め、信義を重んずる精神を育む。	
	水 産	水産の知識技能を深め、進取（自ら進んで取り組む）の気質を養う。	

第二次世界大戦・太平洋戦争末期、越谷地域はどのような状況だったのでしょうか。学校や子どもたちの様子から当時の様子を観ていきます。

本土空襲の激化

- その後、度々授業中断などがありました。7月10日には「艦載機が終日来襲、授業取りやめ」と記されています。

イナゴ捕り

この売上金の使途を示す史料はありません。

七月十五日 日曜 氣象暑熱度大

檢印 長 野直當	勤務 時間 午前七時 午後六時 分
出席數 合計 出席者比	初算料 二八 三九 八九 七一 一九 〇九
出席率 一四 一四 一四 一四 一四 一四	初以上教員飛行場二勤務奉仕
助教講習員在(先生方出張)	肉林浅鬼中村石井山崎
一覽書打金、夕久精堂便利	(午前八時半、午前十時半、十二時半)
榮高訓導欠勤	一教員報告三日五分、教令也ラレ九七
何七五二二教員三番第十一	

事記

檢印 長 野直宿	勤務 時間 自午前六時 至午前七時 分
一警報隊	二三時四分
一警報隊	二三時五分

事記

檢印 長 野直宿	勤務 時間 自午前六時 至午前七時 分
一警報隊	二三時四分
一警報隊	二三時五分

事記

檢印 長 野直宿	勤務 時間 自午前六時 至午前七時 分
一警報隊	二三時四分
一警報隊	二三時五分

昭和二十（一九四五）年七月十五日（日）の日誌

【その2】戦時の学校での写真



なぎなた けいこ
薙刀の稽古（越谷市立越ヶ谷小学校所蔵）

国民学校高学年の体錬科には「武道」の科目があり、男子は銃剣術か剣道、女子は薙刀が課せられました。この写真は薙刀演武披露の様子と思われます。（昭和16年以降の写真）



応召兵士見送り（越谷市立越ヶ谷小学校所蔵）

戦地に赴く兵士や新たに入営する兵士を、正装して送る児童の様子です。越ヶ谷駅頭と思われます。

『越ヶ谷国民学校校務日誌』に昭和17年度には12回、19年度には9回の見送りが記録されています。

そして、児童たちは英霊（戦死者）出迎えも行いました。越ヶ谷国民学校では昭和17年度に3回、19年度に4回、20年度は11回でした。

軍事教練（個人蔵）

粕壁中学校（旧制中学校）生徒が軍事教練の一環で上野に行った時の記念写真です。

制服の生徒や背広の教員は脛にゲートルを巻いています。歩兵としての教練だったからです。右端の軍服姿の人は配属将校です。（昭和16年以降の写真）

・学校の軍事教練制度：大正末期に制度化され、太平洋戦争が起こると中等学校以上の学校に正課として位置づけられました。行進、射撃、手旗信号、講話などを配属された陸軍将校が指導しました。



村葬（越谷市教育委員会所蔵）

昭和15（1940）年6月に中国河南省で戦死した兵士（22歳）の村葬の様子です。大勢参列した葬儀会場は出羽尋常高等小学校です。右の写真は葬儀後に墓所に行く葬列です。

町村葬にはその地区の人々、出身学校児童、近隣の学校の校長、軍人たちが参列しました。

パネル
⑥

【その3】越ヶ谷高等女学校生徒の生活



高等女学校入学の記念写真

昭和20年(1945年)(個人蔵)

当時、制服はすでに販売できない状況でした。各家庭で作ったそうです。写真の制服も同様で、もんぺ風の物は銘仙(絹の一種)の和服を解いて仕立てたそうです。上衣は国民学校時代のもの。夏用上衣は型紙から自分で仕立てたそうです。



試問(質問)の例(上の書籍より)

試問は本人や家族、学校、郷土、国家(当時の日本)や時局、国史、地理、理科、算術の事柄について行われました。昭和20年3月に受験した左の女性は、「今最も激しい戦場はどこか」と尋ねられたそうです。東京大空襲の直後のことでした。

【他の例】

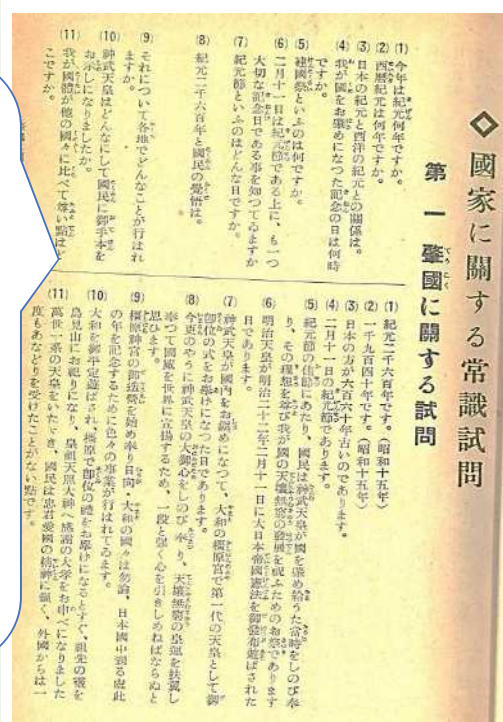
- 健康のためにどんなことをしているか。健康はなぜ大切か。
- 銃後のつとめは何か。
- 満州国はどんな気候か。
- 夏暑く冬寒いわけは何か。

「口頭試問の答へ方」

昭和15年(1940年)発行 (越谷市教育委員会蔵)

小学校(国民学校)から上の中等学校(旧制の中学校、高等女学校等)へは“入学考査(入学試験)”を受けて合格しなければなりませんでした。

この考査方法が昭和15年3月(昭和16年度入学生)から変更になりました。筆記試験が廃止されて、内申書と体力検査、口頭試問(面接)によって選抜されるようになったのです。本書はその受験対策用として出版されたものです。



戦時中の学校生活

左上の女性が難関の入学考査を経て始まった女学校生活は、思い描いていたものとは異なるものでした。

戦争末期、昭和20年1学期のことです。登校すると漢字書取テストがありました。左の写真は先生が問題を板書して答えた用紙です。用紙は先生が用意したとのことで、学校にもこのような紙しかなかったのです。

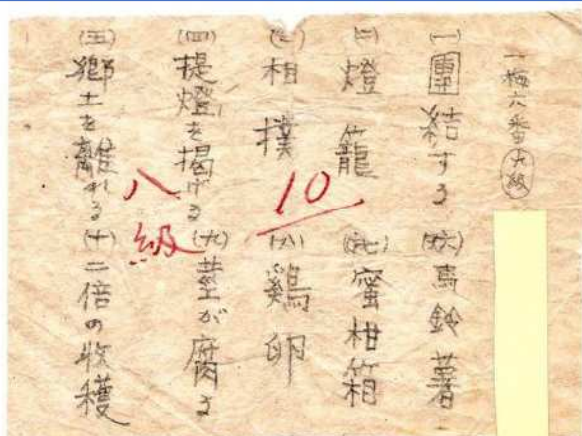
その後の活動は次のような事でした。

- ★久伊豆神社参道の清掃
- ★勤労作業(軍帽の穴かがりや校内の軍靴工場)
- ★農家の農作業手伝い

【その他のエピソード】

- ★作業中に空襲警報が発令されると急いで退避。解除されたらまた作業に戻る。
- ★カタカナの外来語禁止。「ドレミファ…」は「ハニホヘ…」、野球の「ストライク1」は「よし1本」となった。

そうして下校する際、互いに「さようなら」と挨拶を交わしながら、『明日は顔を見られるかな』と思ったそうです。



漢字書取テスト答案(個人蔵)

第2章 終戦

(1) ポツダム宣言受諾・玉音放送



終戦を伝える当時の新聞

(昭和20年8月15日付『朝日新聞』より)

天皇の「詔書」中にある「米英支蘇四国二対シ其ノ共同宣言」とあるのは、右のポツダム宣言のことです。また「支」は当時の中華民国、「蘇」はソ連のことです。天皇の玉音放送はこの詔書を読み上げたものです。

この宣言が発表された7月26日時点では「米・英・支」三国の共同宣言となっていますが、8月8日にソ連が日ソ中立条約を破棄して対日宣戦布告したので、14日には四国の共同宣言となっていました。ソ連の対日参戦は連合国間では、2月のヤルタ会談で秘密協定となっていました。

ポツダム宣言 (要旨)

米・英・支 三国宣言 1945年7月26日 ポツダムにて

(第7項) 日本国の戦争遂行能力が失われたことが確かなものになるまで、日本国領域は連合国に占領される。

(第8項) 日本国の主権は本州、北海道、九州、四国と我々の決定する諸小島に限られる。

(第9項) 日本国軍隊は完全に武装解除後に各自の家庭に帰り、平和的で生産的な生活を営む機会を与えられる。

(第10項) 我々は日本人を差別したり国を亡ぼす意図はないが、連合国の捕虜を虐待した者を含む全ての戦争犯罪人に対しては厳罰を臨む。日本国政府は国民の中に民主主義を復活し、基本的人権の尊重を確立しなければならない。

(第13項) 我々は日本国政府がすぐに日本国軍隊の無条件降伏を宣告して、適切な保障をすることを要求する。それ以外の日本国の選択は、直ちに完全な壊滅があるだけである。

(外務省『日本外交年表並びに主要文書』に所収されたものを現代口語要約)

連合国首脳は5月に無条件降伏したドイツのポツダムで会議を開き、日本の降伏について協議しました。それを基に日本への降伏要求が13項目にまとめられたものがポツダム宣言です。

宣言が発表されてから19日後の8月14日に、日本政府は受諾(無条件降伏)を決定し、15日正午に天皇の「玉音放送」で国内外の国民に発表しました。

8月15日の日記(兵舎にて)

作家・野口富士男

(野口富士男著『越ヶ谷日記』(越谷市教育委員会発行)所収の「海軍日記」8月15日の条より)

私が槍の束を積んだ大八車の轆かれて行くのを見かけたのはその帰途であったようだが、敗戦の事実を確認したのは、兵舎に戻ってから後のことであった。午後の日課が取り止めに^{まれ}なった兵舎の中には人影も稀で、話し声を立てる者もなく、妙にシーンとしていた。そんな中で、私と同班の一人が、なにかの拍子にふッと低い笑い声をもらした。すると、通路を隔てた向う側の居住区にいた下士官の一人が裸足のまま猛烈な勢いで飛んで来て、「貴様は日本が敗けたのがおかしいのか」と言うなり、がアんと一発くらわせた。やっぱりほんとなんだなと、私は思ったのである。

そういう光景を見届けてから、私はこみ上げてくる嬉しさを抑えるために兵舎を出て、なんということもなくその辺を一人でぶらぶら歩いた。私の主観の比重は、日本が敗れたということよりも、もっぱら戦争が終了という事実の方にかかっていたようである。私が兵隊という立場に置かれていたからだろう。この日は夜に入ってから後も、兵舎の内外ともにまず穏かであった。鳴りをひそめているという感じであった。

海軍に召集されていた野口富士男は昭和20年(1945年)、横須賀海兵団にいました。栄養失調症で苦しむ中、母の急死や東京の家の強制疎開(空襲で延焼を止めるために住宅を取り壊して防火帯を作ること)になるなど、家族を案じる状況でもありました。玉音放送は海兵団で聴き、終戦を迎えた時の様子が左の文です。

復員後は越ヶ谷町の妻の実家に身を寄せました。『越ヶ谷日記』にはその頃の生活と越谷市域の様子が記されています。

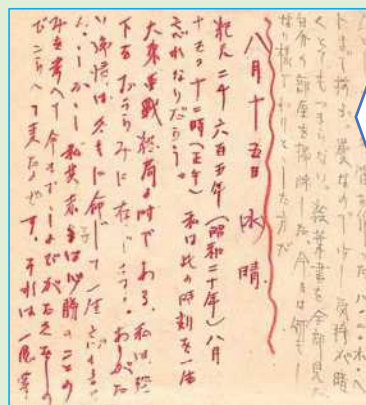
越谷市立図書館には氏の作品や所蔵資料等が寄贈され、常設展示されています。

女学生の日記

(個人蔵)

越ヶ谷高等女学校1年生(12歳)の日記です。

この日だけ赤ペンで記しています。多感で一途な少女の気持ち、当時の教育の様子が表れています。



(2) 占領と学校

越ヶ谷国民学校『校務日誌』に記された学校の様子

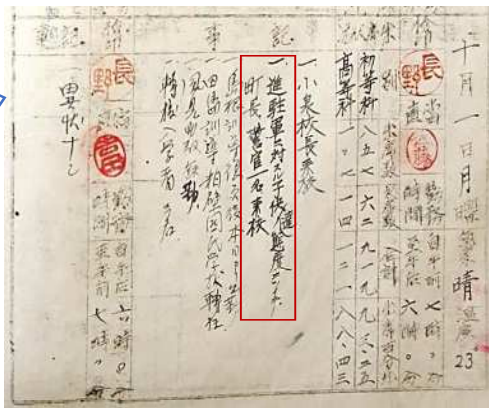


昭和20年8月19日(日)
「荻島飛行場の内田中尉来校し天幕(テント)その他品物多数を教育に必要ならばとトラックにて持参」

ポツダム宣言受諾に伴い軍隊の解散・撤収が早くも始まったことを示しています。軍の備品を学校にというのは指揮官の発案かもしれません。

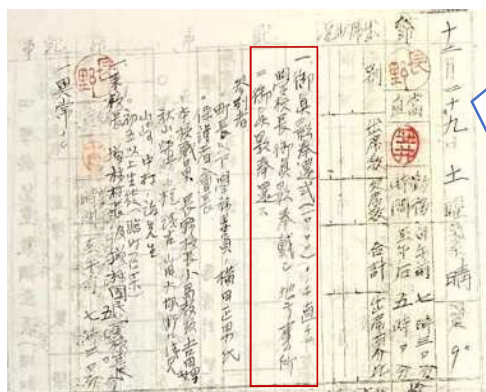
昭和20年10月1日(月)
「進駐軍に対する子供達の態度について町長、警官一名来校」

その内容を示す史料は越ヶ谷小学校には残っていませんが、不測の事態が起こらないようにしたものでしょう。巷ではお菓子をねだる子供たちが進駐軍兵士の後をついて回るといふこともあり、そういった状況への対処もあったのかもしれません。



昭和20年12月29日(土)
「御真影奉還式の後、直ちに学校長御真影奉戴し、地方事務所に御真影奉還す」

この式については前日に役場から通知があり、当日は町長らも参列しました。初等科5年以上の児童も臨時召集されました。御真影を収めていた奉安殿も後に撤去されました。「御真影」とは天皇后の写眞のことです。戦前はこの写眞が各学校に渡され、学校では奉安殿に収めていました。



昭和21年1月4日(金)
「巡查来校(その筋の指令により、木刀等を早く処理する様にとのことなり)」

ポツダム宣言に基づき武道の指導は禁止されたことを受けての処置でした。剣道や薙刀、銃剣術に使った武具類が集められて処分されました。武道は軍国主義につながるとして禁止されました。



占領を示す 元荒川橋袂の標識

昭和21年(1946年)1月



(野口富士男『越ヶ谷日記』所収)

作家・野口富士男の『越ヶ谷日記』には町の中を散歩した時に見た様子が記されています。その昭和21年1月13日の所に、このスケッチがあります。進駐軍(日本占領の連合軍)向けの標識とされます。

第3章 再生への取り組み

(1) 混 乱



買い出し列車に乗る人々(蒲生駅)

昭和22年(1947年) (越谷市教育委員会所蔵)

戦争中から生活必需物資の不足は深刻でしたが、終戦後はさらに厳しい状況になりました。餓死する人もいました。貨幣は価値が低下したので、特に都市の人々は着物や貴重品と食料を交換するために農村に行きました。鉄道列車には買い出しする人々があふれるように乗りました。ヤミ販売も多く、警察の取り締まりで没収されることも度々でした。

“混乱”の様子～文芸誌『草笛』より

(パネル⑩をご参照下さい。)

★買い出し女の死

人の命はいつ果てるともいざ知らず
瞬時に散りし一人の女
戦死せる良人^{あつと}にかは(わ)り子を育つ母は
今この鉄路に散れり
声あげて泣きくづれしも死体をば西新井駅に残して走る
リュックの重み からだに耐へ^(え)かねて
線路に落ちぬ買い出し女

★新聞紙一枚敷きてごろ寝する浮浪児は

もういびきかき^(い)る

★国敗れ乱れし時ぞ その民のまことの力は知るるものを



墨塗り教科書

「国民学校 初等科国語五」

(新庄ふるさと歴史センター所蔵史料『新庄市デジタルアーカイブ』より)

ポツダム宣言(パネル⑦参照)に基づいて教育の民主化も図られました。これに反すると思われた箇所は、教師の指導の下で子供たちが墨塗りをしたものがこの教科書です。

写真の教科書では、墨で塗られた部分には次の記述がありました。

- ・動員の第一夜なり明けやすき
- ・敵前に上陸すなり秋の雨
- ・突撃を待つ草むらに虫すだく

墨塗りの経験をした当時女学校生徒だった人は、「なにこれ。今までのは何だったの? 私たちはダメなことを教わっていたの?」という気持ちになったそうです。

学校での盗難

出羽国民学校では (越谷市教育委員会所蔵資料より)

昭和20年9月10日夜半、教室床下に備蓄していた馬鈴薯(ジャガイモ)約133kgが盗難

越ヶ谷国民学校では (越ヶ谷小学校所蔵「校務日誌」より)

昭和20年10月29日(盗品記述なし)

昭和21年2月23日(電蓄)、3月18日(自転車)、4月26日(ピアノ布カバー)、5月11日(作業着、ズボン下、敷布、手拭い、傘、石鹸、万年筆、クレヨン等)、7月9日(ガラス40枚、布2枚)、7月25日(ガラス2枚)、8月8日(ガラス18枚)、10月1日(ガラス31枚)、10月6日(ガラス64枚)、11月1日(未遂)、11月23日(ガラス20枚)、11月28日(ガラス62枚)、12月1日(ガラス48枚)。

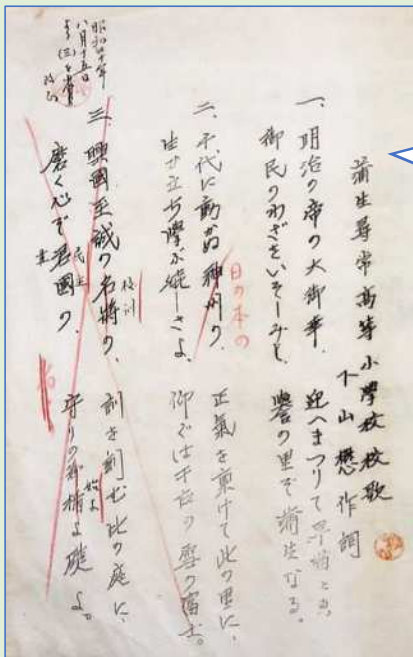
この後、青年団が夜巡回してしばらくは無事。昭和22年2月10日(ガラス36枚)、2月13日(ガラス24枚)、2月21日(ガラス104枚)

学校には毎晩宿直がいるにもかかわらず、以上のように頻りに盗難に遭っていました。

パネル (2) 教育の変革

10

日本を占領した GHQ（連合国軍総司令部）は、ポツダム宣言に基づき教育改革にも乗り出しました。1946（昭和 21）年 3 月、GHQ の要請で来日したアメリカ教育使節団は視察、調査の後にその報告書を提出しましたが、国内ではそれ以前から様々な変革が始まっていました。



校歌の変更（市立蒲生小学校所蔵史料所収）

戦前の学校の校歌歌詞には天皇崇拝や国家主義的、軍国主義的な表現がされたものもありました。終戦直後からいくつかの学校でそういう部分を変更する動きが見られました。

左の史料は当時の蒲生国民学校で歌詞変更の推敲をしたことを示しています。

新教育方針講習 昭和 20（1945）年 11 月 21 日

（『学校経営 出羽国民学校』 越谷市教育委員会所蔵）

（校長が文部省の講習を記録したものを現代文要約）

- ◎昏迷と悲嘆の現状だが、国家の前途を思い終戦詔書を奉戴すると、光明は自ずと明らかになる。
- ◎教育の本義
 - ・終戦詔書が拠り所
 - ・ポツダム宣言とマッカーサー指令
 - ・文部省の指示
 - ・国民の実態を把握し、これに応じて
- ◎皇国としての教育……制限下でも皇国の理想を求める教育であるべき。国体護持なくして民力回復なし。
- ◎今後の教育
 - ・軍国主義を教育のあらゆる面から払拭する。
 - ・個性の発達。自由尊重。
 - ・科学教育の振興
 - ・勤労教育の強化。体育の尊重。
 - ・女子教育、青年教育、社会教育

終戦直後の変革の動き

（『越ヶ谷国民学校 校務日誌』より 市立越ヶ谷小学校所蔵）

昭和 20 年 11 月 21 日 教育講話 浦和出張 校長
 昭和 21 年 1 月 12 日 修身、国史、地理教科書回収
 6 月 19 日 進駐軍教育民生部メイ中尉来校して教室巡視
 7 月 30 日 新教育講習会（31 日まで）
 11 月 29 日 新憲法講習会
 昭和 22 年 1 月 10 日 「くにのあゆみ」（戦後初めて編集発行された歴史教科書）読み合わせ

上記の講習会は同年 9 月 15 日に文部省から出された『新日本建設ノ教育方針』に基づいて埼玉師範学校（現埼玉大学）で開催されたものです。これには「今後ノ教育ハ益々国体ノ護持ニ努ムルト共ニ軍国的思想及施策ヲ払拭シ平和国家ノ建設ヲ……」とあります。そして 9 月 20 日には『文部省通牒 第 1 回指令』で「教科書中、削除又ハ取扱上注意スベキ基準」を挙げ、各学校ではこれに基づいて教科書の墨塗りが行われました。

こうしたことの後、GHQ は 12 月 31 日に『修身、日本歴史及ビ地理停止ニ関スル件』を発して、これらの教科書回収となりました。

アメリカ教育使節団報告書（第一次）昭和 21（1946）年 3 月 31 日

（国立国会図書館デジタルアーカイブ及び同書名の図書（講談社学術文庫）より）

書かれた形の日本語は、学習上の恐るべき障害である。日本語はおおむね漢字で書かれるが、その漢字を覚えることが生徒にとって過重な負担になっていることは、ほとんどすべての識者が認めるところである。初等教育の期間を通じて、生徒たちは、文字を覚えたり書いたりすることだけに、勉強時間の大部分を割くことを要求される。

生徒たちは、民主的な市民となるに必要最低限の言語能力に、小学校を卒業した時点ではまだ欠けているだろう。

本使節団としては、いずれ漢字は一般的書き言葉としては全廃され、音標文字システムが採用されるべきであると信ずる。

本使節団の判断では、仮名よりもローマ字のほうに利が多いと思われる。さらに、ローマ字は民主主義的市民精神と国際的理解の成長に大いに役立つであろう。

この報告書が出された後に第 2 次使節団が来日した際、日本の国語学者との間に激しい論争があったそうです。そこで国語研究所は GHQ と共催で昭和 23（1948）年に全国の老若男女 17,000 人に漢字テストを行ったところ、90 点満点で平均点が 78.3 点だったことから、日本人の識字率は高いと判断されて漢字全廃は免れ、補助的な文字としてローマ字学習を取り入れたという経緯がありました。（保阪正康『昭和史の核心』PHP 新書（他））



文部省検定済ローマ字教科書『WATAKUSHITACHI NO GAKKO=SHINBUN』昭和 24(1949)年 12 月 20 日発行

新制中学校の誕生

『アメリカ教育使節団報告書』に基づいて、昭和 22（1947）年に市域に 11 校の新制中学校が誕生しました。当初は校舎もなく、近くの国民学校改め小学校の教室で二部授業を行う状況でした。発足当初の中学校建設費は右のように捻出されました。（越谷市教育委員会所蔵）

	村立出羽中学校	村立荻島中学校
場 所	出羽小の北側	元荒川流域
建設費	村税・村債	1,200,000 円
	国庫支出金	1,937,130 円
	寄付金	1,553,095 円
	計	4,690,225 円
生徒数(昭和 22 年)	122 名	115 名

中央中学校:昭和 34（1959）年←越ヶ谷中学校+大沢中学校

（写真は中央中学校所蔵）



越ヶ谷中学校



大沢中学校

東中学校:昭和 32（1957）年←増林中学校+大相模中学校

（写真は東中学校所蔵）



昭和 33 年頃の
東中学校



不動橋の下から土を運んで、校庭に土盛り作業



校庭から見た不動橋

西中学校:昭和 38（1963）年←荻島中学校+出羽中学校

（写真は越谷市教育委員会所蔵）



荻島中学校
（現在文教大学がある場所）



出羽中学校

出羽小学校

南中学校:昭和 35（1960）年←蒲生中学校+川柳中学校

（写真は南中学校所蔵）



蒲生中学校



学級会

学級会は戦後の教育民主化の一環として教育課程に位置付けられました。

北中学校:昭和 35（1960）年←新方中学校+桜井中学校+大袋中学校

（写真は北中学校所蔵）



新方中学校
全校生徒の外での朝礼風景です。
今ではあまり見かけなくなりました。



桜井中学校



（旧）大袋中学校

(3) 人間性回復を求めて

「越ヶ谷文化連盟」の活動

無条件降伏から2ヶ月後の昭和20年(1945年)10月17日、越ヶ谷町役場から越ヶ谷国民学校に「英語講習」に関する電話がありました。という筋からどう内容のものだったのかは不詳ですが、2日後の午後7時30分から同校で講習会が開かれました。その後、週に2、3回の頻度で開催されています。

これが「越ヶ谷文化連盟」の一つになった団体かは不明ですが、12月になると「青年演芸練習」も午後7時から活動するようになりました。

翌21年(1946年)1月20日(日)午後1時から「文化連盟懇談会」が開催されています。この年、4月には「弁論大会」が開かれ、5月になると連盟の活動が急激に増加しました。のべ回数と活動した団体は次の通りです。(『越ヶ谷国民学校 校務日誌』より)

★昭和21年度＝101回 ★昭和22年度＝71回

- ・英語講習 ・弁論部 ・音楽会 ・レコード鑑賞 ・楽団 ・野球
- ・座談会 ・伊藤久雄講演会 ・幻燈映写会 ・読書会 ・ダンス部
- ・市川房枝女史座談会 ・演劇部 ・軽音楽 ・総会 ・役員会

長い戦争の間、物質面だけでなく精神的にも閉塞感が人々の間に広がっていたのでしょう。これらの文化活動が一斉に湧きあがりました。

しかし昭和22年秋のカスリーン台風の後には1か月活動ができず、また別の道に進む人や発展的解消をするなどして、23年頃には徐々に収束していきました。

越ヶ谷町へのエール

作家・野口富士男『越ヶ谷日記』より

一月十八日

△散歩をして、生活社版の「日本叢書」の柄内吉彦

「若菜頌」、入沢達吉著「赤門懐古」の二冊を買って来る。その途次、ノムラ医院の近くにある薬局の前に、「越ヶ谷文化聯盟」というポスターの貼られているのに気がついたので、近よっていつて規約を読んだら、会員持ちよりの図書を基礎にして、国民学校の図書室を借りて一般に閲覧せしめること、会員同志で、中央公論、改造、新生、世界、人間、蛭雪時代などの新刊雑誌を回読すること、郷土史の研究などを眼目しているらしい様子。地方も、次第に文化にめざめてゆく姿を見て結構なことだと思った。よい芽よ萌えよ。

これは昭和21年(1946年)早々のことです。文中の「国民学校」は現在の市立越ヶ谷小学校のことです。地方の一町でも健康的な文化が醸成されていく動きに、文学者として応援のエールを発してくれたのでしょう。

町の文芸誌『草笛』の編集・発行

越谷市域は近世から文学活動が盛んな地域でした。近代になってからも短歌やエッセイの作品が多く作られ、戦前にも文芸誌も発行されました。戦争が激しくなってからはそういう営みも途絶えていましたが、戦後すぐに活動が始まりました。その中に文芸誌『草笛』もありました。

同誌には会員の短歌や俳句、詩、評論などが投稿され、互選によって掲載されました。豊かな自然、生活の営み、家族愛、世相などが表現されています。



(越谷市教育委員会所蔵)

終戦後の学芸会

学校の学芸会は戦前から行われていましたが、越ヶ谷国民学校では終戦半年後にはもう開催されました。「学芸会」という名称は最近では聞かれなくなりました。「学芸」は「学問と芸術」ということですが、欧米では「リベラルアーツ」の伝統があります。日本の学校では様々なジャンルにわたって児童の発表が行われました。演劇や遊戯、演奏(歌唱、器楽)の他に朗読、弁論、実験、手品、演舞などがありました。全学年の児童が参加しました。

戦前と戦後のプログラムを比較すると、変化が見られます。戦前には神話や軍隊に因んだものが多かったのですが、戦後にはそれらはなくなりました。左のプログラムは昭和23年(1948年)の越ヶ谷小学校のものです。(越谷市立越ヶ谷小学校所蔵)



終章：“明日”に向かって



越ヶ谷高等女学校併設中学校の生徒

(昭和 22(1947)年 12 月撮影 個人蔵)

服装や履物には終戦前後の社会の様子が表れていますが、女学生の顔には戦争中とは異なる表情もあるようです。

先生の問いかけ「君たちは どう生きる？」

(越ヶ谷高等女学校卒業生の手記及び聞き取りより)

日本の無条件降伏から 1 ケ月 経った日、越ヶ谷高等女学校の美術の先生が生徒たちに語りかけました。

- ★日本はどうして敗けたと思う？
→ (生徒)・私たちの働き方が不十分だったから。
・アメリカと日本の生産力の違い。など
- ★平和国家建設のために大事な事は、
・仲良くすること ・助け合うこと
・勤勉であること ・信用を得ること

あの日から 78 年経った今、卒寿の教え子たちの胸中には、この美術の先生の言葉が今なお大切にされています。

越ヶ谷高等女学校は昭和 23 (1948) 年 4 月に新制の越ヶ谷女子高等学校となりました。義務教育としての新制中学校は昭和 22 年に発足したので、昭和 20 年に高等女学校に入学した生徒は同校併設中学校生徒となりました。左の写真はその年末に撮られたものです。



明石 繁三「春寒」油彩50号
(越谷市立図書館蔵)



「校庭」水彩(個人蔵)
越ヶ谷高等女学校の併設
中学校生徒作品

左の2枚の絵画は共に終戦後間もない頃、同じ季節の制作と思われます。左は美術教師の作品です。
戦争末期の越ヶ谷高等女学校では、美術の授業はほとんど行われなくなりました。長い戦争が終わって描かれたこれらの作品からは、肌寒さが残る中にも柔らかな陽光の温もりを感じさせます。



「思い出の旧学舎」(個人蔵)
この絵の制作者は越ヶ谷高等女学校入学から併設中学校生徒となり、さらに越ヶ谷女子高等学校の生徒として卒業と、同じ校舎で6年間過ごしました。そこでの生活を大切にしようとして二〇一四年に描かれた作品です。

カスリーン台風の爪痕

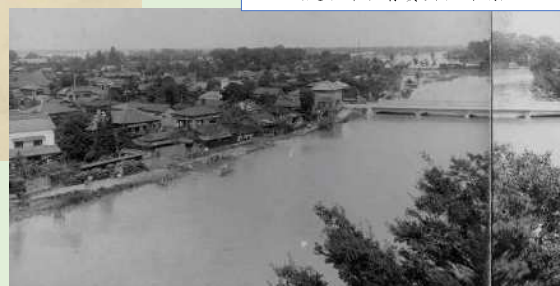
占領下の昭和 22 (1947) 年 9 月 16 日午前 0 時 20 分に利根川堤防を決壊させた洪水は、17 日から 18 日にかけて越ヶ谷に達しました。

越ヶ谷小学校では 17 日から授業は 1 時間で切り上げられ、被災者避難のために講堂を提供しました。(同校「校務日誌」)大沢小学校では 9 月 28 日まで臨時休校となりました。(同校「沿革誌」)



浸水した越ヶ谷女子高等学校付近
(個人蔵)

水が引き始めた元荒川と大澤町
(越谷市教育委員会所蔵)



③レイクタウン防災フェス2023 関連事業
『阿鼻驚嘆からの再起』
関東大震災と越谷

①

防災フェス 2023

『阿鼻叫喚からの再起』

関東大震災と越谷

ご 挨 拶

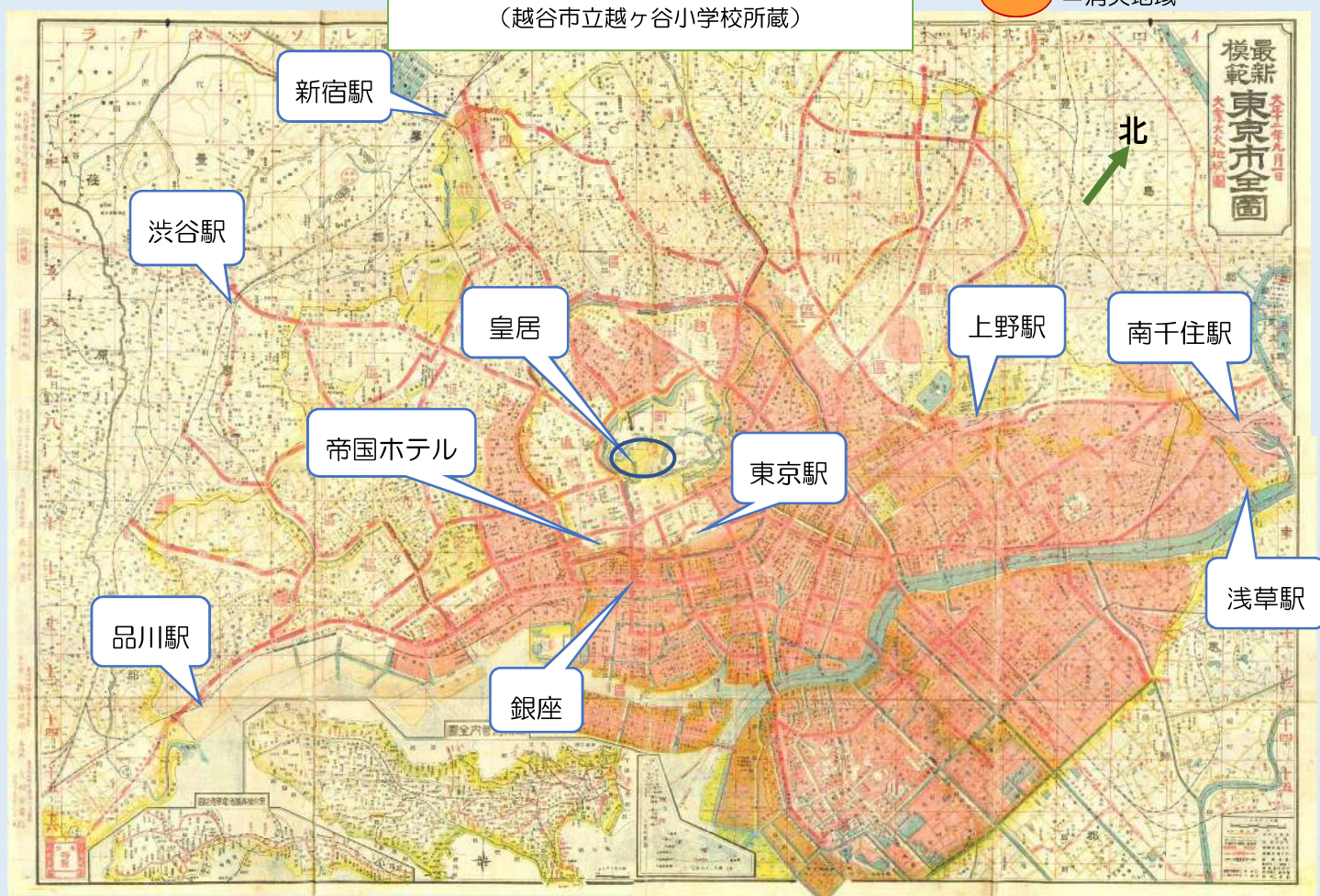
旧東方村中村家住宅にようこそお出で下さいました。この建物は江戸時代の安政大地震（1855年）や大正時代の関東大震災（1923年）など、いくつもの地震に耐えてきました。当家の人の中にはこの両方の地震を体験した人もいました。

遠くない将来に、関東から東海、南海にかけて巨大地震が想定されています。今こそ、私たちは先人の経験から様々なことを学びたいと考え、この展示を企画しました。

越谷市教育委員会

『大震大火地域図 東京市全図』
(越谷市立越ヶ谷小学校所蔵)

○ = 消失地域



関東大震災全体の状況（『理科年表』等による）

- ◆発 生：大正 12 年（1923 年）9 月 1 日 午前 11 時 58 分
- ◆規 模：マグニチュード 7.9 ◆震源（余震も含む）：神奈川県西部、相模湾、東京湾、山梨県東部
- ◆震 度：東京 6～7，熊谷 6，長野・浜松 5，福島・名古屋 4
- ◆死傷者：約 105,000 人 ◆全焼家屋：約 212,000 棟 ◆全壊家屋：約 109,000 棟

②

戒厳令・勅令の発布

このパネルの史料は『越谷市近現代資料』として所蔵されているものです。

【各町村・人々への発令】

月日	発令者	内 容
9.2	郡、警察	㉑不逞鮮人の不逞行動を警戒せよ。
9.3	戒厳司令官	㉒戒厳令発令：不逞団体蜂起の事実を誇大流言禁止する。
9.4	郡、警察	不逞鮮人潜入は㉓流言蜚語なので善良者は保護すること。
9.5	戒厳司令官	千葉、埼玉にも戒厳令拡張。
	警察署長	県下に戒厳令布告 →右史料 A
9.6	郡	朝鮮人への誤解をさせぬようにすること。
	村長	県民の自重を望む。朝鮮の人に乱暴しないようにせよ。(上記の郡からの通達を村民に知らせた文書) →右史料 B
9.7	天皇	㉔緊急勅令 →右史料 C
9.8	村長	村民に緊急勅令を周知させるように。(各区長に指示)

【 註 】

- 【ア】：不逞鮮人（ふていせんじん）
悪いことをする朝鮮人という意味で、当時はこのような差別的な表現をしていました。
- 【イ】：戒厳令（かいげんれい）
一定期間、立法、行政、司法の権限を軍隊に与える仕組み。戦前の政治では認められていました。
- 【ウ】：流言蜚語（りゅうげんひご）
根拠のない間違った情報。デマ。
- 【エ】：緊急勅令（きんきゅうちょくれい）
法令に代わるものとして、議会を通さずに発布できる天皇の命令です。天皇大権の一つでした。

大災害による大きな被害と混乱の中で、人々が恐怖や不安になっていたことは、配布資料の村役場吏員の記録からもわかります。

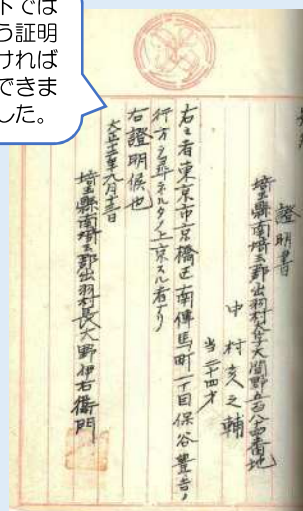
そういうパニックの下で悲惨な出来事も関東各地で起きました。ここに示した史料からは、当初は行政機関も正しい情報がつかめなかったことと、その後は何とか事態を鎮静させて、一時も早く復興に向かっていこうとする様子が見えます。

現代ではSNSなどの優れた機器によって短時間で大量の情報を伝達することができますが、同時にその弱点も日頃から意識する必要があることを、過去の出来事は教えています。

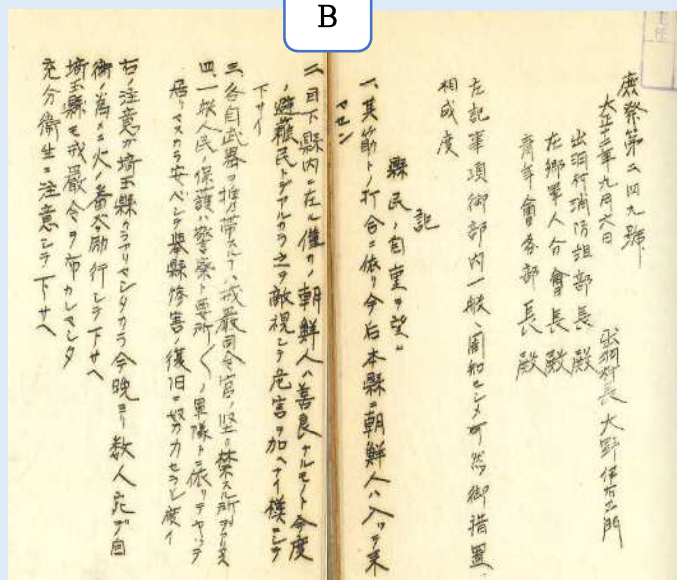
A



戒厳令下では
こういう証明
書がなければ
移動ができませんでした。

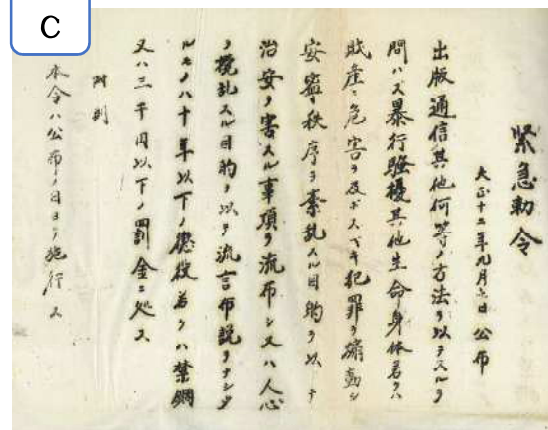


B



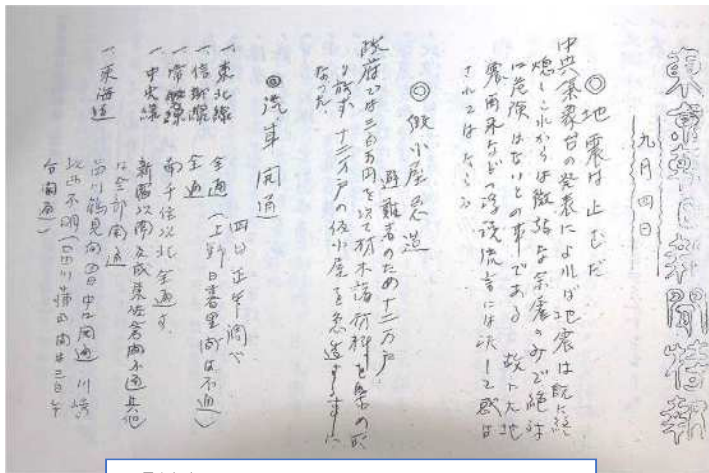
9月3日午後5時頃、浦和方面から出羽村に見知らぬ人が通りかかったので地域の人が声をかけたところ、要領を得ない様子だったので、万一のことを考えて警察官に引き渡したら朝鮮の人と判明し、暴行に遭わせないように保護したという記録があります。

C



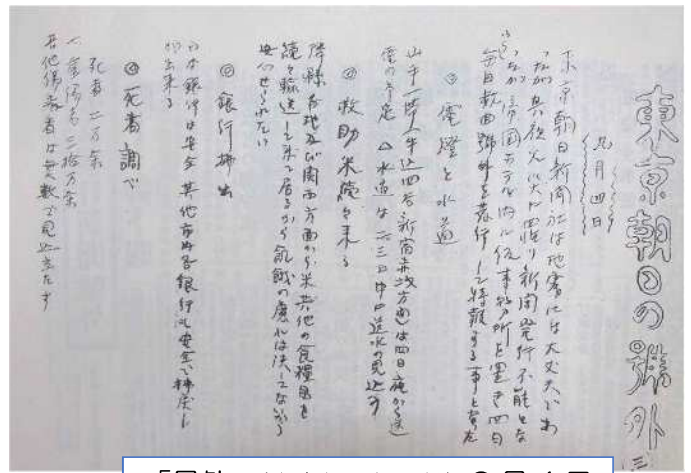
③

記者魂、駆ける



「特報」(東京朝日新聞社) 9月4日

(『朝日新聞 復刻版』135 より)



「号外」(東京朝日新聞社) 9月4日

(『朝日新聞 復刻版』135 より)

「一刻も早く伝えなければ！」

新聞記者たちは状況を一刻も早く人々に伝えようと、東奔西走していました。東京朝日新聞社の様子を『朝日新聞社史』から抄出してご紹介します。

9月1日(土)

- ◆11:58 発生。通信部長「号外出せるか?」と叫ぶ。
活字箱が崩れていたため、大きさがまちまちの活字を集めて号外第1号を300部印刷、新橋方面で配る。
- ◆19:00 本社ビル類焼。社員は皇居前広場に避難。
- ◆大阪朝日新聞社への連絡急務のため、4つの班が向かう。
第1班：東海道線沿いに徒歩で横浜に向かうが引き返す。3日未明に横浜港から出る船で大阪着5日。
第2班：中央線沿いに徒歩で甲府に2日深夜着。鉄道電話で名古屋通信部に連絡。そこから大阪に連絡。
第3班：被災現場写真の束を持って八王子まで車で行ったが相模川鉄橋が落ちていたので泳いで渡る。そこから徒歩で平塚着2日正午。さらに歩いて途中仮眠。御殿場手前で車に乗ることができた。近くの駅から汽車に乗り、大阪着4日(火)8:30。

9月2日(日)

- ◆第4班が北陸線沿いに大阪を目指した。
- ◆帝国ホテルに仮事務所を設置。
- ◆7:30 記者を自転車で浦和通信部に行かせ、そこから車で新橋通信部まで行かせて各地に打電。
- ◆大阪朝日新聞社から各地からの伝聞情報を夕刊に掲載。

9月3日(月)

- ◆前橋に行った記者からの視察記を大阪朝日新聞社朝刊で報じた。

9月4日(火)

- ◆東京朝日新聞社が帝国ホテルで作成した手書きで謄写版印刷の号外(上の写真)を発行。
- ◆用紙や輪転印刷機、インクなどの確保に奔走する。8日には片面刷り号外を発行できるようになる。

9月12日(水)

- ◆4ページの朝刊を発行。

この間、大阪からも記者が関東方面を目指していました。

当時の天候

(「関東大震災調査報告(気象篇)」(中央気象台)及び気象庁、国立情報学研究所の資料からまとめたもの。)

台風が9月1日の朝6時には加賀(石川県)西方海上にあり、(中略)長野付近でフェーン現象が発生。その後台風は新潟の東に移動。14時過ぎ宇都宮で寒冷前線通過、降雨。

東京では正午頃南南西12.3mの風。16~18時、前線は東京を通過して風向急変、その後、火災旋風発生。

自らも被災し、様々な困難な事柄を解決しながら大震災の状況を把握して伝えようとする新聞記者の精神と行動には驚くばかりです。

当時は偶然にも加藤友三郎内閣が倒れ、山本権兵衛が組閣するタイミングでもありました。政治の空白が生まれそうな時、新聞記者の活動によるこれらの報道は救援や復興に大きく役立つことになりました。

④

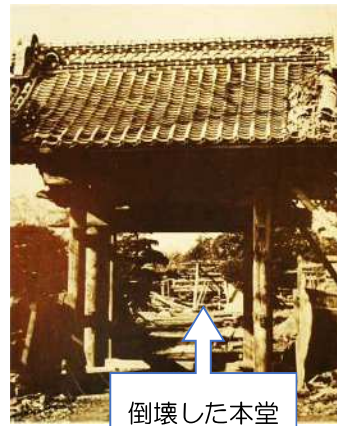
市域の状況

こうしょういん 迎攝院の倒壊

(白黒写真は迎攝院所蔵)



震災前の本堂



倒壊した本堂



現在の山門と本堂

迎攝院は16世紀中葉の開山で、古くから四丁野（現・宮本町）の人々の拠り所の一つでした。関東大震災では当院の伽藍の多くが倒壊してしまいました。本堂が再建されたのは昭和41年（1966年）で、実に40年以上もの年月が経っていました。このことについて、ご住職は次のように語ってくださいました。

「大震災後は戦争も拡大して、檀家からも多くの人が出征して人口が減りました。戦後も復興に時間がかかり、ようやく高度経済成長の頃に人も増え、経済も上昇して支援して下さる方々も多くなって再建が叶えられました。」

同年九月一日午前十一時五十八分、地震。東地有。木曾町。大震災。起。本村。半壊。百五十戸。死者七名。負傷者。数十名。出。火。當。破。損。甚。く。倒。壊。す。部。破。損。甚。く。見。金。全。消。八。九。半。消。す。南。境。六。職。金。全。消。一。半。消。一。新。建。計。画。中。九。月。一。日。復。業。開。始。す。

学校沿革誌に記された大震災

市立羽根小学校沿革誌より

市立大相模小学校沿革誌より

九月一日、日本に空前の大地震。朝来、雨。校庭に出たら、校舎が38度の傾斜。ガラスや壁が崩れる音が物凄しい。

九月五日、校舎応急修理。傾斜を起し屋根葺き替えにより、全児童仮教場から移り、完全に授業開始。

九月六日、県視学が震災後の状況視察に来校。

九月七日、郡長が震災後の状況視察に来校。

九月八日、修理完了。工費1000円也。

九月九日、救恤（救済）品配給された。雑記帳75冊、半紙45帖、毛筆30、鉛筆40ダース、慰問袋大4、その他。

九月十日、第二次救恤品配給。教科書56、雑記帳889、掛図10、地図3幅、謄写版、オルガン、解剖器具、裁縫用具、虫眼鏡10、小黑板10、その他。

九月十一日、救恤金196円7銭が村に送金された。

九月十二日、救恤金を罹災児童と収容児童の保護者に渡す。

学校現場のドキュメント【現代語要約】

(市立大相模小学校沿革誌の記述)

9.1 【震災当日】

始業式だが朝からの豪雨で出席少ない。午前11時52分、突如大地震、上下激動、足の踏む所を知らず。漸く校庭に出たら、校舎が38度の傾斜。ガラスや壁が崩れる音が物凄しい。

9.2 15日まで臨時休業。

9.6 震災善後策のため郡校長会。

9.16 本日より仮教場（大聖寺、観音寺、金剛寺）で授業開始。

9.25 校舎応急修理（傾斜を起し屋根葺き替え）により、全児童仮教場から移り、完全に授業開始。

9.30 本日までに収容した東京からの避難児童は31人。

10.3 県視学が震災後の状況視察に来校。

10.4 郡長が震災後の状況視察に来校。

11.6 修理完了。工費1000円也。

11.28 救恤（救済）品配給された。雑記帳75冊、半紙45帖、毛筆30、鉛筆40ダース、慰問袋大4、その他

1.31 第二次救恤品配給。教科書56、雑記帳889、掛図10、地図3幅、謄写版、オルガン、解剖器具、裁縫用具、虫眼鏡10、小黑板10、その他

6.18 救恤金196円7銭が村に送金された。

6.21 救恤金を罹災児童と収容児童の保護者に渡す。

各学校沿革誌からは日常生活をとりもどすまでに何日もかかったことや、東京から避難児童を受け入れたこと、支援物資が届けられたことなどが記されていて、子供たちも心身が傷つきながら復興を目指したことが伝わってきます。

⑤

復興に向かって

(1) 越谷市域の被害状況一覧

被害状況は地域によって一様ではありませんでした。このことは当時の尋常小学校沿革誌にも差異が見られることが今回の調査でも確認されました。記述が多く具体的だったのは、やはり被害が大きかった村の小学校でした。

＊負傷者の中には後日亡くなられた方もおられました。

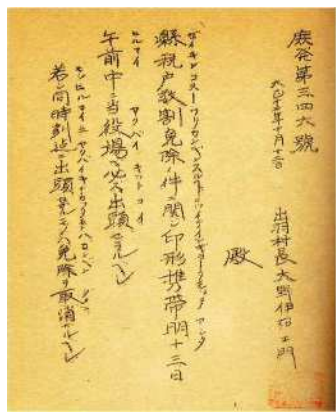
＊倒壊（全壊・半壊）はこの他に蔵や納屋、寺社もありましたが表に含まれていません。

町村	即死	負傷	全壊	半壊
桜井	0	0	68	35
新方	0	0	13	14
増林	0	4	36	37
大袋	1	2	44	22
荻島	0	3	33	15
出羽	7	24	151	41
蒲生	5	4	14	9
大相模	5	25	61	15
川柳	1	4	21	3
越ヶ谷	0	0	18	59
大沢	0	0	20	4
計	19	66	479	254

(『越谷市史 五』より)

(2) 税減免の要望

(『越谷市近現代資料』より)



各町村から郡（県）には税金の免除が要請され、郡や税務署からは被害状況や資産状況の照会状が届きました。出羽村では税免除を求める署名と嘆願書が出されましたが、左の史料はその際に希望者は出頭して署名や申請をするように通達した文書です。文言の右側にある小さなカタカナ文は地域の言葉に直して分かりやすくしたもので、以下のように書かれています。被災した人への役場の人の細やかな心遣いが表れています。

戸数割の税金を^{かんべん}勘弁（免除のこと）することについて、印形（いんぎょう＝印鑑）持って、あした昼前、役場にきっと来い。もし昼前に役場に来（き）なかったら勘弁（免除）はダメだ。

(3) 救援物資の要請と分配

(いずれも『越谷市近現代資料』より)

A：県（郡）への要請

(『越谷市近現代資料』より現代文に要約)

謹啓 ご政務ご多用の節に大変恐縮ですが、次の必需品を至急お願い致します。

※ 3000 枚 一戸当たり 15 枚ずつ
200 戸分

用途 倒壊倉庫の防火、雨漏り防止のため。

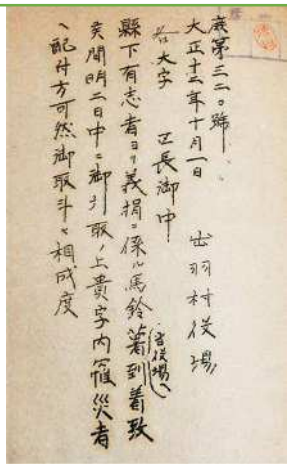
理由 震災で倒壊した農家は急設のバラックを建てて雨露を凌いでいますが、秋の収穫期となって連日の降雨となって困っています。せっかく日に干して乾燥させた稲も、取り込む所が皆無です。仕方なく縄をなっている状態で、刈り取り時期を失しては品質を落として多大な損失をしてしまう状態です。現在、蓆などを用いて防ごうとしています、火災になっでは取り返しがつかないので、不燃材のものに取り替える必要があります。

10月9日

出羽村長 大野伊右衛門(印)
南埼玉郡長 岡 利和 殿

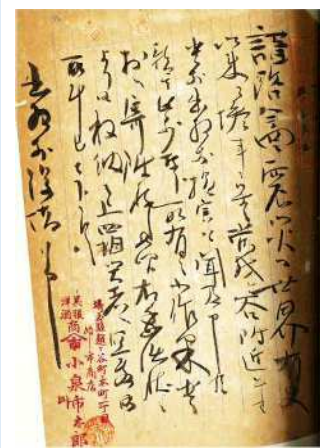
B：馬鈴薯（ジャガイモ）の配給

県内から寄せられた馬鈴薯を各区ごとに配分するので役場にとりくするように通知しています。



C：小作米の寄付

比較的被害が少なかった越ヶ谷町の人々が、市域で最も被害が大きかった出羽村に小作米寄付を申し出ている文書です。



史料中の「※」は9月に一度要望されて、各戸に5枚ずつ、74戸分が配られましたが、その後天候不安定などもあり、かなり不足したようで、さらに3000枚が必要だと訴えています。文面からはとても窮迫している様子が読み取れますが、これが実現したか否かの史料は見当たりません。「※」は現代ならブルーシートということになるでしょうか。(この答(品物)は当館の中に掲示してあります。)

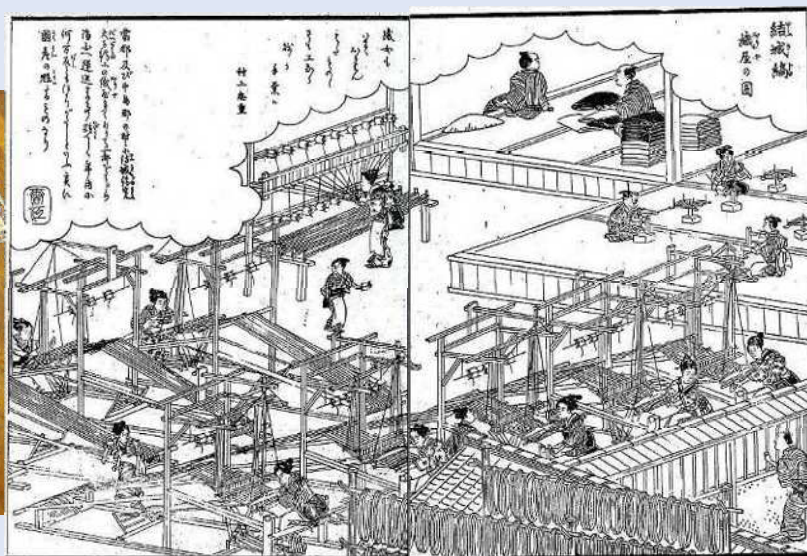
④レイクタウンエコウィーク 関連事業
「棉・棉」

エコウィーク2023 棉・糸帛

越谷市教育委員会



現代の綿製品



『尾張名所図会 後編巻5 葉栗郡』より「結城縞 織屋の図」

(国立国会図書館デジタルコレクションより 一部改)

分業と協業によって、綿糸から綿布を生産している場面です。江戸時代中期からこのような工場制手工業の方法で綿製品を生産する仕組みが広がっていきました。

人類の進化と衣服には密接な関係があります。その中でワタの普及は、わが国では意外と新しい時期でした。

ワタは「棉」や「綿」の漢字が用いられます。この植物はどのように生育し、私たちの生活にどのような影響をもたらしたのでしょうか。先人たちの残したものから、現代や将来の生活を考えてみたいと思います。

Q クイズ: 次の民具のうち、「綿」に関連のある物はどれでしょう。→答えは展示の中にあります。

A



B



C



棉の生長過程

和 棉

洋 棉

破裂：一枚の葉が手の平のようになっている葉。
和棉と洋棉ではその深さが異なります。



葉裂が深いのが特徴です。

葉の生長



破裂は和棉より浅いのが特徴です。

双 葉



芽 発



棉はアオイ科なので、ハイビスカス、オクラ、芙蓉などの花とよく似ています。



開 花

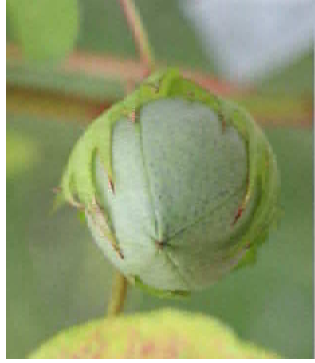


花は黄色や白色が多いです。白色の花の中には、夕方に紅色に変化するものもあります。

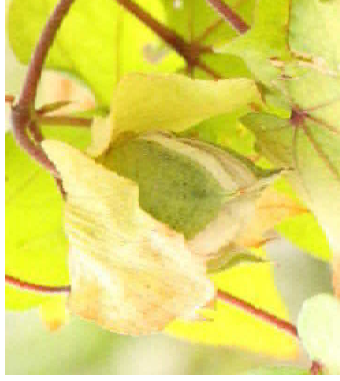


実が下向きにつきます。

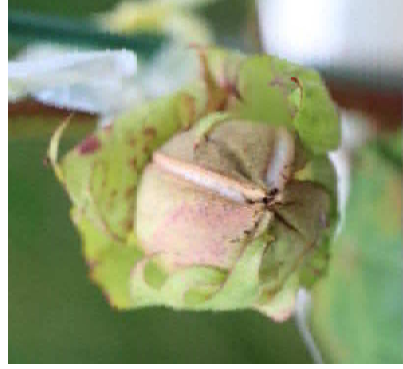
結 実



実が横向き又は上向きにつきます。



開 裂



綿毛が下向きに垂れ下がります。

綿毛露出



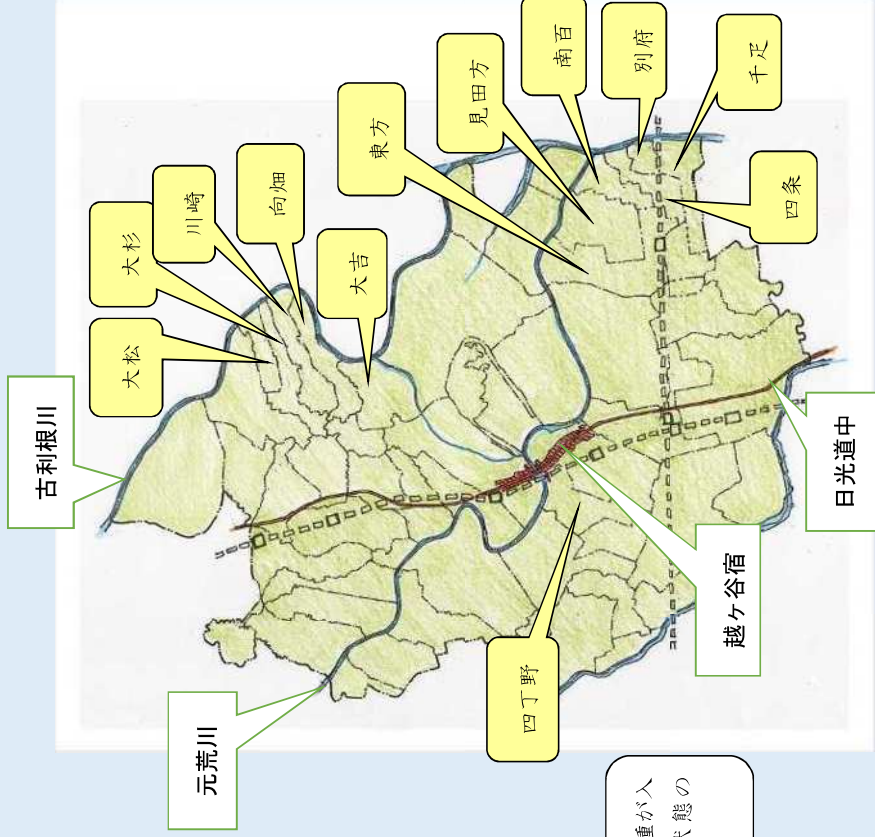
綿毛は上向きです。

明治期

市域での棉（綿）生産

村名	人口			生産量 (1貫目≒3800g)
	男	女	計	
千足	170	163	333	綿 65 貫目
別府	35	33	68	綿 25 貫目
四條	104	95	199	綿 50 貫目
南百	92	87	179	綿 17 貫目
見田方	161	174	335	綿 900 貫目
東方	314	343	657	綿 13.6 貫目
四丁野	205	206	411	木綿布 910 反
大吉	82	106	188	実綿 81.25 貫、木綿布 300 反
向畑	182	204	386	綿 420 貫目
川崎	139	140	279	実綿 120 貫目、木綿布 120 反
大杉	100	100	200	実綿 96.18 貫目、木綿布 350 反
大松	63	50	113	実綿 88 貫目、木綿布 80 反

「実綿」は種が入
っている状態の
綿花です。



この資料は『武蔵国郡村誌』に記述されているもので、明治8年（1875年）以前の状況を示しています。当時の桜井村の史料には、明治中期までは綿の生産が行われていた記録があります。綿以外の繊維として、苧麻（「ちよま」または「からむし」：イラクサ科の多年草）や生糸も生産していました。

棉栽培が行われていた地域は、自然堤防上の畑だったと思われます。

綿の伝来

種類と起源（『世界有用植物事典』平凡社、『人文地理学辞典』朝倉書店 等による。）

いずれも数千年前からの生育起源があります。

- ◆リクチメン（陸地棉）・・・中米（メキシコ付近）起源。現在、世界の綿の70%を占めています。
- ◆カイトウメン（海島棉）・・・南米（ペルー付近）起源。エジプト綿もこの一種。
- ◆アジアメン（アジア棉）・・・この中でキダチワタ（木立棉）はインド起源。シロバナワタは西アジア～インド起源。日本へはこのアジアメンが伝来。

8世紀に東南アジアから日本に漂着した人が初めてもたらしたとの記録があります。（「類聚国史」、「大日本史」）その後しばらくは根付きませんでした。16世紀（戦国末期）から少しずつ栽培、綿布生産が行われるようになりました。そして江戸期には干鰯^{ほし か}や油粕^{あぶらかす}などの金肥^{きん ひ}が流通するようになったこともあり、綿は急速に普及していきました。

綿の特徴と効用

- *アオイ科ワタ属の植物です。
- *花の色は白色や黄色です。白色の花の中には、夕方に紅色に変化するものもあります。
- *発芽してから収穫までに5ヶ月くらいかかります。
- *綿布は麻布よりも保温性に優れています。布団には、綿の普及前は藁や麻くずなどを入れていました。
- ★当時の農学者・宮崎安貞は著書「農業全書」（17世紀末・元禄期）の中で次のように書いています。

古木綿が行き渡らない時代には、多くの人が麻布の服だったので、冬の寒気を防ぐことが困難で困苦にたえなかった。幸いにも綿布を作るようになって体をおおうことができるようになり、誠に天恩のなすところであり、綿は天下の靈財（自然の恩恵を受けた尊い財産）というべきものである。

宮崎安貞の言うように、綿の服や夜具が庶民にも普及していくことで、人々の健康維持がそれまでよりも行いやすくなっていきました。さらに綿花や綿布はリサイクルされ、人々の生活に欠かせないものとなっていきました。

- *その後、明治期まではわが国でも盛んに生産されて近代産業を支えましたが、次第に安い外国産の輸入が多くなって、現代ではほとんど自給できなくなりました。けれども近年は研究用や試験栽培、観光用などで栽培している所もあります。

言葉で表す「綿」

単語の意味

(『広辞苑』(岩波書店)他 より)

- * 「棉」・・・「木」＋「帛(「きぬ」または「しろぎぬ」)」の意。特に「綿」の実をつける植物(木)を表す際に用いることがあります。
- * 「綿」・・・一般的に“ワタ”を指す言葉です。特に「綿毛」や「綿花」の意で用いられます。また、この文字には次のような意味もあります。
 - ◆ 「まとわりつく」→「綿密」
 - ◆ 「連なる」(綿糸のように細長く続く)→「連綿」、「綿々」
- * 「木綿」・・・「もめん」：綿毛のこと。あるいは綿糸、綿布のこと。
- * 「木綿」・・・「ゆう」：^{こうき}楮の皮を蒸して水に浸して裂き、糸にしたもの。
- * 「真綿」^{まわた}・・・植物の棉(綿)ではなく、^{かいこ}蚕の繭^{まゆ}を引き延ばして作った綿状のもの。

慣用句

(『広辞苑』(岩波書店)他 より)

- * 「綿のように疲れる」・・・甚だしく疲労すること。
- * 「土用綿入に 寒帷子」^{かたびら}・・・物事が逆さまであること。季節はずれで役に立たないたとえ。
(帷子：^{ひとえ}単の着物)

俳句

- * 綿の実を摘みみて うたふこともなし(加藤楸邨)・・・楸邨は昭和4年(1929年)に粕壁中学校(旧制)に教師として赴任しました。この句はその頃の作品です。
(『春日部ゆかりの文化人』より)
- * 綿入や 妬心もなく妻哀れ(村上鬼城)